

iStorage V110/V310/V310F

Asynchronous Replication

ユーザガイド



著作権

© NEC Corporation 2024-2026

免責事項

このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製することはできません。

このマニュアルの内容については、将来予告なしに変更することがあります。

本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売窓口にご連絡ください。

当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

商標類

IBM は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法の規制ならびに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

発行

2026 年 7 月

目次

第 1 章 Asynchronous Replication の概要	1
1.1 Asynchronous Replication とは	1
1.2 形成コピーと更新コピー	3
1.3 差分データの管理	5
1.4 Asynchronous Replication のジャーナルボリュームとは	6
1.5 マスタジャーナルとリストアジャーナル	7
1.6 Asynchronous Replication のペアとは	9
1.7 セカンダリボリュームの書き込みオプション	11
1.8 Asynchronous Replication のミラーとは	11
1.8.1 ミラーの分割	12
1.8.2 ミラーの再同期	14
1.8.3 ミラーの削除	14
1.9 ハードウェアおよびソフトウェアのコンポーネント	15
1.9.1 ストレージシステム	16
1.9.2 Asynchronous Replication のデータパス	17
1.9.3 RAID Manager	17
1.10 RAID Manager のコンシステンシーグループとは	18
第 2 章 Asynchronous Replication の要件	20
2.1 Asynchronous Replication のシステム要件	20
第 3 章 Asynchronous Replication システムの計画	26
3.1 業務でのデータ回復の要件の検討	26
3.2 リカバリポイント目標の決定	26
3.3 書き込み作業負荷	27
3.3.1 書き込み作業負荷の測定	27
3.4 ジャーナルボリューム準備のための情報	28
3.5 ジャーナルボリュームのサイズ設定	29
3.5.1 ジャーナルボリューム容量の検討	29
3.5.2 ジャーナルボリューム容量の算出	30
3.5.3 ジャーナルの構成を検討する	31
3.6 データ転送速度の検討	31
3.7 ペアボリュームの検討	32

3.7.1 最大ペア数の制限.....	32
3.7.1.1 ペアの最大数の算出.....	33
3.8 災害リカバリの検討.....	34
3.8.1 ホストフェールオーバーソフトウェア.....	35
3.9 Asynchronous Replication と他のプログラムプロダクトとのボリュームの共有.....	35
3.10 シェアドメモリの増設および減設.....	36
3.10.1 シェアドメモリの増設の流れ.....	36
3.10.2 シェアドメモリの減設の流れ.....	36
3.11 Asynchronous Replication システムの準備ガイドライン.....	37
3.11.1 システムオプションモード.....	38
3.11.2 システム詳細設定.....	40
第4章 Asynchronous Replication のデータ転送路の検討.....	42
4.1 Asynchronous Replication のデータ転送路の設計とは.....	42
4.2 Asynchronous Replication のデータ転送帯域の決定.....	42
4.3 Asynchronous Replication が使用するポート.....	44
4.4 Asynchronous Replication の物理パスの計画.....	45
4.4.1 Asynchronous Replication に必要な帯域量.....	46
4.4.2 Asynchronous Replication のファイバチャネル接続.....	46
4.4.3 Asynchronous Replication の接続形態.....	47
4.4.3.1 直結の接続形態.....	47
4.4.3.2 スイッチを使用した接続形態.....	48
4.4.3.3 チャネルエクステンダ（ストレージルータ）を使用した接続形態.....	49
4.4.4 iSCSI を使用するときの注意事項.....	50
4.4.4.1 リモートパスに関する注意事項（iSCSI を使用するとき）.....	51
4.4.4.2 物理パスに関する注意事項（iSCSI を使用するとき）.....	52
4.4.4.3 ポートに関する注意事項（iSCSI を使用するとき）.....	53
4.4.4.4 ネットワークの設定に関する注意事項（iSCSI を使用するとき）.....	55
4.4.5 ファイバチャネルを使用するときの注意事項.....	55
4.4.5.1 リモートパスに関する注意事項（ファイバチャネルを使用するとき）.....	56
4.4.5.2 リモートパスを接続するスイッチのゾーニング設定.....	57
第5章 Asynchronous Replication 構成操作.....	59
5.1 Asynchronous Replication の構成操作の流れ.....	59
5.2 Asynchronous Replication のリモート接続を追加する.....	60
5.3 Asynchronous Replication のジャーナルを作成してジャーナルボリュームを登録する.....	61
5.4 Asynchronous Replication のジャーナルに MP ユニットを割り当てる.....	62

5.5 Asynchronous Replication のリモートレプリカオプションを変更する	62
5.5.1 同時にコピーできるボリュームの数を変更する	63
5.5.2 パスの閉塞を監視する時間を変更する	63
第 6 章 Asynchronous Replication ペア操作.....	64
6.1 ペア操作の概要.....	64
6.1.1 ペア操作時の注意事項	65
6.2 Asynchronous Replication ペアを作成する	66
6.3 Asynchronous Replication ペアを分割する	67
6.4 ミラーを分割する.....	68
6.5 Point-in-Time コピーを作成する	69
6.6 Asynchronous Replication ペアを再同期する	70
6.7 ミラーを再同期する.....	71
6.8 Asynchronous Replication ペアを削除する	71
6.9 ミラーを削除する.....	72
第 7 章 Asynchronous Replication の状態表示.....	74
7.1 Asynchronous Replication ペアの状態を確認する	74
7.1.1 Asynchronous Replication ペア状態の定義	75
7.1.1.1 Asynchronous Replication の PSUS タイプ	78
7.1.1.2 Asynchronous Replication の PSUE タイプと動作	79
7.1.1.3 Asynchronous Replication ペアのサスペンド条件	80
7.2 Asynchronous Replication ペアの一致率を確認する	81
7.3 コピー操作と I/O 統計データ	82
7.4 ジャーナル（ミラー）状態を監視する	82
7.4.1 ミラー状態の定義.....	83
7.5 リモート接続とパスの状態を確認する	83
第 8 章 Asynchronous Replication の保守.....	85
8.1 Asynchronous Replication ペアの保守	85
8.1.1 Asynchronous Replication 障害時のペア分割の範囲を変更する	85
8.1.2 Asynchronous Replication ペアを強制的に削除する	86
8.2 Asynchronous Replication のジャーナルおよびミラーの保守	86
8.2.1 Asynchronous Replication のジャーナルを参照する	87
8.2.2 Asynchronous Replication で使用されるジャーナルのオプションを変更する ..	87
8.2.3 Asynchronous Replication で使用されるミラーのオプションを変更する	89

8.2.4 Asynchronous Replication のジャーナルからジャーナルボリュームを削除する ..	90
8.2.5 ジャーナルボリュームとリザーブジャーナルボリュームを交換する手順の流れ.....	90
8.2.5.1 リザーブジャーナルボリュームを追加する	91
8.2.5.2 リザーブジャーナルボリュームを使って Asynchronous Replication ペアを復旧する	91
8.2.6 ジャーナルを削除する	92
8.3 Asynchronous Replication のリモートパスの保守	92
8.3.1 データ転送の待ち時間を変更する	93
8.3.2 リモートパスを追加する	93
8.3.3 リモートパスを削除する	94
8.3.4 リモート接続を削除する	94
8.4 ペアを維持した DP-VOL の容量拡張	95
8.4.1 Asynchronous Replication ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張する	95
8.4.2 プログラムプロダクトを連携した状態での DP-VOL の容量拡張	99
8.4.2.1 プログラムプロダクト連携時の容量拡張順序の考え方	100
8.4.2.2 ローカルコピーの S-VOL にリモートコピーの P-VOL を連携する構成での容量拡張順序の考え方	101
8.4.2.3 各プログラムプロダクトの容量拡張の前提条件	102
8.4.2.4 Asynchronous Replication ペアと Local Replication を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する	103
8.4.2.5 Asynchronous Replication ペアと Snapshot Advanced を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する	106
8.4.3 DP-VOL 容量拡張時のトラブルシューティング	109
8.4.3.1 Asynchronous Replication ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順	110
8.4.3.2 Asynchronous Replication ペアの片方のボリュームが容量拡張済みで障害が発生した場合のリカバリ	111
8.5 ストレージシステムとネットワークデバイスの電源の管理	112
8.5.1 不測の事態によって正サイトのストレージシステムまたは副サイトのストレージシステムへの電力供給が停止した場合	112
8.5.2 不測の事態によってネットワーク中継機器への電力供給が停止した場合	113
8.5.3 正サイトのストレージシステムまたは副サイトのストレージシステムの計画停止	113
8.5.4 正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムの同時計画停止	114
8.5.5 ネットワークデバイスを停止する	115
第 9 章 災害リカバリ	117

9.1 災害リカバリのための準備	117
9.2 ファイルおよびデータベースのリカバリ	117
9.3 副サイトへの業務の切り替え	118
9.4 副サイトから正サイトへデータをコピーする流れ	118
9.5 正サイトで通常の操作を再開する流れ.....	120
9.6 Local Replication を組み合わせた構成での災害リカバリ	121
第 10 章 Asynchronous Replication のトラブルシューティング	127
10.1 Asynchronous Replication のトラブルシューティング概要	127
10.1.1 Asynchronous Replication のサービス情報メッセージ (SIM)	127
10.1.1.1 SIM の参照コード、種別、および説明	128
10.1.2 Asynchronous Replication の一般的なトラブルシューティング	130
10.1.3 Asynchronous Replication のリモートパスのトラブルシューティング	132
10.1.4 サスペンドの種類に応じた Asynchronous Replication のペアのトラブル シューティング	133
10.1.4.1 SIM の種類に応じた Asynchronous Replication ペアがサスペンドする原 因とその復旧手順	134
10.2 RAID Manager 操作時の Asynchronous Replication のトラブルシューティング	135
10.2.1 ログファイルを利用してのエラー要因の特定	135
10.2.2 RAID Manager の画面に出力されるログでのエラー要因の特定	136
10.2.3 RAID Manager 操作時のエラーコードと内容	137
10.3 お問い合わせ先.....	150
付録 A. RAID Manager コマンドリファレンス	151
A.1 Asynchronous Replication のアクション名と RAID Manager コマンドの対応表	151
A.2 RAID Manager のオプションのパラメータの設定範囲.....	154
A.3 RAID Manager を使用したジャーナルボリュームとリザーブジャーナルボリューム の交換手順	154
付録 B. Asynchronous Replication と他の機能の併用	156
B.1 Asynchronous Replication と併用できるボリューム種別	156
B.2 Asynchronous Replication と Snapshot Advanced の併用	159
B.3 Asynchronous Replication と Virtual LUN の併用.....	159
B.4 Asynchronous Replication と Volume Migration の併用	160
B.5 Asynchronous Replication と LUN Manager の併用.....	160
B.6 Asynchronous Replication と Dynamic Provisioning の併用	160

B.6.1 割り当て済みのページがある、容量削減機能が有効なボリュームをセカンダリボリュームとして、Asynchronous Replication ペアを作成する際の推奨手順	162
B.7 Asynchronous Replication とエクスポートツール 2 の併用	163
B.8 Asynchronous Replication と Data Retention Utility の併用	163
B.9 Asynchronous Replication と Universal Volume Manager の併用	164
B.10 Asynchronous Replication と Resource Partition Manager の併用	164
B.11 Asynchronous Replication と global storage virtualization の併用	165
付録 C. Asynchronous Replication と Local Replication の併用	166
C.1 Asynchronous Replication と Local Replication の併用についての概要	166
C.2 Local Replication ペアのプライマリボリュームと Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームを共有する構成	167
C.3 Local Replication ペアのセカンダリボリュームと Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームを共有する構成	169
C.4 Asynchronous Replication ペアと Local Replication のペアの状態について	171
C.4.1 Asynchronous Replication と Local Replication の共有ボリュームのペアの状態の確認方法	171
C.4.2 Asynchronous Replication ペアと Local Replication のペアの状態と共有ボリュームのデータの状態の関係	171
付録 D. このマニュアルの参考情報	172
D.1 操作対象リソースについて	172
D.2 このマニュアルでの表記	172
D.3 このマニュアルで使用している略語	172
D.4 KB（キロバイト）などの単位表記について	173
用語集	174
索引	195

はじめに

このマニュアルでは、Asynchronous Replication の概要と使用方法について説明しています。なお、本ストレージシステム以外のストレージシステムと接続する場合、接続先のストレージシステムの操作手順や注意事項は、接続先のストレージシステム向けの『Asynchronous Replication ユーザガイド』を参照してください。

対象ストレージシステム

このマニュアルでは、次に示すストレージシステムに対応する製品（プログラムプロダクト）を対象として記述しています。

- iStorage V110
- iStorage V310
- iStorage V310F
- iStorage V Series SDS

このマニュアルでは特に断りのないかぎり、上記モデルのストレージシステムを単に「ストレージシステム」または「本ストレージシステム」と称することがあります。

マニュアルの参照と適合ファームウェアバージョン

このマニュアルは、次の DKCMAIN ファームウェアバージョンに適合しています。

- iStorage V110/V310/V310F
A3-05-21-XX 以降

対象読者

このマニュアルは、次の方を対象読者として記述しています。

- ストレージシステムを運用管理する方
- Linux または Windows を使い慣れている方
- Web ブラウザを使い慣れている方

マニュアルで使用する記号について

このマニュアルでは、注意書きや補足情報を、次のとおり記載しています。

注意

データの消失・破壊のおそれや、データの整合性がなくなるおそれがある場合などの注意を示します。

メモ

解説、補足説明、付加情報などを示します。

ヒント

より効率的にストレージシステムを利用するのに役立つ情報を示します。

「Snapshot(CAW/CoW)」の表記について

プログラムプロダクト「Snapshot」に関する機能、操作を説明する際に使用する表記です。

iStorage V110,V310,V310F で、プログラムプロダクト「Snapshot」はサポートしていません。ただし、相手装置側のペアボリュームがプログラムプロダクト「Snapshot」のボリュームと連携している場合があるため、このマニュアルでは、「Snapshot(CAW/CoW)」の表記が記載されていることがあります。

「容量削減機能が有効なボリューム」について

このマニュアルで「容量削減機能が有効なボリューム」と記載されている場合、特に断りのない限り、データ削減共有ボリュームおよび dedupe and compression により容量削減機能を有効に設定した仮想ボリュームのことを示します。

ユーザの操作権限（ロール）について

このマニュアルに記載されている、RAID Manager および内蔵 CLI を操作する際に、前提条件として必要となるロールの詳細は、『RAID Manager ユーザガイド』※を参照してください。

注※

詳細は、「ユーザ認証機能」の Storage Navigator または Maintenance Utility で設定したユーザの操作権限に従って実行されるコマンドに関する記載を参照してください。

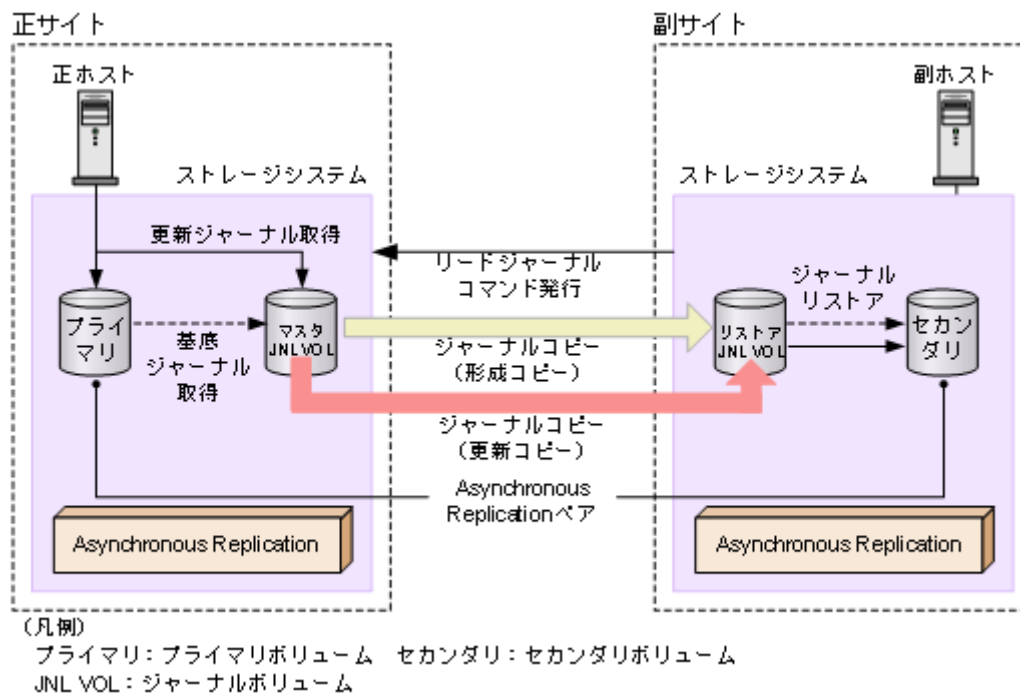
第1章

Asynchronous Replication の概要

Asynchronous Replication を使用することで、ストレージシステムのデータボリュームの内容を、遠隔地にあるストレージシステムにコピーし、保守できます。この章では、次の内容について説明します。

1.1 Asynchronous Replication とは

Asynchronous Replication は、大規模な地震などの災害によってデータセンタが被災することで、業務が長期間にわたって停止するような事態を避けるためのソリューションを提供します。Asynchronous Replication を使ったシステムでは、本来のデータセンタ（正サイトのストレージシステム）とは別のデータセンタ（副サイトのストレージシステム）を遠隔地に設置して、正サイトのプライマリボリュームへのデータ書き込みとは非同期に、副サイトにあるセカンダリボリュームにデータをコピーします。Asynchronous Replication システムでは、正サイトでプライマリボリュームの更新と同時に、ジャーナルデータが作成されます。ジャーナルデータは、正サイトのボリュームに書き込まれたデータのコピーです。



メモ

Asynchronous Replication には、1 個のプライマリボリュームのデータを複数のセカンダリボリュームにコピーしたり、複数のプライマリボリュームのデータを 1 個のセカンダリボリュームにコピーしたりするような機能はありません。

メモ

正サイトのストレージシステムがプライマリボリュームの読み取りに失敗したときは、RAID1、RAID5、または RAID6 の冗長機能によって障害から回復します。正サイトのストレージシステムがデータ回復のために Asynchronous Replication のセカンダリボリュームを読み取ることはありません。

Asynchronous Replication は、正サイトから副サイトへ、ジャーナル取得、ジャーナルコピー、ジャーナルリストアの三段階でジャーナルデータをコピーします。

- ジャーナル取得：正サイトのストレージシステムは、ジャーナルデータをマスタジャーナルボリュームに書き込みます。

ホストが更新データをプライマリボリュームに書き込むとき、正サイトのストレージシステムは更新データをコピーします。コピーされた更新データのことを、ジャーナルデータといいます。正サイトにあるストレージシステムがジャーナルデータを格納するボリュームを、マスタジャーナルボリュームといいます。プライマリボリュームへの書き込みがエラーになった場合、正サイトのストレージシステムは、エラーになった書き込みのジャーナルデータを作成しません。

- ジャーナルデータにはシーケンス番号が割り当てられます。
- シーケンス番号と他のメタデータによって、プライマリボリュームに書き込まれたデータとジャーナルデータとの整合性を保証します。
- ジャーナルコピー（形成コピーと更新コピー）：マスタジャーナルボリュームからリストアジャーナルボリュームへジャーナルデータをコピーします。

最初にすべてのデータをコピーすることを形成コピーといいます。形成コピーの後、更新された分だけコピーすることを更新コピーといいます。副サイトにあるストレージシステムで、ジャーナルデータを格納するボリュームを、リストアジャーナルボリュームといいます。

- 副サイトにあるストレージシステムから正サイトにあるストレージシステムへリードジャーナルコマンドが発行されると、正サイトのストレージシステムはマスタジャーナルボリュームに格納されているジャーナルデータを、副サイトのリストアジャーナルボリュームへ転送します。

リードジャーナルコマンドは、前のコマンドが完了するとすぐに、次のコマンドが実行されます。

- リストアジャーナルボリュームへのジャーナルデータのコピーは、マスタジャーナルボリュームのデータがなくなるまで実行されます。

ヒント

Asynchronous Replication は、プル型のレプリケーションソフトウェアです。Asynchronous Replication は、副サイトにあるストレージシステムからデータの更新を要求されると（リードジャーナルコマンドが発行されると）、副サイトへのジャーナルデータのコピーを開始しま

す。このとき、正サイトのストレージシステムは、副サイトのストレージシステムによるトランザクション処理のリソースとして動作します。

- ジャーナルリストア：セカンダリボリュームは、リストアジャーナルボリュームに格納されたジャーナルデータを基に更新されます。
 - リストアジャーナルボリュームのジャーナルデータは、シーケンス番号に従って、セカンダリボリュームにコピーされます。これによって、データの整合性が保証されます。
 - セカンダリボリュームへのリストアが完了すると、リストアジャーナルボリュームのジャーナルデータは破棄されます。
 - セカンダリボリュームへのリストアが完了すると、マスタジャーナルボリュームのジャーナルデータも破棄されます。

ヒント

正サイトのストレージシステムは、副サイトのストレージシステムからリストアが済んだジャーナルのシーケンス番号を受信するまで、マスタジャーナルボリュームのジャーナルデータを破棄しません。これは、正サイトと副サイトがチャネルエクステンダ（ストレージルータ）製品で接続されている場合でも同じです。

1.2 形成コピーと更新コピー

形成コピーとは、プライマリボリュームに格納済みのデータから基底ジャーナルを作成し、作成した基底ジャーナルを副サイトのストレージシステムへ転送して、セカンダリボリュームにリストアする処理です。ホストからの I/O 処理とは別に動作します。形成コピーは、次のタイミングで実施されます。

- 新たにプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペアを作成し、プライマリボリュームとセカンダリボリュームのデータを一致させるとき（同期）

最初にペアを組んだとき、正サイトから副サイトへプライマリボリュームのすべてのデータをコピーします。
- 正サイトから副サイトへのデータのコピーを停止したペアについて、再度データを一致させるとき（再同期）

保守作業の終了などに伴って正サイトから副サイトへのデータのコピーを再開するとき（順方向の再同期）と、災害復旧などに伴って副サイトから再建後の正サイトに差分データをコピーするとき（逆方向の再同期）があります。順方向の再同期も、逆方向の再同期も、ペアを再同期する操作は正サイトのストレージシステムでだけ実行できます。

基底ジャーナルを取得する対象となる領域は、データボリューム全体の場合と、データボリュームの差分個所だけの場合があります。

データボリューム全体の基底ジャーナルは、そのデータボリュームをプライマリボリュームとするペアが作成されたときに取得されます。

差分個所だけの基底ジャーナルは、正サイトから副サイトへのデータのコピーを停止した後、ペアを再同期するときに取得されます。正サイトから副サイトへのデータのコピーが停止している間は、プライマリボリュームに対するデータ更新と、セカンダリボリュームに対するデータ更新の双方が差分ビットマップに記録されます。差分個所だけの基底ジャーナルを取得するとき（再同期するとき）は、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方の差分ビットマップをマージして、マージした結果の示す領域を対象にデータが取得されます。

同じジャーナル内で複数のペアの作成または再同期をボリューム単位で指示した場合は、先に指示されたボリュームペアの基底ジャーナルがリモートストレージシステムのジャーナルボリュームに格納されてから、あとに指示されたボリュームペアの基底ジャーナルが、リモートストレージシステムのジャーナルボリュームに格納されます。このため、あとから指示された基底ジャーナルのリストアは遅れます（ジャーナル単位で指示する場合は影響ありません）。

形成コピーの場合、正サイトのストレージシステムでは、転送するデータのメタデータのみを作成してマスタジャーナルボリュームに格納します。リードジャーナルコマンドに対しては、マスタジャーナルボリュームに格納されたメタデータとデータボリュームから取得したデータを合わせて副サイトのストレージシステムにコピーします。

ミラーオプションの「コピー速度」を「高速」に指定している場合、副サイトのストレージシステムに転送された基底ジャーナルは、リストアジャーナルボリュームには格納されず、直接セカンダリボリュームにリストアされます。

メモ

形成コピーのオプションとして、RAID Manager の `paircreate` コマンドの `-nocopy` オプションを選択できます。`-nocopy` オプションを選択したときは、形成コピーが実行されません。`-nocopy` オプションは、すでにプライマリボリュームとセカンダリボリュームの内容が完全に同じであることが確実な場合にだけ選択してください。

メモ

形成コピー中にホストから正データボリュームへの書き込み要求（更新 I/O）を受領すると、更新 I/O を優先するため、正ストレージシステムは形成コピーを抑制します。ただし、ミラーオプションのコピー速度が「高速」（RAID Manager の `raidcom modify journal` の `-copy_size` オプションで 4 以上を指定）の場合、正ストレージシステムは形成コピーを抑制しません。コピー速度に「高速」を指定する場合は、形成コピー中に更新 I/O が発生しないようにしてください。更新 I/O が発生すると、データボリュームのペアが分割（サスペンド）されるおそれがあります。

メモ

Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームに対して発生する I/O のデータ長が 21MB を超えると、Asynchronous Replication ペアが分割（サスペンド）されることがあります。この場

合、ホストのプラットフォームごとに I/O のブロックサイズを調整してください。たとえば、ホストのプラットフォームが Linux 系の場合、`max_sectors_kb` のパラメータの値を 512 に設定してください。

形成コピーの完了後は、ホストがプライマリボリュームに書き込んだデータを基に、更新コピーが実行されます。Asynchronous Replication は、プライマリボリュームに書き込まれるデータを更新ジャーナルとして取得します。取得した更新ジャーナルは副サイトにあるストレージシステムに転送され、セカンダリボリュームにリストアされます。

ヒント

本ストレージシステムでは、ジャーナルコピーによる負荷を減らし、最大限の効率でデータを転送するために、Asynchronous Replication の形成コピーおよび更新コピーに特化した書き込みコマンドを使用します。この専用の書き込みコマンドを使用すると、トラック内で連続して更新されるデータの制御パラメータおよび FBA 形式データを、1 回の書き込み操作で転送できます。これによって、システムの負荷は軽減されて、FBA から CKD、または CKD から FBA への変換に必要な処理性能が確保されます。

1.3 差分データの管理

プライマリボリュームとセカンダリボリュームが同期していないデータは、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの双方でトラックビットマップとして記憶します。ペアを再同期させる場合、正サイトのストレージシステムはプライマリボリュームとセカンダリボリュームのビットマップをマージして、同期していないデータをコピーします。なお、ビットマップエリア数は、ストレージシステムで作成できる最大ペア数に影響します。

ボリュームの容量が 4,194,304MB (8,589,934,592block) より大きい DP-VOL を使用して Asynchronous Replication ペアを作成した場合、Asynchronous Replication ペアのボリュームが関連づけられているプールで差分データが管理されます。この場合、ボリュームの容量 4,123,168,604,160 バイトごとに、プログラムプロダクトの構成に応じた差分管理データ用のプール有効容量（最大 4 ページ）が必要です。

メモ

プールで管理されている差分データ（ページ）は、次の手順で解放します。

1. ページを解放したい仮想ボリュームを使用しているすべてのペアを削除します。
2. システムオプションモード 755 を OFF にします。

システムオプションモード 755 を OFF にすると、ゼロデータページを破棄できるようになります。

3. 閉塞しているプールを回復します。
4. 仮想ボリュームのページを解放します。

RAID Manager の `raidcom modify ldev` コマンドを使用します。

ページの解放には時間がかかることがあります。

なお、ボリュームの容量が 4,194,304MB (8,589,934,592block) より大きい DP-VOL を使用して Asynchronous Replication ペアを作成したあとで、プール有効容量の不足によってプールで差分データを管理できないことがあります。この場合、Asynchronous Replication ペアを再同期するときには、プライマリボリュームのすべてのデータがトラック単位でセカンダリボリュームにコピーされます。

1.4 Asynchronous Replication のジャーナルボリュームとは

ジャーナルボリュームは正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムに必要です。正サイトにあるジャーナルボリュームをマスタジャーナルボリューム、副サイトにあるジャーナルボリュームをリストアジャーナルボリュームといいます。

- ジャーナルボリュームには、Dynamic Provisioning 仮想ボリュームだけを使用できます。ただし、データダイレクトマップ属性が有効な Dynamic Provisioning ボリューム、容量削減機能が有効な Dynamic Provisioning ボリューム、および重複排除用システムデータボリュームは、ジャーナルボリュームとして使用できません。
- 1 つのジャーナルにはジャーナルボリュームを 2 個まで登録できますが、通常は正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムにそれぞれ 1 個のジャーナルボリュームで運用することを推奨します。もう 1 個のジャーナルボリュームはリザーブジャーナルボリュームとして確保でき、障害が発生した場合に使用します。

メモ

- リザーブジャーナルボリュームの目的

リザーブジャーナルボリュームは、ジャーナルボリュームが属するプールまたはプールボリュームのドライブが障害によって閉塞し、Asynchronous Replication ペアが分割されたとき、ペアを削除しないで復旧させるために使用します。

- リザーブジャーナルボリュームを追加して Asynchronous Replication ペアを復旧させる場合の運用手順

リザーブジャーナルボリュームを追加し、1 個目のジャーナルボリュームを削除してから再同期して復旧してください。

ジャーナルボリュームが属するプールまたはプールボリュームのドライブ障害による Asynchronous Replication ペアの分割から復旧するときは、この手順を推奨します。

- リザーブジャーナルボリュームを追加しないで Asynchronous Replication ペアを復旧させる場合の運用手順

Asynchronous Replication ペアを削除した後、ジャーナルボリュームを削除し、正常なボリュームを用いてジャーナルの作成からし直してください。または、メンテナンスマニュアルに従って、障害要因を取り除いてから再同期して復旧してください。

ヒント

- ジャーナルボリュームは、RAID Manager の `raidcom get journal` コマンドで表示できます。また、リザーブジャーナルボリュームは、`raidcom get ldev` コマンドの `-ldev_list journal -journal_id` オプションで表示できます。
 - マスタジャーナル、リストアジャーナルの容量は、ジャーナルボリュームの容量が表示されます（リザーブジャーナルボリュームは通常の運用では使用されないため、容量に加算されません）。
 - ジャーナルボリュームの容量は、『RAID Manager ユーザガイド』では「ジャーナルボリュームのジャーナルデータ用容量」、「データブロックサイズの容量」と表記されます。
-
- ホストからパス（LU パス）が設定されているボリュームは、ジャーナルボリュームとして登録できません。また、ジャーナルボリュームには LU パスを設定できません。

ヒント

ホストはジャーナルボリュームからの読み込み、およびジャーナルボリュームへの書き込みができません。

ジャーナルボリュームはジャーナルデータ領域とメタデータ領域の2つの領域から構成されています。形成コピーまたは更新コピーの実行中にジャーナルボリュームを拡張すると、拡張したジャーナルボリューム容量分のメタデータ領域は使われず、ジャーナルデータ領域だけが使われます。メタデータ領域が使われるようにするには、ジャーナル内のすべてのデータボリュームのペアをいったん分割した後で、再同期する必要があります。

ジャーナルボリュームのサイズが 36GB を超過している場合にジャーナルボリュームを拡張すると、拡張した容量は、ジャーナルボリューム拡張時に使用しているジャーナルをセカンダリボリュームにリストアすることで、使用できるようになります。ただし、拡張した容量が使用できるようになるまでに、時間が掛かることがあります。

ジャーナルボリュームは、システム要件に従って設定、サイズ調整してください。

関連リンク

参照先トピック

[マスタジャーナルとリストアジャーナル \(7 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication のペアとは \(9 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication のシステム要件 \(20 ページ\)](#)

[ジャーナルボリュームのサイズ設定 \(29 ページ\)](#)

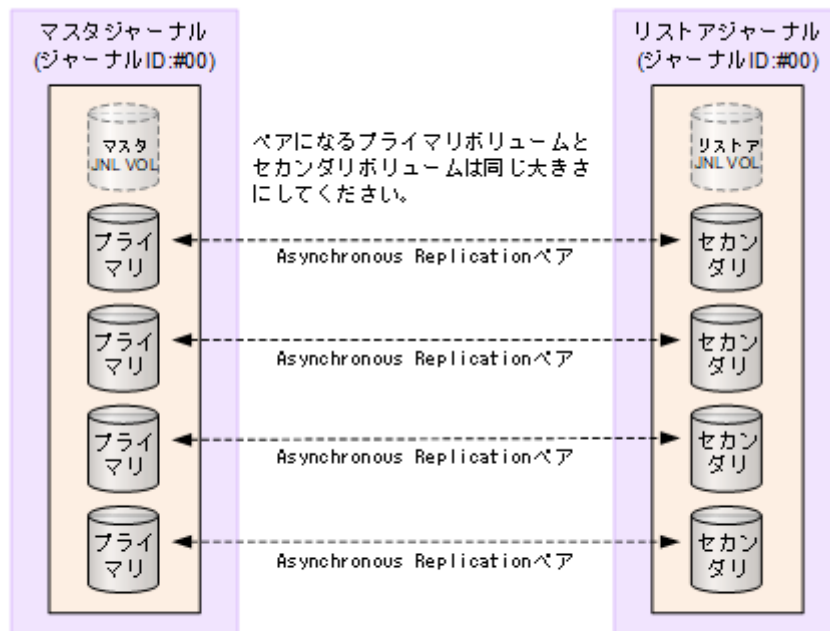
1.5 マスタジャーナルとリストアジャーナル

Asynchronous Replication で、正サイトから副サイトへのデータのコピーを停止したり、正サイトのデータで副サイトのデータを再同期したり、ボリュームを削除したりするとき、ジャーナルが基本的な単位となります。ジャーナルの特徴は次のとおりです。

- マスタジャーナルは、プライマリボリュームとマスタジャーナルボリュームから構成されます。
- リストアジャーナルは、セカンダリボリュームとリストアジャーナルボリュームから構成されます。
- データボリュームとそれに関連するジャーナルボリュームは、1つのジャーナルにだけ所属できます。
- プライマリボリューム、セカンダリボリューム、マスタジャーナルボリューム、リストアジャーナルボリュームには RAID1、RAID5、および RAID6 をサポートします。ジャーナル内で、RAID1、RAID5、および RAID6 のボリュームが混在してもかまいません。
- ペアになるプライマリボリュームとセカンダリボリュームは、サイズを同じにしてください。
- 同じマスタジャーナルに含めるボリュームは、同じストレージシステムにある必要があります。
- 同じリストアジャーナルに含めるボリュームは、同じストレージシステムにある必要があります。
- マスタジャーナルとリストアジャーナルは、ジャーナル ID に従って管理されます。
- プライマリボリューム、セカンダリボリューム、マスタジャーナルボリューム、リストアジャーナルボリュームは、『システム構築ガイド』に記載されているすべての RAID レベルをサポートします。ジャーナル内で、RAID レベルが混在しても問題ありません。

正サイトのストレージシステム

副サイトのストレージシステム



(凡例)

プライマリ：プライマリボリューム セカンダリ：セカンダリボリューム

JNL VOL：ジャーナルボリューム

1.6 Asynchronous Replication のペアとは

ユーザは、正サイトのプライマリボリュームと副サイトのセカンダリボリュームを指定して、Asynchronous Replication でデータをコピーするボリュームのペアを作成します。

ヒント

Asynchronous Replication のペアを作成するときには、副サイトのストレージシステムのシリアル番号を指定する必要があります。あらかじめ、副サイトのストレージシステムのシリアル番号を調べておいてください。

Asynchronous Replication でペアを対象にした操作を実行すると、ペアを構成するボリュームの状態が変化します。操作が完了したことを確認するために、ペアを構成するボリュームの状態を確認してください。Asynchronous Replication のペアを構成するボリュームの主な状態について、簡単に説明します。

- **SMPL** : ボリュームが Asynchronous Replication ペアに割り当てられていない状態です。
- **COPY** : 形成コピーが始まると、正サイトのストレージシステムがプライマリボリュームとセカンダリボリュームの状態を **COPY** に変更します。
- **PAIR** : 形成コピーが完了すると、正サイトのストレージシステムがプライマリボリュームとセカンダリボリュームの状態を **PAIR** に変更します。

プライマリボリュームとセカンダリボリュームが **PAIR** 状態のとき、正サイトのデータが副サイトへコピーされ、正サイトと副サイトのデータが同期します。Asynchronous Replication は、通常、PAIR 状態で運用し続けます。ペアを分割したり、再同期したりするのは、何らかの保守作業が必要になったり、災害が発生したりしたときです。

- **PSUS** : ストレージシステムの保守作業などでユーザが正サイトから副サイトへのデータのコピーを意図的に停止すると、正サイトのストレージシステムはプライマリボリュームとセカンダリボリュームの状態を **PSUS** に変更します (パスの状態が正常な場合)。Asynchronous Replication ペア間でのデータのコピーが停止することを、ペアの「分割」といいます。ペアが分割されると、ホストからの書き込みデータによってプライマリボリュームは更新されますが、セカンダリボリュームはコピーを停止したときのままになります。

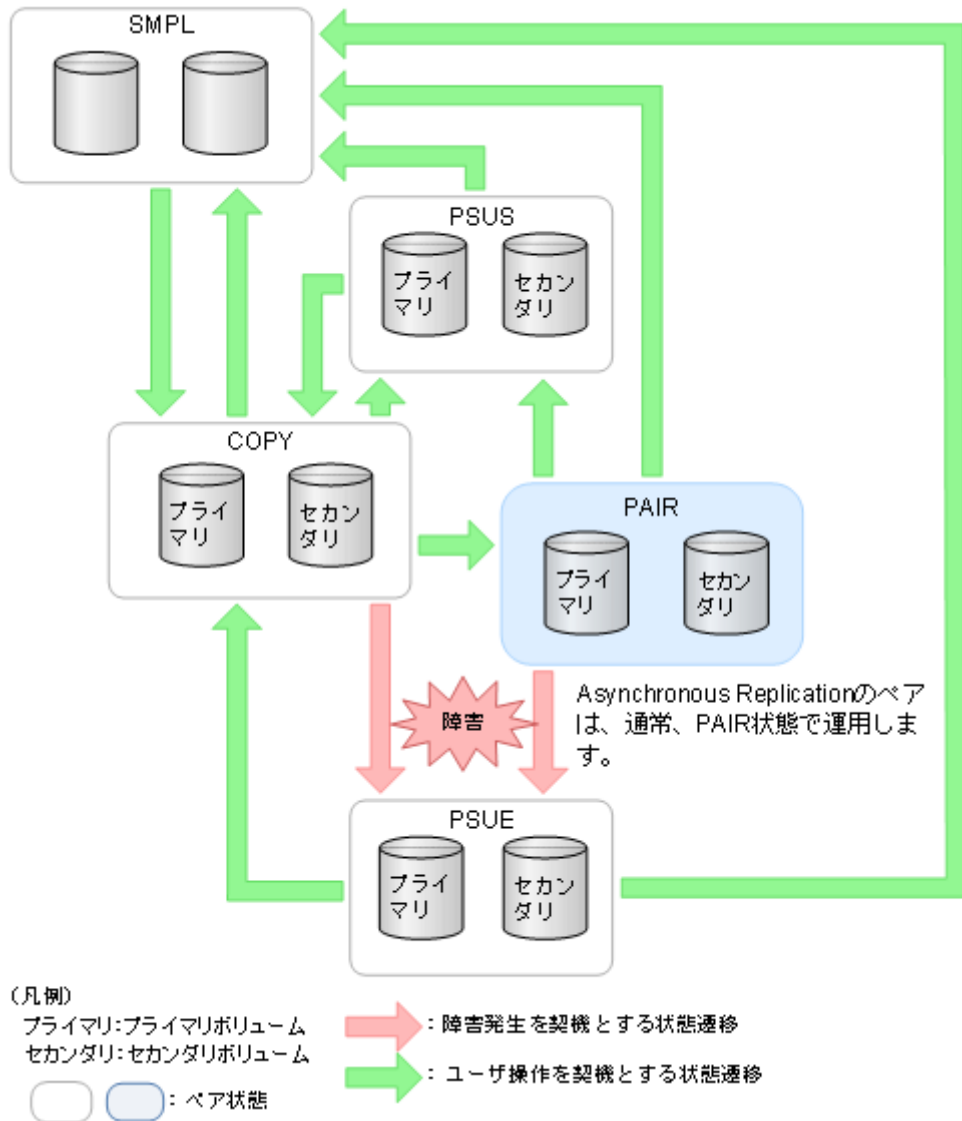
ユーザが副サイトからペアを分割すると、副サイトのストレージシステムはセカンダリボリュームの状態を **PSUS** に変更します。プライマリボリュームの状態は、正サイトのストレージシステムがユーザによるペアの分割を検出したとき (パスの状態が正常な場合)、**PSUS** に変化します。

ヒント

ユーザは、正サイトからペアを分割することも、副サイトからペアを分割することもできます。

- **PSUE** : 何らかの障害が発生してペアが分割されると、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの状態は **PSUE** に変化します。

更新コピーがエラーになると、副サイトのストレージシステムはペアの状態とエラーの種類に応じて、影響を受けたペアまたはリストアジャーナルに含まれるすべてのペアを分割して、セカンダリボリュームの状態を **PSUE** に変更します。プライマリボリュームの状態は、正サイトのストレージシステムが障害による分割の発生を検出したとき（パスの状態が正常な場合）、**PSUE** に変化します。



ヒント

パスの状態が正常であれば、通常はペアを組んでいるプライマリボリュームの状態とセカンダリボリュームの状態が異なることはありません。正サイトまたは副サイトでペアの分割が検出されるまでの間、ボリュームの状態が異なることがあります。

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication ペア状態の定義 \(75 ページ\)](#)

1.7 セカンダリボリュームの書き込みオプション

通常は、分割状態のセカンダリボリュームへの書き込みは許可しません。プライマリボリュームのデータとセカンダリボリュームのデータに不整合が起きないようにするためです。

正サイトから副サイトへのデータのコピーが停止している間だけ（ペアが分割されている間だけ）、ホストからセカンダリボリュームに書き込めるようにするオプションがあります。ユーザが正サイトから副サイトへのデータのコピーを停止するとき、ペアを指定して、このオプションを選択できます。指定されたペアでだけ、セカンダリボリュームへの書き込みが有効になります。

ヒント

正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムが正常に接続されている場合に、正サイトのストレージシステムからペアを分割するときだけに、このオプションを指定できます。

ヒント

正サイトから副サイトへのデータのコピーが停止している間、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの双方で、コピーが停止してからの差分がトラックビットマップとして記録されます。セカンダリボリュームの書き込みオプションが指定されているペアを再同期させるとき、副サイトのストレージシステムはセカンダリボリュームのトラックビットマップを正サイトのストレージシステムに送信し、正サイトのストレージシステムはプライマリボリュームとセカンダリボリュームのビットマップをマージして、同期していないトラックのデータをコピーします。プライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方を最新の状態に更新して、双方のデータを一致させます。なお、ビットマップエリア数は、ストレージシステムで作成できる最大ペア数に影響します。

1.8 Asynchronous Replication のミラーとは

マスタジャーナルとリストアジャーナルの関係はミラーと呼ばれます。

ミラー内に形成コピーが進行中で同期していないペア（ペアの状態が **COPY**）、または形成コピーが完了して同期したペア（ペアの状態が **PAIR**）があるとき、ミラーは **Active** 状態となります。通常、ペアは **PAIR** 状態で運用するため、ミラーの状態も通常は **Active** になります。

ミラーを対象にした操作を実行すると、ミラーの状態が変化します。操作が完了したことを確認するために、ミラーの状態を確認してください。ミラーの主な状態について、簡単に説明します。

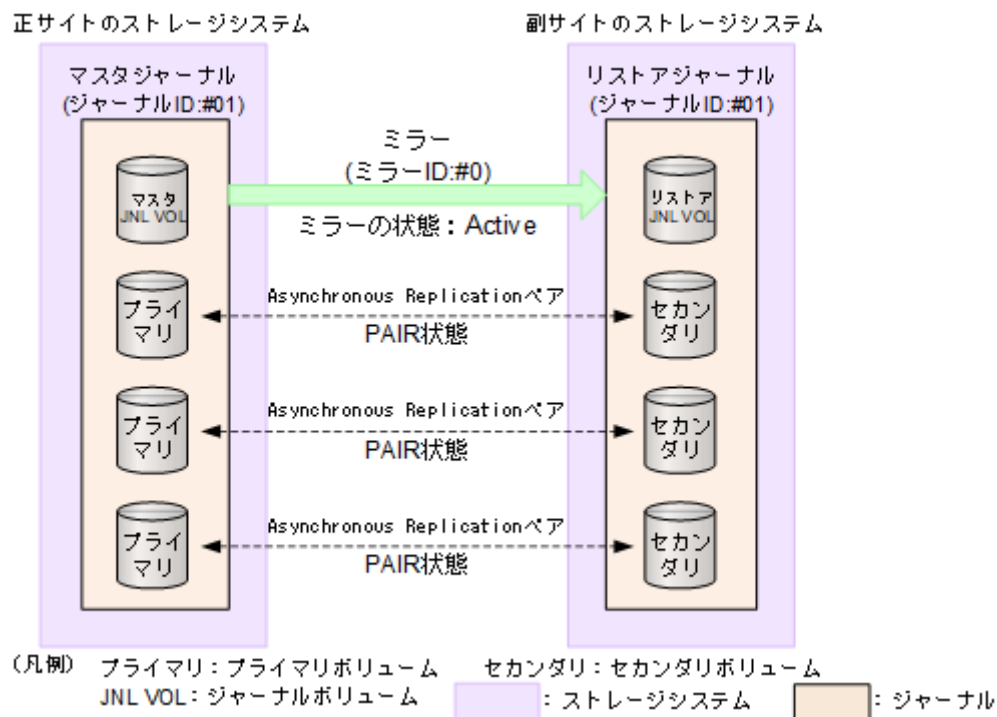
- **Initial** : ミラーにデータボリュームが登録されていないか、またはミラーの削除が完了した状態です。
- **Active** : ミラー内に **COPY** 状態または **PAIR** 状態のペアがある状態です。

- **Stopped** : ミラーが分割されているか、またはミラーが削除されようとしている状態です。

ミラーの状態は、RAID Manager で確認できます。Initial、Active、Stopped は、RAID Manager で出力されるミラー状態を分類したものです。RAID Manager で出力されるミラー状態一覧と分類の対応関係は「[7.4.1 ミラー状態の定義 \(83 ページ\)](#)」を参照してください。

ヒント

- Asynchronous Replication ペアはミラー単位に操作することを基本としているため、分割や再同期はミラー単位で実施してください。ペア単位で分割や再同期を実行しようとすると、操作要求が拒否されることがあります。
- RAID Manager では、構成定義ファイルに定義したグループがミラーとして扱われます。



関連リンク

参照先トピック

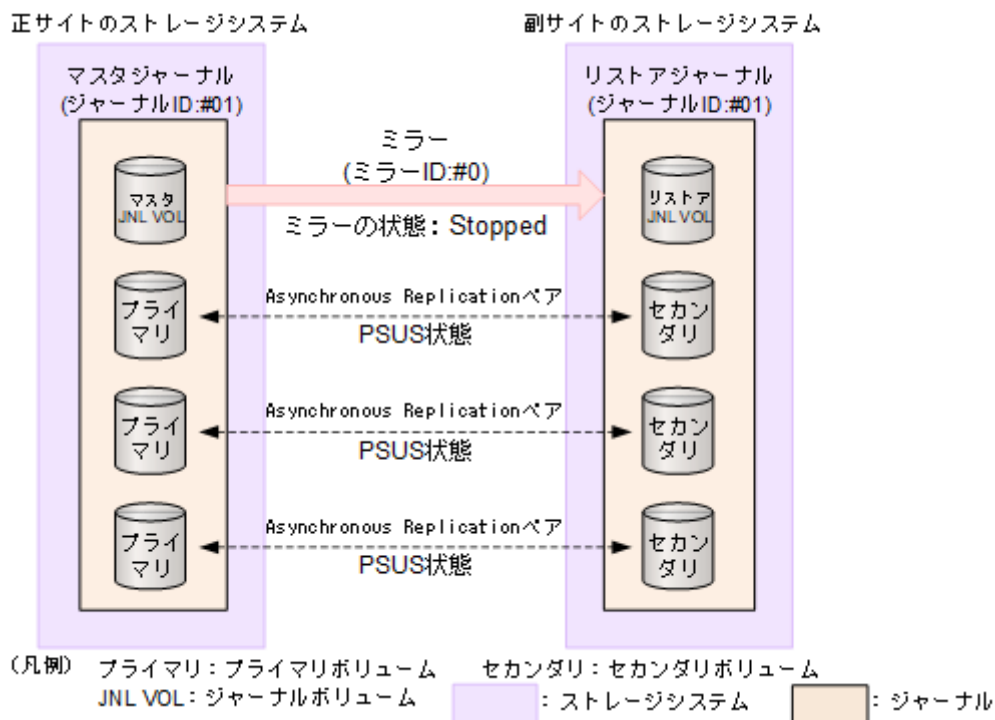
[ミラー状態の定義 \(83 ページ\)](#)

1.8.1 ミラーの分割

ミラーを分割すると、そのミラーに含まれるすべてのペアが分割されて、マスタジャーナルからリストアジャーナルへのデータコピーが停止します。ミラーを分割するには、ミラーの状態が Active である必要があります。ミラーの分割が完了すると、ミラーの状態は Stopped になります。

ペアが分割されている間、更新データはセカンダリボリュームに反映されません。ペアを再同期したときに、更新データがセカンダリボリュームに反映されます。ミラーに属するすべてのペアを再同期する場合は、ミラーを再同期します。

ミラーを分割するときも、RAID Manager の `pairsplit` コマンドの `-rw` オプションで、セカンダリボリューム書き込みを有効にするかどうかを選択できます。セカンダリボリューム書き込みを有効にすると、ペアが分割されている間、ホストはセカンダリボリュームにデータを書き込むことができます。



プライマリボリュームの内容とセカンダリボリュームの内容を一致させてから、ミラーを分割することもできます。この場合は、`-P` オプションを指定せずに RAID Manager の `pairsplit` コマンドを実行します。`-P` オプションを指定せずに `pairsplit` コマンドを実行すると、ミラーの分割モードが「フラッシュ」となります（詳細は「[6.4 ミラーを分割する \(68 ページ\)](#)」を参照）。これにより、ペアを分割する際に、更新データがセカンダリボリュームに反映されます。副サイトのストレージシステムがペアの分割を受け付けた時点で、対象となるペアが保留していたすべてのジャーナルデータの内容が、セカンダリボリュームに書き込まれます。その後、対象ペアにジャーナルデータ（更新データ）がない状態が一定時間続くと、対象ペアの状態は `PSUS` に変わります。ジャーナルのすべてのペアの状態が `PSUS` に変わったら、ボリュームの複製は完了です。ミラーの状態は `Stopped` になります。

ヒント

ミラーに属するデータボリュームの完全な複製を作成したいときには、ミラーを分割する前に、ホストからの I/O を停止させておく必要があります。データの複製を作成したいときに即座に複製を作成すること（またはこのような方法で作成された複製）を **Point-in-Time コピー** といいます。

関連リンク

参照先トピック

[ミラー状態の定義 \(83 ページ\)](#)

1.8.2 ミラーの再同期

ミラーを再同期すると、ミラーに属するすべてのペアのプライマリボリュームからセカンダリボリュームへのデータコピーが再開します。ミラーを再同期するには、ミラーの状態が **Stopped**、または **Active** で、ミラー内に **PSUS** または **PSUE** のペアがある必要があります。**Active** は、マスターのジャーナルとリモートのジャーナル間でデータのコピーが行われている状態です。なお、ミラーの再同期は、RAID Manager の **pairresync** コマンドを使用します。

メモ

ミラーは I/O 負荷が低いときに再同期してください。同じコンシステンシーグループ内に状態が異なる複数のペアが混在している場合、I/O 負荷が高い状態でミラーを再同期すると、ペアの再同期が失敗して分割されることがあります（ペアの状態は **PSUE** になります）。

関連リンク

参照先トピック

[ミラー状態の定義 \(83 ページ\)](#)

1.8.3 ミラーの削除

RAID Manager の **pairsplit** コマンドでミラーを削除すると、ミラーに属するすべてのペアが削除され、マスタジャーナルからリストアジャーナルへのデータコピーが終了します。ミラーを削除するとき、削除モードを選択できます。

- 「通常」: ミラーが削除されるのは、ローカルストレージシステムがミラーの状態を **Initial** に変更できる場合だけです。RAID Manager の場合は、**pairsplit -s** を使用します。
- 「強制」: ミラーを強制的に削除します。ローカルストレージシステムがリモートストレージシステムと通信できない場合でも、ミラーは削除されます。RAID Manager の場合は、**pairsplit -SF** を使用します。

削除モードに「強制」を選択した状態で削除の操作を実行していて、かつ 5 分間以上たっているのにミラーの状態が **Initial** になっていない場合は、再度強制削除の操作を実行するとそのミラーに属するすべてのペアを削除できます。なお、強制削除を実行してから 5 分間は同じジャーナル内にペアを作成しないでください。ペア作成に失敗するおそれがあります。

1.9 ハードウェアおよびソフトウェアのコンポーネント

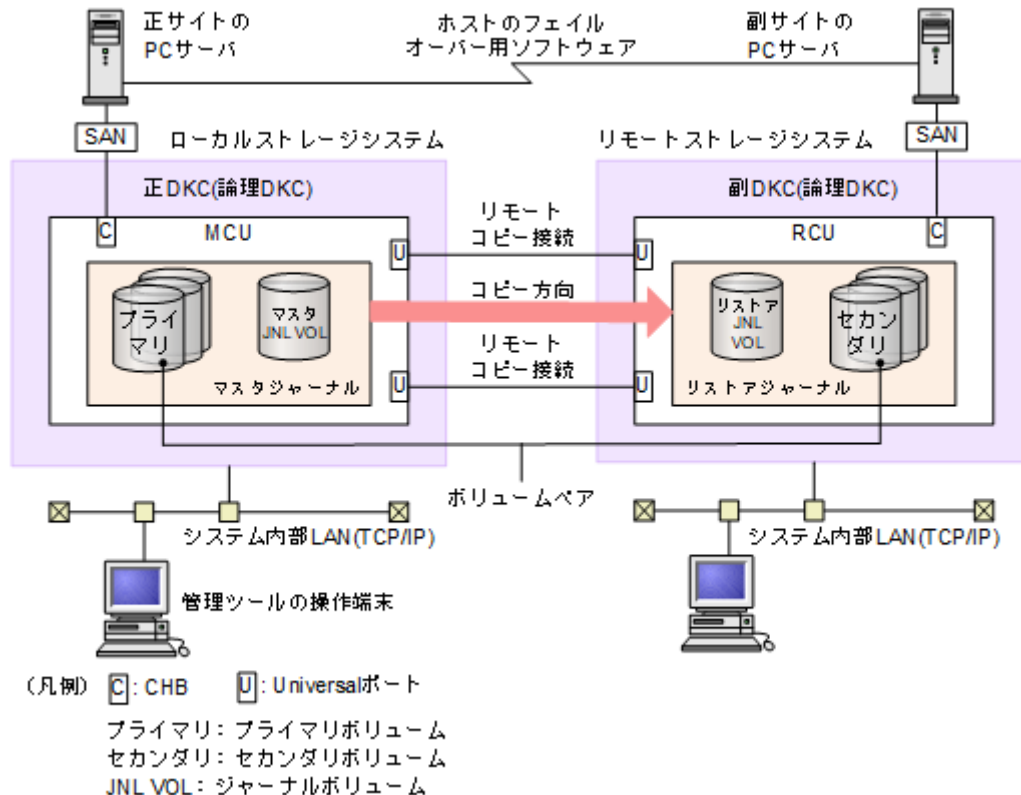
Asynchronous Replication システムは、次のコンポーネントから構成されます。

- ・ 正サイトにある本ストレージシステム
- ・ 副サイトにある本ストレージシステム
- ・ 本ストレージシステムに付属したストレージシステム
- ・ ストレージシステムに接続された1つ以上のホスト
- ・ 双方のストレージシステムにインストールされた Asynchronous Replication ソフトウェア
- ・ 正サイトと副サイトの間のデータパス接続
- ・ Asynchronous Replication を構成・管理する管理ツール

正サイトと副サイトの間のデータパスとして使用できるインタフェース、ホストとストレージシステム間のインタフェースについては、「[2.1 Asynchronous Replication のシステム要件 \(20 ページ\)](#)」を参照してください。

管理ツールは、管理用の LAN を通じてストレージシステムに接続します。

Asynchronous Replication のコンポーネントについて次の図に基本構成を示します。



ヒント

ローカルストレージシステムとは、管理ツールの操作端末を接続しているストレージシステムを指します。また、リモートストレージシステムとは、ローカルストレージシステムと接続している別のストレージシステムを指します。このマニュアルでは、特に記載がない限り、正サイトにローカルストレージシステムがあり、副サイトにリモートストレージシステムがあることを前提に説明しています。

関連リンク

参照先トピック

[ストレージシステム \(16 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication のデータパス \(17 ページ\)](#)

[RAID Manager \(17 ページ\)](#)

1.9.1 ストレージシステム

Asynchronous Replication システムは、正サイトと副サイトにある、2 台のストレージシステムによって構成されます。正サイトのストレージシステムを MCU (メインコントロールユニット)、副サイトのストレージシステムを RCU (リモートコントロールユニット) と表記することがあります。

正サイトのストレージシステム (MCU) は、プライマリボリュームと、次の操作を制御します。

- プライマリボリュームに対するホスト I/O 操作
- マスタジャーナル操作
- プライマリボリュームとセカンダリボリューム間の、形成コピーと更新コピー操作

副サイトのストレージシステム (RCU) は、セカンダリボリュームと、次の操作を制御します。

- 正サイトのストレージシステムに対するリードジャーナルコマンドの発行
- マスタジャーナルからリストアジャーナルへのジャーナルデータのコピー
- セカンダリボリュームに対するリストアジャーナルデータのコピー
- Asynchronous Replication ペアの状態と構成を管理するうえでの操作 (例: Asynchronous Replication のセカンダリボリュームへの書き込み I/O を拒否する)

関連リンク

参照先トピック

[ハードウェアおよびソフトウェアのコンポーネント \(15 ページ\)](#)

1.9.2 Asynchronous Replication のデータパス

正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムの間のデータ送受信の接続は、データパスと呼ばれます。Asynchronous Replication のコマンドとデータは、データパスと、スイッチを通して送信されます。正サイトと副サイトの間のデータパスとして使用できるインタフェースについては「[2.1 Asynchronous Replication のシステム要件 \(20 ページ\)](#)」を参照してください。

データパスはハードウェアレベルで冗長化しておくことをお勧めします。

—— 関連リンク ——

参照先トピック

[ハードウェアおよびソフトウェアのコンポーネント \(15 ページ\)](#)

1.9.3 RAID Manager

RAID Manager は、スクリプトで使えるコマンドラインインタフェースを提供します。

仮想ストレージマシン内のボリュームを使用する場合、RAID Manager では、構成定義ファイルに本ストレージシステムの LDEV ID やシリアル番号も仮想情報も指定できます。

注意

- RAID Manager を使用して Asynchronous Replication ペアを作成する場合、その後の運用は RAID Manager を使用してください。
- iStorage V Series SDS との Asynchronous Replication ペアのペア情報として、iStorage V Series SDS のボリュームの、ホストグループ ID または iSCSI ターゲット ID、および LUN ID には、iStorage V Series SDS の制御情報が表示されます。iStorage V Series SDS のボリューム情報を参照したい場合は、iStorage V Series SDS で、LDEV ID と同じボリュームナンバーのボリューム情報を参照してください。

ヒント

- RAID Manager が定期的に発行するタイムスタンプと、ホストから正サイトのストレージシステムに書き込み要求が発行されたときに取得したシーケンス番号を用いて、Asynchronous Replication はジャーナルデータの一貫性を保ちます。セカンダリボリュームにジャーナルデータがリストアされるまで、タイムスタンプとシーケンス番号はジャーナルデータに付いたままです。
- RAID Manager がタイムスタンプを発行する間隔は、1 秒程度にすることを勧めます。タイムスタンプを発行する間隔を短くすると、ストレージシステムの I/O レスポンスに与える影響が大きくなります。タイムスタンプを発行する間隔を長くすると、副サイトでリストアを実行する間隔も長くなり、ジャーナルボリュームにジャーナルデータがたまりやすくなります。なお、形成コピーおよび更新コピーの動作中はタイムスタンプに関わらずデータをリス

トアするため、タイムスタンプを発行する間隔を長くしてもジャーナルデータがたまりやすくなることはありません。

関連リンク

参照先トピック

[ハードウェアおよびソフトウェアのコンポーネント \(15 ページ\)](#)

1.10 RAID Manager のコンシステンシーグループとは

RAID Manager のコンシステンシーグループは、正サイトと副サイトのストレージシステムに設定された、複数のボリュームから構成されるグループです。RAID Manager のコマンドにコンシステンシーグループ ID を指定することで、ボリュームをコンシステンシーグループ単位で一括して操作できます。

マスタジャーナルおよびリストアジャーナルも、正サイトと副サイトのストレージシステムに設定された、複数のボリュームから構成されるグループです。マスタジャーナルを 1 個のコンシステンシーグループ、リストアジャーナルを 1 個のコンシステンシーグループとすることで、コンシステンシーグループ ID を指定すれば、RAID Manager のコマンドでマスタジャーナルボリュームをマスタジャーナル単位で、リストアジャーナルボリュームをリストアジャーナル単位で一括して操作できるようになります。プライマリボリュームとセカンダリボリューム間の書き込み順序を保証したままで、コンシステンシーグループ単位でボリュームを操作できます。

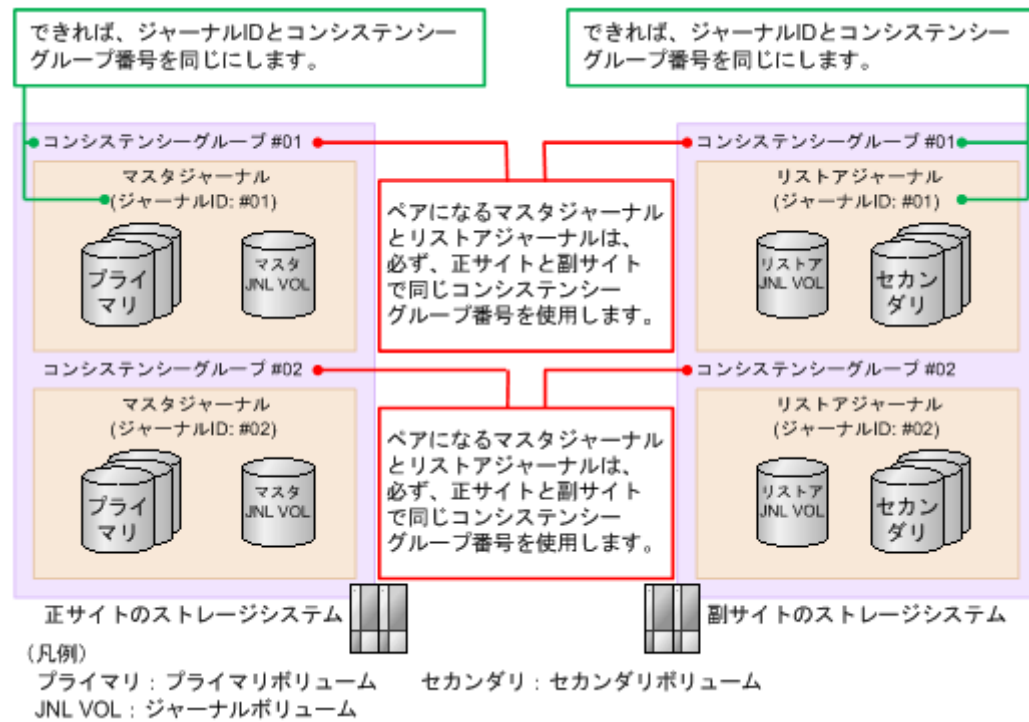
注意

- ペアになるプライマリボリュームのコンシステンシーグループ ID とセカンダリボリュームのコンシステンシーグループ ID を同じにする必要があります。
- 1 つのジャーナルを、複数の RAID Manager のコンシステンシーグループに登録しないでください。登録した場合、複数の RAID Manager からタイムスタンプが発行され、コンシステンシーグループ内でデータの一貫性を保証できなくなります。
- iStorage V Series SDS と接続する場合は、本ストレージシステムのコンシステンシーグループ ID と同じ ID を、iStorage V Series SDS のジャーナルグループ ID とコンシステンシーグループ ID に設定してください。

メモ

誤操作を防止するため、ジャーナル ID とコンシステンシーグループ ID を同じにすることをお勧めします。

1つのストレージシステムに、プライマリボリュームのコンシステンシーグループとセカンダリボリュームのコンシステンシーグループを合わせて、最大で128個（番号は0～127）まで作成できます。



第2章

Asynchronous Replication の要件

この章では、次に挙げる情報について説明します。

2.1 Asynchronous Replication のシステム要件

次の表で、Asynchronous Replication システムの基本的な要件について説明します。

項目	要件
iStorage V110,V310,V310F と接続できるストレージシステム	下記のバージョンのストレージシステムと相互に接続できます。本製品と新しいモデルとのサポート接続可否については、新しいモデル側のユーザガイドを参照してください。 • iStorage V110,V310 (全バージョン) • iStorage V310F (全バージョン) • iStorage V100,V300 (93-07-24-XX 以降) • iStorage V Series SDS (V1.18.2a 以降)
iStorage V110,V310,V310F のシステムの数	1 台のストレージシステムに対して、最大 64 台まで接続できます。たとえば、正サイトのストレージシステムを 1 台、副サイトのストレージシステムを 64 台の構成で構築できます。
Asynchronous Replication	• Asynchronous Replication ペアのマスタジャーナルがあるストレージシステムとリストアジャーナルがあるストレージシステムに、それぞれインストールする必要があります。 • ライセンスキーが必要です。
必要な他のライセンス	• Synchronous Replication Asynchronous Replication をインストールするには、Synchronous Replication が必要です。 • Dynamic Provisioning ジャーナルボリュームとして、Dynamic Provisioning の仮想ボリュームを使用します。
ホストフェールオーバーソフトウェア	災害が発生したとき、正ホストから副ホストへ業務を切り替えるために必要です。
Asynchronous Replication インタフェース	次に示すプログラムプロダクトが使用できます。 • RAID Manager 各 RAID Manager インスタンスにコマンドデバイスが必要です。RAID Manager のセットアップと RAID Manager の使用についての情報は、『RAID Manager ユーザガイド』を参照してください。
対応ホストプラットフォーム (ホストとストレージシステムの接続にファイバチャネルまたは iSCSI を使用する場合)	• Red Hat Enterprise Linux • VMware ESX • Windows Server サポートバージョンについては、「10.3 お問い合わせ先 (150 ページ)」に示す連絡先にお問い合わせください。
データパス	• 次の 2 種類のインタフェースを使用できます。 - ファイバチャネルインタフェース - iSCSI インタフェース

項目	要件														
	直結、スイッチ、またはチャネルエクステンダ（ストレージルータ）による接続があります。「4.4 Asynchronous Replication の物理パスの計画（45 ページ）」を参照してください。 1 個のパスグループに最大 8 本のパスを登録できます。 - 同じストレージシステムに対して異なるパスグループ ID のパスグループを登録することで、複数のパスグループを使った接続ができます。ただし、1 個のミラーに対して指定できるパスグループは 1 個です。リモートパスを構築するときの操作については、「5.2 Asynchronous Replication のリモート接続を追加する（60 ページ）」を、ペアを作成するときの操作については、「6.2 Asynchronous Replication ペアを作成する（66 ページ）」を参照してください。 iSCSI インタフェースのサポート機種およびチャネルボードの組み合わせについては、「表 2-6 iSCSI インタフェース対応状況一覧（24 ページ）」を参照してください。														
パスグループ	1 台のストレージシステムに 64 個まで設定できます。 - パスグループ ID は 00～FF まで指定できます。なお、iStorage V Series SDS に対するパスの場合は、0 を指定できません。 1 個のミラーでは、正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムを接続するときと副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムを接続するときに同じパスグループ ID を使用します。 - パスグループはデータボリュームのペアを作成するときに指定する必要があります。ペアの再同期およびスワップ操作ではパスグループを変更できません。 - RAID Manager を使用して、パスグループの作成およびペア作成時のパスグループの指定ができます。詳細については、『RAID Manager コマンドリファレンス』の構成定義コマンドおよび『RAID Manager インストール・設定ガイド』の構成定義ファイルを参照してください。														
Asynchronous Replication ボリューム	- Asynchronous Replication のプライマリボリュームとセカンダリボリュームはサイズを同じにしてください。 - プライマリボリュームとセカンダリボリュームの最大容量および最小容量は次のとおりです。 - Dynamic Provisioning の仮想ボリューム（DP-VOL）の場合：DP-VOL の最大容量および最小容量と同じです。 - 内部ボリュームまたは外部ボリュームの場合：CV の最大容量および最小容量と同じです。 詳細は、『システム構築ガイド』を参照してください。 - プライマリボリュームの T10 PI 属性とセカンダリボリュームの T10 PI 属性には、同じ値を設定する必要があります。 - プライマリボリュームとセカンダリボリュームは、LUN パスが定義されたボリューム同士である必要があります。 - ファイバチャネル 32Gbps でホストに接続されたボリュームをペアボリュームとして使う Asynchronous Replication 構成を、次に示すストレージシステムでサポートします。 <table><tr><th colspan="2">接続元装置</th><th colspan="2">接続先装置</th></tr><tr><th>機種</th><th>ファームウェアバージョン</th><th>機種</th><th>ファームウェアバージョン</th></tr><tr><td rowspan="2">iStorage V110,V310,V310F</td><td rowspan="2">全バージョン※</td><td>iStorage V110,V310,V310F</td><td>全バージョン※</td></tr><tr><td>iStorage V100,V300</td><td>93-07-24-XX 以降</td></tr></table>	接続元装置		接続先装置		機種	ファームウェアバージョン	機種	ファームウェアバージョン	iStorage V110,V310,V310F	全バージョン※	iStorage V110,V310,V310F	全バージョン※	iStorage V100,V300	93-07-24-XX 以降
接続元装置		接続先装置													
機種	ファームウェアバージョン	機種	ファームウェアバージョン												
iStorage V110,V310,V310F	全バージョン※	iStorage V110,V310,V310F	全バージョン※												
		iStorage V100,V300	93-07-24-XX 以降												

項目	要件																																										
	- ファイバチャネル 64Gbps でホストに接続されたボリュームをペアボリュームとして使う Asynchronous Replication 構成を次に示すストレージシステムでサポートします。 <table><tr><th colspan="2">接続元装置</th><th colspan="2">接続先装置</th></tr><tr><th>機種</th><th>ファームウェアバージョン</th><th>機種</th><th>ファームウェアバージョン</th></tr><tr><td rowspan="2">iStorage V110,V310,V310F</td><td rowspan="2">A3-03-01-XX 以降</td><td>iStorage V110,V310,V310F</td><td>A3-03-01-XX 以降</td></tr><tr><td>iStorage V100,V300</td><td>93-07-24-XX 以降</td></tr></table> 10Gbps iSCSI チャネルボードのポートでホストに接続されたボリュームをペアボリュームとして使う Asynchronous Replication 構成を次に示すストレージシステムでサポートします。 <table><tr><th colspan="2">接続元装置</th><th colspan="2">接続先装置</th></tr><tr><th>機種</th><th>ファームウェアバージョン</th><th>機種</th><th>ファームウェアバージョン</th></tr><tr><td rowspan="2">iStorage V110,V310,V310F</td><td rowspan="2">全バージョン ※</td><td>iStorage V110,V310,V310F</td><td>全バージョン ※</td></tr><tr><td>iStorage V100,V300</td><td>93-07-24-XX 以降</td></tr></table> - iSCSI 25Gbps チャネルボードのポートでホストに接続されたボリュームをペアボリュームとして使う Asynchronous Replication 構成を、次に示すストレージシステムでサポートします。 <table><tr><th colspan="2">接続元装置</th><th colspan="2">接続先装置</th></tr><tr><th>機種</th><th>ファームウェアバージョン</th><th>機種</th><th>ファームウェアバージョン</th></tr><tr><td rowspan="2">iStorage V110,V310,V310F</td><td rowspan="2">全バージョン ※</td><td>iStorage V110,V310,V310F</td><td>全バージョン ※</td></tr><tr><td>iStorage V100,V300</td><td>93-07-24-XX 以降</td></tr></table> - iStorage V Series SDS と Asynchronous Replication ペアを作成する場合は、ボリュームの容量を MB 単位で作成したボリュームを使用してください。 注※ なお、iStorage V310F のみファームウェアバージョンは、A3-03-01-XX 以降	接続元装置		接続先装置		機種	ファームウェアバージョン	機種	ファームウェアバージョン	iStorage V110,V310,V310F	A3-03-01-XX 以降	iStorage V110,V310,V310F	A3-03-01-XX 以降	iStorage V100,V300	93-07-24-XX 以降	接続元装置		接続先装置		機種	ファームウェアバージョン	機種	ファームウェアバージョン	iStorage V110,V310,V310F	全バージョン ※	iStorage V110,V310,V310F	全バージョン ※	iStorage V100,V300	93-07-24-XX 以降	接続元装置		接続先装置		機種	ファームウェアバージョン	機種	ファームウェアバージョン	iStorage V110,V310,V310F	全バージョン ※	iStorage V110,V310,V310F	全バージョン ※	iStorage V100,V300	93-07-24-XX 以降
接続元装置		接続先装置																																									
機種	ファームウェアバージョン	機種	ファームウェアバージョン																																								
iStorage V110,V310,V310F	A3-03-01-XX 以降	iStorage V110,V310,V310F	A3-03-01-XX 以降																																								
		iStorage V100,V300	93-07-24-XX 以降																																								
接続元装置		接続先装置																																									
機種	ファームウェアバージョン	機種	ファームウェアバージョン																																								
iStorage V110,V310,V310F	全バージョン ※	iStorage V110,V310,V310F	全バージョン ※																																								
		iStorage V100,V300	93-07-24-XX 以降																																								
接続元装置		接続先装置																																									
機種	ファームウェアバージョン	機種	ファームウェアバージョン																																								
iStorage V110,V310,V310F	全バージョン ※	iStorage V110,V310,V310F	全バージョン ※																																								
		iStorage V100,V300	93-07-24-XX 以降																																								
Asynchronous Replication ペアの最大数	- すべて外部ボリュームを使用した場合 - iStorage V110 : 16,381 個 推奨は、最大 8,192 ペア以内です。 - iStorage V310,V310F : 49,145 個 推奨は、最大 24,576 ペア以内です。 - すべて Dynamic Provisioning の仮想ボリューム（DP-VOL）を使用した場合 - iStorage V110 : (16,384 - プールボリューム数 - ジャーナルボリューム数) 個 推奨は、最大 8,192 ペア以内です。																																										

項目	要件
	- iStorage V310,V310F : (49,152 - プールボリューム数 - ジャーナルボリューム数) 個 推奨は、最大 24,576 ペア以内です。 • すべて圧縮を設定したデータ削減共有ボリュームを使用した場合 - iStorage V110 : (16,384 - プールボリューム数 - ジャーナルボリューム数) 個 - iStorage V310,V310F : (21,760 - プールボリューム数 - ジャーナルボリューム数) 個 • すべて圧縮および重複排除を設定したデータ削減共有ボリュームを使用した場合 - iStorage V110 : (16,376 - プールボリューム数 - ジャーナルボリューム数) 個 - iStorage V310,V310F : (21,754 - プールボリューム数 - ジャーナルボリューム数) 個 • すべて圧縮を設定した dedupe and compression による容量削減ボリュームを使用した場合 - iStorage V110 : (16,384 - プールボリューム数 - ジャーナルボリューム数) 個 - iStorage V310,V310F : (32,640 - プールボリューム数 - ジャーナルボリューム数) 個 • すべて圧縮および重複排除を設定した dedupe and compression による容量削減ボリュームを使用した場合 - iStorage V110 : (16,376 - プールボリューム数 - ジャーナルボリューム数) 個 - iStorage V310,V310F : (32,630 - プールボリューム数 - ジャーナルボリューム数) 個 プールボリューム数については、『システム構築ガイド』の Dynamic Provisioning のプールの要件を参照してください。 最大ペア数の算出方法は、「3.7.1 最大ペア数の制限 (32 ページ)」を参照してください。
コンシステンシーグループ	128 個 (番号は 0~127)
ミラー	ミラー ID は 0~3 まで指定できます。ミラー ID の指定を省略した場合、自動で 0 が指定されます。
サポートされる RAID グループ	ジャーナルのデータボリュームとジャーナルボリュームは、『システム構築ガイド』に記載されているすべての RAID レベルをサポートします。ジャーナル内で、RAID レベルが混在しても問題ありません。
Virtual LUN (VLL) ボリューム	次に示すようにサポートします。 • データボリュームに使用できます。 • セカンダリボリューム容量はプライマリボリューム容量と同等にしてください。
仮想ボリューム	データボリュームおよびジャーナルボリュームに使用できます。 ジャーナルボリュームには、Dynamic Provisioning 仮想ボリュームだけを使用できます。
ジャーナル	• ジャーナルの最大数 : 最大 128 個 • ジャーナルの ID : 0~255 です。 • ジャーナルの推奨数 : モデルによって異なります。 - iStorage V110 : MP ユニットごとに最大 4 個 (ストレージシステム全体では最大 8 個)

項目	要件
	- iStorage V310,V310F : MP ユニットごとに最大 8 個 (ストレージシステム全体では最大 16 個) ジャーナルの推奨数より多く設定すると、コピーの性能やホストの I/O の性能が低下する場合があります。 • ジャーナルに含めるデータボリュームの最大数 : ジャーナルごとに最大 8,192 個 なお、iStorage V Series SDS との Asynchronous Replication ペアの場合、297 個です。 • ジャーナルに含めるジャーナルボリュームの最大数 : ジャーナルごとに 2 個までです。ただし、2 個目のジャーナルボリュームはリザーブジャーナルボリュームとして使用し、通常の運用では使用しません。 • ジャーナルボリュームには、Dynamic Provisioning の仮想ボリュームだけを使用できます。ただし、次のボリュームはジャーナルに登録できません。 - 容量削減機能が有効な Dynamic Provisioning の仮想ボリューム - 重複排除用システムデータボリューム - LUN パス定義されたボリューム • 仮想ストレージマシン内のボリュームは、ジャーナルボリュームとして使用できません。 • 異なる仮想ストレージマシンのデータボリュームは、同じジャーナルに登録できません。 • データダイレクトマップ属性の Dynamic Provisioning の仮想ボリュームは、ジャーナルに登録できません。 • ジャーナルボリュームには 1.5GB 以上の容量が必要です。 • ジャーナルボリュームの容量は Asynchronous Replication の容量課金の対象に含まれません。 • 仮想ストレージマシンを作成している場合、ジャーナル ID は仮想ストレージマシン間で重複できません。
iStorage V Series SDS との接続	iStorage V Series SDS に iSCSI 接続する際、Asynchronous Replication で使用するリモートパスと Universal Volume Manager のパスの両方を、1 つのポートに設定することはできません。詳細は、『Universal Volume Manager ユーザガイド』を参照してください。

表 2-6 iSCSI インタフェース対応状況一覧

接続元装置		接続先装置			
		iStorage V100,V300		iStorage V110,V310,V310F	
		iSCSI 10Gbps チャンネルボード	iSCSI 25Gbps チャンネルボード	iSCSI 10Gbps チャンネルボード	iSCSI 25Gbps チャンネルボード
iStorage V110,V310,V310F	iSCSI 10Gbps チャンネルボード	○	×	○	○※2
	iSCSI 25Gbps チャンネルボード	○※1	×	○※2	○※2

(凡例)

○ : サポート

× : 未サポート

注※1

以下のファームウェアバージョンの組み合わせでサポートします。なお、リンクアップスピードは 10Gbps です。

iStorage V100,V300 : 93-07-30-XX 以降

iStorage V110,V310,V310F : A3-05-21-XX 以降

注※2

以下のファームウェアバージョンの組み合わせでサポートします。なお、リンクアップスピードは、10Gbps と 25Gbps が混在する場合は 10Gbps、25Gbps 同士の場合は 25Gbps です。

iStorage V110,V310,V310F : A3-04-21-XX 以降

第 3 章

Asynchronous Replication システムの計画

Asynchronous Replication システムは、組織が遂行しなければならない業務の要件と業務システムにかかる作業負荷を関連づけて計画します。災害時に対応した業務の要件を定義し、システムが復旧するまでの時間にシステムが生成するデータの変更量を計測してください。これらの情報が分かれば、ジャーナルボリュームのサイズや、データパスへ更新データを転送するために必要な帯域を算出できます。この章では、Asynchronous Replication システムを構築するために検討する必要がある項目について説明します。

3.1 業務でのデータ回復の要件の検討

Asynchronous Replication システムでは、ジャーナルデータを副サイトに転送し続けると、マスタジャーナルボリュームは空に近い状態になります。しかし、書き込みデータ量が急上昇して長期にわたってデータ転送帯域より高い値になったり、パスに障害が発生したりすると、副サイトに移動できなくなったジャーナルデータがマスタジャーナルボリュームに蓄積されます。

ジャーナルボリュームに蓄積してもよいジャーナルデータの量を確実にするために、次の値を見積もる必要があります。

- ジャーナルボリュームにデータを蓄積しても問題が発生しない最長時間
操作リカバリポイント目標（RPO）を決定して算出します。
- アプリケーションが生成する変更データの量
書き込み作業負荷を測定して算出します。

関連リンク

参照先トピック

[リカバリポイント目標の決定 \(26 ページ\)](#)

[書き込み作業負荷 \(27 ページ\)](#)

3.2 リカバリポイント目標の決定

障害や災害の発生後、操作の存続よりもデータの損失の方が大きくなる手前の時間、業務に支障が出ない最大限の時間が、操作の回復ポイントとなります。

たとえば、1 時間分のデータの損失まで業務を存続できるとき、午前 10 時に災害が発生した場合は午前 11 時までにはシステムを修正する必要があります。この場合、ジャーナルボ

リユームは少なくとも1時間のうちに蓄積されるジャーナルデータを保持できる容量が必要です。もし、リカバリポイント目標が4時間であれば、ジャーナルボリュームは少なくとも4時間分のジャーナルデータを保持できる容量が必要になります。

リカバリポイント目標を決定するには、ホストアプリケーションの書き込み作業負荷を知る必要があります。書き込み作業負荷と IOPS を使用して、書き込み作業負荷が示すトランザクションの数、操作するために最適なトランザクションの数、失われたデータをログファイルから回復するかどうか、などを調査できます。その結果がリカバリポイント目標になります。

関連リンク

参照先トピック

[業務でのデータ回復の要件の検討 \(26 ページ\)](#)

[書き込み作業負荷 \(27 ページ\)](#)

3.3 書き込み作業負荷

書き込み作業負荷とは、業務システムごとに変更されるデータ量 (MB/秒) のことです。書き込み作業負荷は、測定する時期や期間によって異なるため、長期間測定する必要があります。

計測データを使用して、作業負荷の平均値を算出し、作業負荷がピークになる場所を示し、精度の高い平均値を示します。次にピークの周期の平均を算出します。これらのベースの1つを使用して、リカバリポイント目標時間、たとえば2時間を超えて蓄積するデータ量を算出します。これは、ジャーナルボリュームまたはシステムが必要とするデータ転送帯域の基本量になります。

平均値や、平均値の丸め、あるいはピークの作業負荷を選択するかどうかは、提供するデータパス（これもまた書き込み作業負荷によって決定されます）のデータ転送帯域の量をベースとしています。データ保護の計画に基づいて、データ転送帯域とジャーナルボリューム容量を一緒に検討してください。

関連リンク

参照先トピック

[業務でのデータ回復の要件の検討 \(26 ページ\)](#)

[書き込み作業負荷の測定 \(27 ページ\)](#)

3.3.1 書き込み作業負荷の測定

作業負荷データは、OS のパフォーマンスモニタリング機能を使用して集められます。読み取り／書き込みトランザクションの数、または1秒ごとの入出力 (IOPS) も、同じソフトウェアで集められます。正確なデータ転送速度を測定するためには、IOPS を利用して、

RAID グループ構成や、Asynchronous Replication システムが必要とするファイバチャネルポートまたは iSCSI ポートの数を確定します。各 RAID グループは最大のトランザクションスループットを持つとともに、ポートやマイクロプロセッサは IOPS のしきい値を持っています。

月、期、および年の繁忙期に、作業負荷や IOPS を収集します。これは、高負荷時や急上昇時に、多くのデータが変更される時、システムへの要求が最高になった時、システムの実際の作業負荷を表すデータを集める手助けとなります。これらの期間にわたってデータを収集することで、開発する Asynchronous Replication システムがすべての作業負荷レベルでシステムをサポートすることを保証するようにします。

書き込み作業負荷と IOPS の測定方法を次に示します。

操作手順

1. 性能監視用のソフトウェアを使用して、次の内容を収集します。
 - 複製される各物理ボリュームに対する 1 秒ごとのディスク書き込みバイト (MB/s)。
 - データは、通常期、繁忙期のサイクルを対象とするため、3、4 週間の期間にわたって収集します。
 - データは、5 分間の間隔で収集します。平均値を使用するなら、より短い間隔にした方がより正確になります。
2. 収集期間の終了時に、必要なデータを MB/s に変換して、エクスポートツール 2 で出力します。

関連リンク

参照先トピック

[書き込み作業負荷 \(27 ページ\)](#)

3.4 ジャーナルボリューム準備のための情報

次にあげる情報は、ジャーナルボリュームを準備するために必要な情報です。

- 正サイトのストレージシステムおよび副サイトのストレージシステムに、ジャーナルボリュームを設定してください。ジャーナルボリュームは、リカバリポイント目標および書き込み作業負荷によってサイズ調整を行ってください。
- 同じジャーナルにあるジャーナルボリュームは、容量が異なることがあります。マスタジャーナルボリュームと、対応するリストアジャーナルボリュームは、容量が異なることがあります。

- ・ ジャーナルボリュームは2つの領域から構成されています。1つはジャーナルデータを格納するために使用され、もうひとつはメタデータを格納するために使用されています。

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication のシステム要件 \(20 ページ\)](#)

[ジャーナルボリュームのサイズ設定 \(29 ページ\)](#)

3.5 ジャーナルボリュームのサイズ設定

関連リンク

参照先トピック

[ジャーナルボリューム容量の検討 \(29 ページ\)](#)

[ジャーナルボリューム容量の算出 \(30 ページ\)](#)

[ジャーナルの構成を検討する \(31 ページ\)](#)

3.5.1 ジャーナルボリューム容量の検討

ジャーナルボリュームとして必要なボリュームの容量は、「一時的なデータ転送増加」や「正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステム間の通信パス障害」が発生したときに、データ転送が障害とならないでホストとのデータ転送を継続できる時間と、その間のデータ転送速度から決定されます。次にジャーナルボリューム容量の算出式を示します。

一時的なデータ転送増加の期間内でのジャーナルボリューム容量は、ホストと正サイトのストレージシステム間のデータ転送速度を V_{H-L} 、正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステム間のデータ転送速度を V_{L-R} 、継続時間を t とすると、下記の式になります。

$$\text{ジャーナルボリューム容量} > (V_{H-L} - V_{L-R}) \times t$$

正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステム間の通信パス障害時のジャーナルボリューム容量は、上式で $V_{L-R}=0$ の値となります。

ジャーナルボリュームの容量は、上に示す値を超える十分な容量を持つ必要があります。ただし、同時に下記の条件を満たす必要があります。

- ・ ジャーナルボリュームには 1.5GB 以上の容量が必要です。
- ・ ジャーナルに登録できるボリュームは Dynamic Provisioning 仮想ボリュームだけであることから、Dynamic Provisioning のプールには、ジャーナルボリューム用の容量として、1つのジャーナルあたり 1.5GB を超える容量を設定してください。

⚠ 注意

上記の条件を満たさない場合は、次の問題が発生するおそれがあり、システムの動作を保証できません。

- ジャーナルボリュームが満杯になり更新 I/O の流入が制限され、ホストの性能が低下する。
- ジャーナルボリュームが満杯になり形成コピーの性能が低下する。
- ジャーナルボリュームが満杯になり Asynchronous Replication ペアがサスペンドする。

3.5.2 ジャーナルボリューム容量の算出

書き込み作業負荷とリカバリポイント目標に使用する、ジャーナルボリュームの容量を算出します。

ジャーナルの容量の計算方法を次に示します。

操作手順

1. 書き込み作業負荷を測定します。
2. システムのピーク書き込み作業負荷と、組織のリカバリポイント目標を使用してジャーナルの容量を算出してください。例を以下に示します。

リカバリポイント目標 = 2 時間

書き込み作業負荷 = 30 MB/秒

リカバリポイント目標への書き込み作業負荷を算出します。例では、2 時間の書き込み作業負荷を次のように算出しています。

$30 \text{ MB/秒} \times 60 \text{ 秒} = 1,800 \text{ MB/分}$

$1,800 \text{ MB/分} \times 60 \text{ 分} = 108,000 \text{ MB/時間}$

$108,000 \text{ MB/時間} \times 2 \text{ 時間} = 216,000 \text{ MB}$

基本となるジャーナルボリュームの容量 = 216,000 MB (216 GB)

ジャーナルボリューム容量とデータ転送帯域の容量は連携します。データを保護する対策を立てることで、データ転送帯域やジャーナルボリュームの容量の調整が可能になります。

⚠ 注意

マスタジャーナルボリュームに格納されているジャーナルデータは、そのジャーナルデータがリストアジャーナルのデータボリュームにリストアされるまで削除されません。このため、リストアジャーナルボリュームがマスタジャーナルボリュームよりも大きい場合、マスタジャーナルボリュームが先に満杯になります。また、災害リカバリを実施する場合、副サイトの格納領域には業務の作業負荷を取り扱うために十分なサイズが必要です。このため、リストアジャーナルの容量はマスタジャーナルと同じにする必要があります。

—— 関連リンク ——

参照先トピック

[書き込み作業負荷の測定 \(27 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication のデータ転送帯域の決定 \(42 ページ\)](#)

3.5.3 ジャーナルの構成を検討する

Asynchronous Replication は、ボリュームに対するデータ更新順序の整合性を、ボリュームが属しているジャーナル単位に維持します。

アプリケーション（またはアプリケーションのグループ）と、ボリュームが整合性を保つための要件を理解したうえで、ジャーナルの構成を検討してください。

たとえば、データベースは通常 2 つのセクションに実装されます。データの実体はデータ格納領域にあり、データ格納領域にデータが格納された後に、完了したトランザクションがログに書き込まれます。ログがデータ格納領域とは別のジャーナルにある場合、システムが回復するまでにトランザクションが失われるおそれがあります。したがって、複製ボリュームの有効回復イメージを保証するために、データ格納領域とログの両方を同じジャーナルに置くことで、I/O の整合性を保つ必要があります。

—— 関連リンク ——

参照先トピック

[Asynchronous Replication のシステム要件 \(20 ページ\)](#)

3.6 データ転送速度の検討

Asynchronous Replication システムのジャーナルデータを転送する性能は、次にあげる 2 つの要因に直接的に依存します。

- RAID グループ構成
- ファイバチャネルポートまたは iSCSI ポート構成

ジャーナルデータの量およびトランザクションの数に対処できるようにデータ転送速度を計画することで、システムを最良の条件で運用できます。

本ストレージシステムでのファイバチャネルポートまたは iSCSI ポートは、IOPS しきい値を持っています。Asynchronous Replication に必要なファイバチャネルポートまたは iSCSI ポートの数を算出するため、システムが生成する性能管理情報を使用してください。

—— 関連リンク ——

参照先トピック

[Asynchronous Replication が使用するポート \(44 ページ\)](#)

3.7 ペアボリュームの検討

Asynchronous Replication ペアの作成に必要な情報を次に示します。

- セカンダリボリュームの容量は、プライマリボリュームと同じである必要があります。
- セカンダリボリュームがプライマリボリュームと同じホストに接続されている場合、セカンダリボリュームは、オフラインに設定してください。
- プライマリボリュームとセカンダリボリュームは、LUN パスが定義されたボリューム同士である必要があります。
- プライマリボリュームとセカンダリボリュームになるボリュームを明確にしてください。ペアになるセカンダリボリュームは、ポート名、ホストグループ ID または iSCSI ターゲット ID、および LUN ID で指定します。
- 複数のペアを同時に作成できます。
- Asynchronous Replication ペアを作成するとき、プライマリボリュームからセカンダリボリュームにデータをコピーしないで、ペアを作成するオプションがあります。このオプションは、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの内容が完全に同じであることが確実な場合にだけ、使用できます。

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication のシステム要件 \(20 ページ\)](#)

[最大ペア数の制限 \(32 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication ペアを作成する \(66 ページ\)](#)

3.7.1 最大ペア数の制限

作成できるペアの数には上限があります。ユーザの環境に応じて、作成できるペアの最大数を算出してください。なお、ペアの最大数はストレージシステムのモデルによって異なります。算出したペア数がこの値を超えた場合は、モデルごとの最大値が上限になります。

なお、ボリュームの容量が 4,194,304MB (8,589,934,592block) より大きい DP-VOL は、ビットマップエリアを使用しません。そのため、ボリュームの容量が 4,194,304MB (8,589,934,592block) より大きい DP-VOL を使用して Asynchronous Replication ペアを作成する場合、最大ペア数は算出不要です。

関連リンク

参照先トピック

[ペアの最大数の算出 \(33 ページ\)](#)

3.7.1.1 ペアの最大数の算出

ペアの最大数を算出する式は次のとおりです。なお、計算式にある「↑」はカッコ内の値を整数に切り上げることを、「↓」はカッコ内の値を整数に切り下げることを示します。

$$\text{ペアの最大数} = \downarrow (\text{ストレージシステムのビットマップエリア数} \div \text{必要ビットマップエリア数})$$

↓
次の説明に従って、計算してください。

シリンダ数の算出

必要ビットマップエリア数を算出するため、まずシリンダ数を求めます。シリンダ数の算出には、次の計算式を使用してください。

$$\text{シリンダ数} = (\uparrow ((\uparrow (\text{論理ブロック数} \div 512) \uparrow) \div 15) \uparrow)$$

$$\text{論理ブロック数} = \text{ボリュームの容量 (単位: バイト)} \div 512$$

論理ブロック数の単位はブロックです。

必要ビットマップエリア数の算出

次に、必要ビットマップエリア数を求めます。次の計算式を使用してください。

$$\text{必要ビットマップエリア数} = (\uparrow ((\text{シリンダ数} \times 15) \div 122,752) \uparrow)$$

シリンダ数 × 15 はスロット数を示します。

122,752 は 1 つのビットマップエリアが管理できるスロット数です。

メモ

必要ビットマップエリア数は、ボリュームごとに計算してください。複数ボリュームのシリンダ数を足した値を使用して必要ビットマップエリア数を算出すると、正しい算出結果が得られないおそれがあります。

例として 10,017 シリンダと 32,760 シリンダの 2 つのボリュームを使用する場合を示します。以下の正しい計算方法で計算してください。

- 正しい計算方法

$$(\uparrow ((10,017 \times 15) \div 122,752) \uparrow) = 2$$

$$(\uparrow ((32,760 \times 15) \div 122,752) \uparrow) = 5$$

合計 7 ビットマップエリア

- 誤った計算方法

$$10,017 + 32,760 = 42,777 \text{ シリンダ}$$

$$(\uparrow ((42,777 \times 15) \div 122,752) \uparrow) = 6$$

合計 6 ビットマップエリア

ヒント

- 使用するビットマップエリアは、Synchronous Replication、Asynchronous Replication、および Active Mirror で共用です。そのため、これらのプログラムプロダクトを混在して運用する場合は、ストレージシステムのビットマップエリア総数（65,536）から、それぞれのプログラムプロダクトの必要ビットマップエリア数を減算した後、Asynchronous Replication の作成可能最大ペア数を算出してください。なお、それぞれのプログラムプロダクトの必要ビットマップエリア数の算出方法は、対応するユーザガイドを参照ください。
- ビットマップエリアは Synchronous Replication も使用します。

作成できる最大ペア数の算出

次の計算式を使用して、作成できるペアの最大数を算出します。

ペアの最大数 = $\downarrow$ (ストレージシステムのビットマップエリア数 $\div$ 必要ビットマップエリア数)
 $\downarrow$

すでに求めた必要ビットマップエリア数と、次の表に示すストレージシステムのビットマップエリア数で計算します。ストレージシステムのビットマップエリア数は、Asynchronous Replication 用に増設したシェアドメモリの有無とモデルによって決定されます。

Asynchronous Replication 用のシェアドメモリの増設状況	ストレージシステムのビットマップエリア数	
	iStorage V110	iStorage V310,V310F
Base（増設シェアドメモリなし）	65,536 個	65,536 個
増設あり	-	65,536 個

メモ

ペアの最大数はストレージシステムのモデルによって異なります。算出したペアの最大数がモデルごとの最大数を超えた場合は、モデルごとの最大数が上限になります。

- iStorage V110：最大 16,384 ペア
推奨は、最大 8,192 ペア以内です。
- iStorage V310,V310F：最大 49,152 ペア
推奨は、最大 24,576 ペア以内です。

3.8 災害リカバリの検討

Asynchronous Replication システムを設計するときには、災害リカバリの解決策を検討します。災害リカバリに必要な主要タスクは次のとおりです。

- 災害リカバリ用のバックアップを取得したい場合は、バックアップするデータボリュームを特定する。

- Asynchronous Replication を使用して重要なボリュームをペアにする。
- ファイルとデータベースの復帰手順を確立する。
- 正サイトと副サイトのホストフェールオーバーソフトウェアをインストールおよび構成する。

災害リカバリの手順については「[第9章 災害リカバリ \(117 ページ\)](#)」を参照してください。

関連リンク

参照先トピック

[ホストフェールオーバーソフトウェア \(35 ページ\)](#)

3.8.1 ホストフェールオーバーソフトウェア

ホストフェールオーバーソフトウェアは、災害リカバリの重要な要素です。正サイトのストレージシステムが Asynchronous Replication ペアの同期に失敗した場合、正サイトのストレージシステムはセンス情報を発生させます。この情報は、災害リカバリを効果的にするためにホストフェールオーバーソフトウェアを使用して副サイトに転送する必要があります。

RAID Manager では、業界標準フェールオーバー製品と連動するフェールオーバーコマンドが使用できます。

3.9 Asynchronous Replication と他のプログラムプロダクトとのボリュームの共有

Asynchronous Replication で使用するボリュームは、他のプログラムプロダクトが使用するボリュームと共用できます。Asynchronous Replication でペアを組んでいるボリュームを、他のプログラムプロダクトと共有することで、リモートコピー機能を拡張できます。

Asynchronous Replication とボリュームを共有できるプログラムプロダクトは、次のプログラムプロダクトです。

- Data Retention Utility
- Dynamic Provisioning
- LUN Manager
- Resource Partition Manager
- Local Replication
- Snapshot Advanced
- Universal Volume Manager
- Virtual LUN

- Volume Migration

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication](#) と併用できるボリューム種別 (156 ページ)

[Asynchronous Replication](#) と [Local Replication](#) の併用についての概要 (166 ページ)

3.10 シェアドメモリの増設および減設

Asynchronous Replication ペアを使用している場合、シェアドメモリの増設および減設に必要な手順を説明します。

3.10.1 シェアドメモリの増設の流れ

シェアドメモリを増設する手順の流れを次に示します。

操作手順

1. ストレージシステム内のボリュームの状態を確認します。
2. ストレージシステム内のボリュームが、COPY 状態の Asynchronous Replication ペアで使用しているボリュームの場合は、PAIR 状態へ遷移するのを待つか、Asynchronous Replication ペアを分割します。

3. シェアドメモリを増設します。

シェアドメモリの増設手順は、『オプション製品増設/搭載位置変更手順書』を参照してください。

4. 手順2で Asynchronous Replication ペアを分割した場合は、Asynchronous Replication ペアを再同期します。

3.10.2 シェアドメモリの減設の流れ

シェアドメモリを減設する手順の流れを次に示します。

操作手順

1. ストレージシステム内のボリュームの状態を確認します。
2. ストレージシステム内のボリュームが、Asynchronous Replication ペアで使用しているボリュームの場合は、Asynchronous Replication ペアを削除します。

3. シェアドメモリを増設して、ジャーナルを最大数よりも多く使用したことがある場合、登録したすべてのジャーナルを解除します。

ジャーナルの最大数については「[2.1 Asynchronous Replication のシステム要件 \(20 ページ\)](#)」を参照してください。

4. シェアドメモリを減設します。

シェアドメモリの減設手順は、『オプション製品増設/搭載位置変更手順書』を参照してください。

3.11 Asynchronous Replication システムの準備ガイドライン

Asynchronous Replication を使用するための準備が整っているかどうかを判断するために、次のガイドラインを使用してください。

- 正サイトと副サイトのストレージシステムが Asynchronous Replication 操作用に正しく構成されていることを確認してください。
- 正サイトと副サイトのストレージシステムのシステムオプションモードを設定する必要があるかどうか、設定する必要がある場合は設定済みかどうかを確認してください。詳細については、関連項目を参照してください。
- 正サイトのストレージシステムが、センス情報をホストに報告するように構成されていることを確認してください。副サイトのストレージシステムも、セカンダリボリュームまたは副サイトのストレージシステムで問題が発生した場合にセンス情報を報告できるように、ホストサーバに接続しておくことを推奨します。リモートシステムがホストに接続していない場合でも監視業務を実行できるように、副サイトのストレージシステムを正サイトのホストサーバに接続しておいてください。
- 正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステム間の Asynchronous Replication リモートコピー接続（ファイバチャネルケーブルまたは iSCSI ケーブル、スイッチなど）をインストールしてください。
- データパスを設定したら、最大の柔軟性と可用性を実現するために、異なるストレージクラスとスイッチに配信してください。正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステム間のリモートパス、ホストと副サイトのストレージシステム間のリモートパスは分離してください。

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication のシステム要件 \(20 ページ\)](#)

[システムオプションモード \(38 ページ\)](#)

3.11.1 システムオプションモード

ストレージシステムのシステムオプションモードを使用できます。Asynchronous Replication では、システムオプションモードを次の場合に使用します。

- ミラーに対する構成分割オプション

使用できるシステムオプションモードを次の表に示します。システムオプションモードについては、お問い合わせください。

モード	デフォルト	説明																				
690	OFF	バックグラウンドで実行されるコピーまたはリストアの負荷が、副サイトにあるストレージシステムのホスト I/O の性能に影響を与えない場合に設定します。モード 690 を ON にすると、バックグラウンドで実行されるコピーまたはリストアを制限します。 • ON：次の場合に、コピーまたはリストアを制限します。 - 副サイトのストレージシステムのジャーナルボリュームが属する MP ユニットの Write ペンディング率が 60%以上の場合、コピーを制限します。 - セカンダリボリュームが属する MP ユニットの Write ペンディング率が 60%以上の場合、リストアを制限します。 • OFF：Write ペンディング率が 60%以上の場合でも、コピーまたはリストアを制限しません。																				
1198	OFF	Asynchronous Replication ペアの容量拡張操作時に、差分管理方式を、シェアドメモリ差分から階層差分に切り替えるために使用します。 このシステムオプションが ON の場合、システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定値に依存せず動作します。 <table><tr><th>SOM1198</th><th>SOM1199</th><th>機能概要</th><th>備考</th></tr><tr><td>OFF</td><td>OFF</td><td>差分管理方式を切り替えません。</td><td>システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定値で動作します。</td></tr><tr><td>ON</td><td>OFF</td><td>4TB 以下の Synchronous Replication、Asynchronous Replication、または AM ペアの差分管理方式をシェアドメモリ差分から階層差分に切り替えます。</td><td>システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定に関わらず、差分管理方式を階層差分に切り替えます。</td></tr><tr><td>OFF</td><td>ON</td><td>4TB 以下の Synchronous Replication、Asynchronous Replication、または AM ペアの差分管理方式を階層差分からシェアドメモリ差分に切り替えます。</td><td>システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定に関わらず、差分管理方式をシェアドメモリ差分に切り替えます。</td></tr><tr><td>ON</td><td>ON</td><td>4TB 以下の Synchronous Replication、Asynchronous Replication、または</td><td>システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定に関わらず、差分管理方式を階層差分に切り替えます。</td></tr></table>	SOM1198	SOM1199	機能概要	備考	OFF	OFF	差分管理方式を切り替えません。	システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定値で動作します。	ON	OFF	4TB 以下の Synchronous Replication、Asynchronous Replication、または AM ペアの差分管理方式をシェアドメモリ差分から階層差分に切り替えます。	システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定に関わらず、差分管理方式を階層差分に切り替えます。	OFF	ON	4TB 以下の Synchronous Replication、Asynchronous Replication、または AM ペアの差分管理方式を階層差分からシェアドメモリ差分に切り替えます。	システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定に関わらず、差分管理方式をシェアドメモリ差分に切り替えます。	ON	ON	4TB 以下の Synchronous Replication、Asynchronous Replication、または	システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定に関わらず、差分管理方式を階層差分に切り替えます。
SOM1198	SOM1199	機能概要	備考																			
OFF	OFF	差分管理方式を切り替えません。	システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定値で動作します。																			
ON	OFF	4TB 以下の Synchronous Replication、Asynchronous Replication、または AM ペアの差分管理方式をシェアドメモリ差分から階層差分に切り替えます。	システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定に関わらず、差分管理方式を階層差分に切り替えます。																			
OFF	ON	4TB 以下の Synchronous Replication、Asynchronous Replication、または AM ペアの差分管理方式を階層差分からシェアドメモリ差分に切り替えます。	システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定に関わらず、差分管理方式をシェアドメモリ差分に切り替えます。																			
ON	ON	4TB 以下の Synchronous Replication、Asynchronous Replication、または	システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定に関わらず、差分管理方式を階層差分に切り替えます。																			

モード	デフォルト	説明			
		SOM1198	SOM1199	機能概要	備考
				AM ペアの差分管理方式をシェアドメモリ差分から階層差分に切り替えます。	
1199	OFF	Asynchronous Replication ペアの容量拡張操作時に、差分管理方式を、階層差分からシェアドメモリ差分に切り替えるために使用します。 このシステムオプションが ON の場合、システム詳細設定の No.5 および No.6 の設定値に依存せず動作します。			
1254	OFF	コピー先のボリュームの MP ユニットの Write ペンディング率が 35% 以上のとき、バックグラウンドで実行するコピーの動作を抑止するかどうかを選択できます。 このオプションを使用した場合は、ストレージシステム全体的に一律機能が適用されます。 - ON : コピー先のボリュームの MP ユニットの Write ペンディング率が 35% 以上のとき、バックグラウンドで実行するコピーの動作を抑止し、コピー先のストレージシステムの Write ペンディング率の増加を抑止します。 - OFF : システムオプションモード 690 の設定に従います。 [注意事項] - コピーしきい値オプションの適用フローを含む詳細については、『システム構築ガイド』のコピーしきい値オプションに関する項目を参照してください。			
1329	ON	MCU がキャッシュ片面閉塞状態の場合、Asynchronous Replication ペアのペア形成、再同期、スワップリシンク操作を可能にするかどうかを選択できます。RCU がキャッシュ片面閉塞状態の場合は、モード 1329 の設定に関係なく、Asynchronous Replication ペアのペア形成、再同期の操作が可能です。ただし、災害リカバリなどの際にプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替える場合を考慮して、MCU でモード 1329 を ON にする際は、RCU も ON にすることを推奨します。 - ON : Asynchronous Replication ペアのペア形成、再同期、スワップリシンク操作ができます。 - OFF : Asynchronous Replication ペアのペア形成、再同期、スワップリシンク操作はできません。 [注意事項] - このオプションの有効時に、キャッシュ片面閉塞状態で、Asynchronous Replication ペアの形成コピーが動作した場合には、次の影響があります。 - ドライブ負荷が上昇し、ホスト性能影響が発生する可能性があります。 - 形成コピー性能が、キャッシュが正常な状態に比べて低下する可能性があります。 - 形成コピー動作中は、閉塞したキャッシュの保守は実施できません。 形成コピー中に、許容できないホスト性能影響が発生した場合や、閉塞したキャッシュの保守を実施する場合は、形成コピーを中断してください。 - スワップリシンクの場合、操作対象の RCU は、操作の後に MCU となります。このため、操作対象の RCU に対して、このシステムオプションモードを有効に設定してください。			

3.11.2 システム詳細設定

Asynchronous Replication で設定できるシステム詳細設定を次の表に示します。システム詳細設定は、RAID Manager の `raidcom modify user_system_opt` コマンドで設定できます。設定方法については、『RAID Manager コマンドリファレンス』を参照してください。

システム 詳細設定 No.	デフォルト	説明																														
5、6	OFF	システム詳細設定 No.5 と No.6 の設定を変更すると、Synchronous Replication、Asynchronous Replication、または Active Mirror の新規ペアおよび既存ペアの差分管理方式を変更できます。 システム詳細設定の No.5 と No.6 との組み合わせによる動作の違いは次のとおりです。 <table><tr><th colspan="2">システム詳細設定</th><th colspan="2">新規ペアの差分管理方式</th><th colspan="2">既存ペアの差分管理方式</th></tr><tr><th>No.5</th><th>No.6</th><th>シェアドメモリ差分</th><th>階層差分</th><th>階層差分からシェアドメモリ差分へ変更</th><th>シェアドメモリ差分から階層差分へ変更</th></tr><tr><td>OFF</td><td>OFF</td><td>○</td><td></td><td>○※1</td><td></td></tr><tr><td>ON</td><td>OFF</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○※1</td></tr><tr><td>OFF</td><td>ON</td><td></td><td>○</td><td>—※2</td><td>—※2</td></tr></table> 注※1 システム詳細設定を設定後に再同期操作を行い、PAIR 状態に遷移する際に既存ペアの差分管理方式が変更されます。 注※2 既存ペアの差分管理方式は変更されません。シェアドメモリ差分のペアの場合は、再同期後もシェアドメモリ差分を、階層差分のペアの場合は、再同期後も階層差分を維持します。 [注意事項] - ユーザ容量が 4,194,304MB より大きい DP-VOL を用いたペアに関しては、No.5 と No.6 の設定に関係なく、新規ペア作成時に、階層差分が適用されます。 - 正サイトと副サイトのストレージシステムで、システム詳細 No.5 と No.6 を同じ設定にしてください。 - システムオプションモード 1198、1199 を設定している場合は、システムオプションモード 1198、1199 の動作仕様が優先されます。「3.11.1 システムオプションモード (38 ページ)」を参照してください。	システム詳細設定		新規ペアの差分管理方式		既存ペアの差分管理方式		No.5	No.6	シェアドメモリ差分	階層差分	階層差分からシェアドメモリ差分へ変更	シェアドメモリ差分から階層差分へ変更	OFF	OFF	○		○※1		ON	OFF		○		○※1	OFF	ON		○	—※2	—※2
システム詳細設定		新規ペアの差分管理方式		既存ペアの差分管理方式																												
No.5	No.6	シェアドメモリ差分	階層差分	階層差分からシェアドメモリ差分へ変更	シェアドメモリ差分から階層差分へ変更																											
OFF	OFF	○		○※1																												
ON	OFF		○		○※1																											
OFF	ON		○	—※2	—※2																											
15	OFF	リモートパス障害検出時、1 分後にミラーを分割する設定を有効にすると、リモートパス障害検出時、1 分以内にリモートパス障害が回復しない場合、ミラーを分割します。 設定を無効にすると、リモートパス障害検出時、ミラーオプションのパス監視時間内にリモートパス障害が回復しない場合、ミラーを分割します。 本設定は、No.16 が有効のときだけ有効になります。No.16 が無効の場合、リモートパス障害を検出してもミラーを分割しません。																														
16	OFF	リモートパス障害検出時、ミラーを分割する設定を有効にすると、リモートパス障害検出時にミラーを分割します。 設定を無効にすると、リモートパス障害を検出してもミラーを分割しません。																														

システム 詳細設定 No.	デフォルト	説明		
		No.		説明
		15	16	
		無効	無効	リモートパス障害を検出してもミラーを分割しない。
		有効	無効	リモートパス障害を検出してもミラーを分割しない。
		無効	有効	リモートパス障害検出時、パス監視時間内にパスが回復しなければミラーを分割する。
		有効	有効	リモートパス障害検出時、1分以内にパスが回復しなければミラーを分割する。
17	OFF	ミラーのコピー速度(中速)を1段階速くする設定を有効にすると、ジャーナルオプションのコピー速度が「中速」モードのときの形成コピーの速度を1段階速くします。「中速」モードでの形成コピーをより速く動作させたい場合に指定します。		
18	OFF	ミラーのコピー速度(中速)を2段階速くする設定を有効にすると、ジャーナルオプションのコピー速度が「中速」モードのときの形成コピーの速度を2段階速くします。「中速」モードでの形成コピーをより速く動作させたい場合に指定します。		

第 4 章

Asynchronous Replication のデータ転送路の検討

ユーザがデータ転送路を適切に設計することで、ホストからの更新データは、事前に設定したリカバリポイント目標を達成できるように遠隔地のサイトに到着します。

この章では、次の項目について説明します。

4.1 Asynchronous Replication のデータ転送路の設計とは

データ転送路を設計するには、次の内容を決定する必要があります。

- ホストのアプリケーションがストレージシステムに書き込んだすべてのデータを副サイトに移動するために必要なデータ転送帯域
- Asynchronous Replication が使用するストレージシステムのポート
- ファイバチャネルケーブルまたは iSCSI ケーブルの種類と必要なスイッチの数（正サイトと副サイトのストレージシステム間の距離）
- データ転送路の接続構成

注意

双方向で確立できるパスは 8 個までです。ハードウェアの冗長性を持つために、少なくとも 2 つの独立したデータ転送路を確立することを強く推奨します。

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication のデータ転送帯域の決定](#) (42 ページ)

[Asynchronous Replication が使用するポート](#) (44 ページ)

[Asynchronous Replication の物理パスの計画](#) (45 ページ)

4.2 Asynchronous Replication のデータ転送帯域の決定

データ転送帯域は、一定の時間内に正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへ転送されるデータ量に従って決定します。データ転送路がデータの送信に対応できない場合、データ転送帯域に余裕が出るまでの間、ジャーナルデータはマスタジャーナルボリュームに保存されます。マスタジャーナルボリュームにジャーナルデータを保持

しきれなくなると、Asynchronous Replication ペアの整合性は失われます。この場合は、別途、新たに形成コピーを実施する必要があります。

通常、データ転送帯域を確保するには高い導入コストが掛かります。一方で、ジャーナルボリュームは、比較的安いコストで容量を拡張できます。ただし、ジャーナルボリュームに蓄積されるジャーナルデータが増えれば増えるほど、Asynchronous Replication ペアの同期にかかる時間が長くなります。どの程度のデータ転送帯域を用意するかは、正サイトと副サイトの同期にかかる時間と、導入コストとの交換条件となります。

データ転送帯域のサイズを決定するための基準を次に示します。決定に際して考慮しなければならない内容はこれらにかぎりませんので、ご注意ください。

- ピーク時の作業負荷に基づいて、データ転送帯域のサイズを決定

プライマリボリュームのデータが更新された時間とセカンダリボリュームでデータが更新される時間の差を小さくします。プライマリボリュームの物理ディスクのピーク時での書き込み作業負荷を特定し、パケットロスやプロトコルオーバーヘッドも考慮してデータ転送路の容量を拡張してください。ピーク時の作業負荷に合わせてデータ転送帯域のサイズを決定すると、リカバリポイント目標は0または0に近くなります。

- ピーク時の作業負荷のローリングアベレージ値に基づいて、データ転送帯域のサイズを決定

ローリングアベレージ値は、ピーク値より小さいが、平均値を上回る値です。ジャーナルボリュームにジャーナルデータが蓄積されることがありますが、たいていの時間はデータが蓄積されません。リカバリポイントとして計画した時間内に Asynchronous Replication システムで発生するジャーナルデータの量を精査するとともに、必要に応じてリカバリポイント目標も見直す必要があります。

- 通常の作業負荷に基づいて、データ転送帯域のサイズを決定

データ転送帯域のサイズが通常書き込み作業の負荷に合わせて決定されている場合、ピーク時の作業負荷に耐えるために、送信しきれないジャーナルデータがマスタジャーナルボリュームに書き込まれます。この超過データは、データ転送帯域に余裕が出るまで、ジャーナルデータの転送遅延の原因になります。超過データの量は、作業負荷の上昇に対して大きくなり、持続時間に比例します。

ヒント

作業負荷を決定できない場合、データ転送帯域のサイズはローリングアベレージ値またはピーク時の作業負荷に基づいて決定し、ネットワークのオーバーヘッドを相殺することを検討してください。この場合、マスタジャーナルボリュームに蓄積されるデータは、セカンダリボリュームに対してまれに完全に空になります。データ転送帯域のサイズを平均の書き込み作業負荷を下回って決定すると、マスタジャーナルボリュームは空にならず、最終的にあふれることになります。

メモ

リアルタイムで副サイトのデータを更新する必要がない場合は、データ転送帯域のサイズとジャーナルボリュームのサイズを小さくできます。この場合、特定の時点で一括してプライマリボリュームのデータをセカンダリボリュームにコピーします。ペアを同期させたまま運用するのではなく、分割状態のままで運用します。いったんペアが分割されると、プライマリボリュームのジャーナルデータは、マスタジャーナルボリュームの書き込み待ち行列に追加されません。その代わりに、差分ビットマップが、どの物理ディスクのどのシリンダが変更されたのかを追跡するために使用されます。この方法は、特定のディスクの限られた範囲に複数回書き込みするアクセスパターンで、データを効率的に転送できます。1つの領域に対する複数回の更新が毎回送られないで、再同期する直前の最後の更新だけが副サイトに送られます。この方法の不利な点は、再同期が完了するまで正サイトと副サイトのデータの一致が保証されないという点です。

Asynchronous Replication へのデータ転送帯域を決定するには、書き込み作業負荷を測定する必要があります。業務システムの作業負荷データは性能監視ソフトウェアを使って集めることができます。

関連リンク

参照先トピック

[書き込み作業負荷の測定 \(27 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication のデータ転送路の設計とは \(42 ページ\)](#)

4.3 Asynchronous Replication が使用するポート

本ストレージシステムのポートには、次の特徴があります。

- ・ ポートにはデータ送信用とデータ受信用の区別がありません。

ヒント

正サイトから副サイトへと副サイトから正サイトへの双方向に論理パスを確立してください。論理パスを設定するとき、正サイトから副サイトへの論理パスの数と、副サイトから正サイトへの論理パスの数が一致していることを確認してください。

- ・ 転送できるデータ量が制限されています。

ヒント

取り扱う可能性のあるデータ量に対して十分な数のポートを本ストレージシステムに確保するため、ピーク時に転送されるデータ量を知る必要があります。

ヒント

本ストレージシステムのどのポートを Asynchronous Replication が使用し、どのポートを Universal Volume Manager が使用するか、あらかじめ決めておいてください。

ヒント

Asynchronous Replication と Universal Volume Manager が正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムの間で同じポートを共用する構成の場合、次の操作を実行すると、処理が完了するまで一時的に I/O が停止します。

- リモートパスと Universal Volume Manager のパスが定義されているとき、片方のパスを削除する。
- リモートパスと Universal Volume Manager のパスのどちらかが定義されているとき、もう一方のパスを定義する。

ヒント

システムが災害リカバリのためのフェールオーバーをサポートしている場合、ポートを正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムで同等のサイズに調整しておくことを推奨します。

Asynchronous Replication システムでポートを使用する目的は、次のとおりです。

- ストレージシステムとホストを接続する。
- Asynchronous Replication コマンドとデータを、正サイトと副サイトのストレージシステム間で送受信する。

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication のデータ転送路の設計とは \(42 ページ\)](#)

4.4 Asynchronous Replication の物理パスの計画

正サイトと副サイトのストレージシステムを接続する物理パスは、プライマリボリュームおよびセカンダリボリュームに送信される可能性のあるデータの総量を、十分に管理できるようにしてください。

なお、物理パスに使用できるインタフェースは、以下のとおりです。

正サイトと副サイトのストレージシステムを接続する物理パスのインタフェース	機種	サポートバージョン (ファームウェアバージョン)
ファイバチャネル 32Gbps	iStorage V110,V310,V310F	全バージョン※1
ファイバチャネル 64Gbps		A3-03-01-XX 以降
iSCSI 10Gbps (Optic)		全バージョン※1
iSCSI 10Gbps (Copper)		A3-04-21-XX 以降
iSCSI 25Gbps		A3-04-21-XX 以降

注※1

なお、iStorage V310F のみサポートバージョンは、A3-03-01-XX 以降

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication に必要な帯域量 \(46 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication のファイバチャネル接続 \(46 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication の接続形態 \(47 ページ\)](#)

[iSCSI を使用するときの注意事項 \(50 ページ\)](#)

[ファイバチャネルを使用するときの注意事項 \(55 ページ\)](#)

4.4.1 Asynchronous Replication に必要な帯域量

すべての作業負荷レベルのデータ転送に対処するため、十分な帯域が必要です。

Asynchronous Replication のシステムに必要な帯域量は、サーバからプライマリボリュームに送信される I/O 量に基づいています。Write 作業負荷を測定して必要な帯域を決定してください。作業負荷データは、性能モニタリングソフトウェアを使って収集できます。

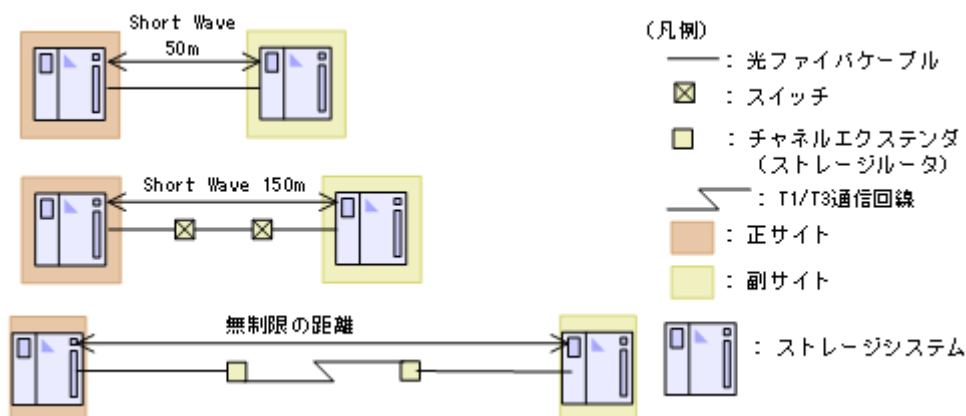
関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication の物理パスの計画 \(45 ページ\)](#)

4.4.2 Asynchronous Replication のファイバチャネル接続

Short Wave (オプティカルマルチモード) 光ファイバケーブルを使って、正サイトと副サイトのストレージシステムを接続します。正サイトと副サイトのストレージシステム間の距離によって、次のとおり必要なケーブルおよびネットワーク中継機器が異なります。



ストレージシステム間の距離	ケーブルの種類	ネットワーク中継機器
～50m	Short Wave (オプティカルマルチモード)	不要

ストレージシステム間の距離	ケーブルの種類	ネットワーク中継機器
(接続転送レートによっては最大150m)		
50～150m (接続転送レートによっては最大150～450m)	Short Wave (オプティカルマルチモード)	スイッチが必要
150m 以上	通信回線	弊社のチャネルエクステンダ (ストレージルータ) が必要

ファイバチャネル接続でスイッチを使用する場合、本ストレージシステム用の特別な設定は不要です。

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication の物理パスの計画 \(45 ページ\)](#)

4.4.3 Asynchronous Replication の接続形態

Asynchronous Replication では、3 種類の接続形態がサポートされています。ポートおよびトポロジの設定には RAID Manager コマンドを使用します。

次のとおり双方向に物理パスを接続します。双方向の物理パスで、同じ接続形態を使用してください。

- ・ 正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへ
- ・ 副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへ

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication の物理パスの計画 \(45 ページ\)](#)

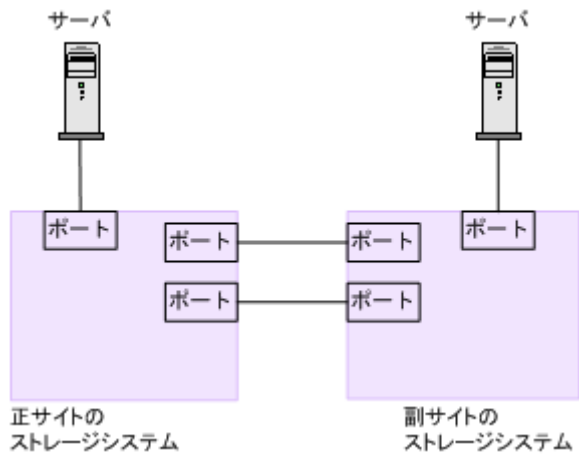
[直結の接続形態 \(47 ページ\)](#)

[スイッチを使用した接続形態 \(48 ページ\)](#)

[チャネルエクステンダ \(ストレージルータ\) を使用した接続形態 \(49 ページ\)](#)

4.4.3.1 直結の接続形態

2 個のデバイスを直結します。



ストレージシステム間の接続に使用するパッケージおよびプロトコルの設定によって、Fabric やトポロジの設定が次のとおり異なります。また、設定できるリンクスピードも異なります。Auto はトポロジ、Fabric に関係なく設定できます。

パッケージ名	プロトコル	Fabric の設定	トポロジ	設定できるリンク スピード
CHB(FC32G)	32GbpsFC	OFF	FC-AL	8Gbps
				Auto※
			Point-to-Point	16Gbps
				32Gbps
CHB(FC64G)	64GbpsFC	OFF	Point-to-Point	Auto※
				16Gbps
				32Gbps
				64Gbps

注※

Auto 設定でリンクアップしたときに、接続相手のポートのスピードに合わせて自動確定されます。

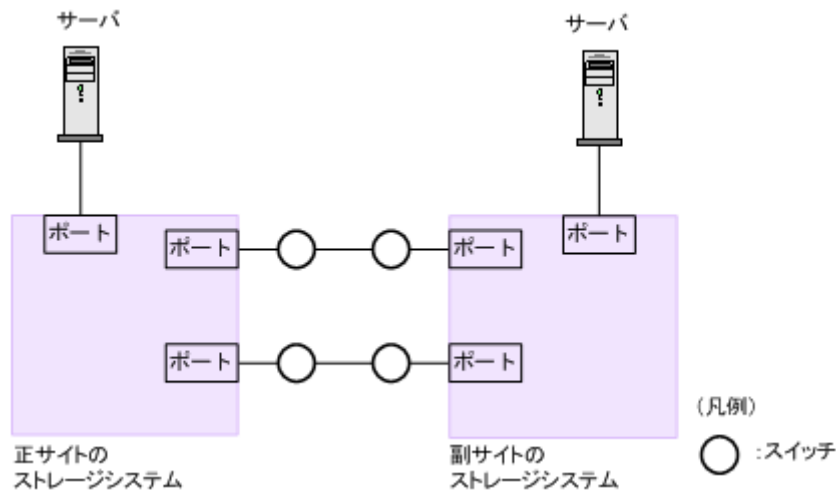
関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication の接続形態 \(47 ページ\)](#)

4.4.3.2 スイッチを使用した接続形態

スイッチを使用して接続します。



ストレージシステム間の接続に使用するパッケージおよびプロトコルの設定によって、Fabric やトポロジの設定が次のとおり異なります。また、設定できるリンクスピードも異なります。Auto はトポロジ、Fabric に関係なく設定できます。

パッケージ名	プロトコル	Fabric の設定	トポロジ	設定できるリンク スピード
CHB(FC32G)	32GbpsFC	ON	Point-to-Point	8Gbps
				16Gbps
				32Gbps
				Auto※
CHB(FC64G)	64GbpsFC	ON	Point-to-Point	16Gbps
				32Gbps
				64Gbps
				Auto※

注※

Auto 設定でリンクアップしたときに、接続相手のポートのスピードに合わせて自動確定されます。

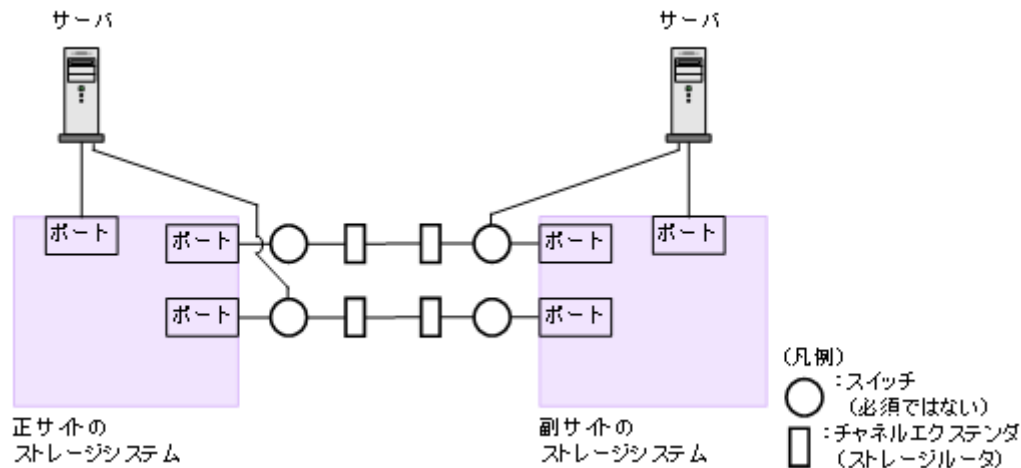
—— 関連リンク ——

参照先トピック

[Asynchronous Replication の接続形態 \(47 ページ\)](#)

4.4.3.3 チャネルエクステンダ（ストレージルータ）を使用した接続形態

長距離にわたってデバイスを接続するためには、チャネルエクステンダ（ストレージルータ）とスイッチを使用します。



Fabric を ON、トポロジを Point-to-Point に設定してください。

⚠ 注意

正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムをスイッチ経由でチャンネルエクステンダ（ストレージルータ）接続した状態で、複数のリモートコピーのパスを1か所にまとめた場合、構成およびスイッチのルーティングの設定によっては、特定のスイッチにデータ転送量が集中するおそれがあります。弊社のスイッチを使用する場合の構成およびルーティングの設定については、お問い合わせください。

⚠ 注意

チャンネルエクステンダ（ストレージルータ）がリモート I/O をサポートできることを確認してください。詳細についてはお問い合わせください。

メモ

正サイトと副サイトの各ストレージシステムの間には、少なくとも2つの独立した物理パス（クラスタごとに1つ）を設定して、この重要な通信パスにハードウェア的な冗長性を持たせてください。

—— 関連リンク ——

参照先トピック

[Asynchronous Replication の接続形態 \(47 ページ\)](#)

4.4.4 iSCSI を使用するときの注意事項

iSCSI を使用してシステムを構築するときには、次に示す注意が必要です。

iSCSI に関する説明は、『システム構築ガイド』を参照してください。

—— 関連リンク ——

参照先トピック

[Asynchronous Replication の物理パスの計画 \(45 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication の接続形態 \(47 ページ\)](#)

4.4.4.1 リモートパスに関する注意事項 (iSCSI を使用するとき)

- 1つのポートを複数のリモートパスとして共有する場合、パス閉塞によって報告されるSIMの監視時間は、すべてのリモートパスで同じ値にすることを推奨します。
- リモートパスで接続先が iSCSI 25Gbps チャンネルボードである場合、接続元装置の DKCMAIN ファームウェアがリモートパスの iSCSI 25Gbps チャンネルボード接続をサポートしている必要があります。そのため、接続元が iSCSI 10Gbps チャンネルボードの場合でも、リモートパスの iSCSI 25Gbps チャンネルボード接続をサポートしていないバージョンへダウングレードしないでください。ダウングレードすると、リモートパスが閉塞します。
- 転送速度ごとの設定内容とサポートしている機能を次に示します。

設定内容／サポートしている機能	iSCSI 25Gbps チャンネルボード	iSCSI 10Gbps チャンネルボード
パス閉塞監視の時間※1	40 (秒) ※3 (デフォルトの設定値)	
パス閉塞によって報告されるSIMの監視時間※2	150 (秒) ※5	70 (秒) ※4 (デフォルトの設定値)
ヘッダーダイジェストおよびデータダイジェストの有効／無効の設定	可	不可
ヘッダーダイジェストおよびデータダイジェストのデフォルトの設定値	有効	有効
接続先のポートの転送速度	25Gbps／10Gbps	10Gbps
リモートパスの冗長構成	必須	推奨

注※1

raidcom modify remote_replica_opt コマンドの-path_blocked_watch オプションで設定します。

注※2

raidcom modify remote_replica_opt コマンドまたは raidcom modify rcu コマンドの-path_blocked_watch_sim オプションで設定します。

注※3

パス閉塞監視の時間を短くした場合、スイッチのスパンニングツリーなどネットワーク上の遅延要因によって、パスが閉塞するおそれがあります。

注※4

デフォルトの設定値で運用してください。

注※5

リモートパスのいずれかで iSCSI 25Gbps チャンネルボードのポートを使用する場合、パス閉塞 SIM 監視時間の設定を、iSCSI 25Gbps チャンネルボード向けの値にしてください。

4.4.4.2 物理パスに関する注意事項（iSCSI を使用するとき）

- 同一パスグループにリモートパスを追加する場合、同一プロトコルでリモートパスを構成することを推奨します。ファイバチャネルと iSCSI が混在する構成は、性能に影響を与えることがあります。
- ホストとストレージシステム間の物理パス、およびストレージシステム間の物理パスでは、同一プロトコルを使用することを推奨します。

次の例のように、使用するプロトコルが混在する場合、ホストとストレージシステム間のコマンドのタイムアウト時間には、ストレージシステム間のコマンドのタイムアウト時間以上の値を設定してください。

- ホストとストレージシステム間の物理パス：ファイバチャネル
- ストレージシステム間の物理パス：iSCSI
- DKC 間の物理パスに、複数の iSCSI のパスを使用すると、それぞれの物理パスの間で、レスポンスタイムに差が発生する場合があります。レスポンスタイムの差を抑えたい場合は、データ転送時間を短縮させることでコマンド多重数の偏りを軽減する必要があります。このため、物理パスのポート（MCU/RCU の両方）に対して、以下を設定してください。
 - Window Size の拡張（1,024KB）
 - ホストモードオプション 104※（iSCSI 最大転送サイズ拡張モード）の設定
 - ホストモードオプション 127※（10Gbps iSCSI Transmit Throttle モード）の設定

注※

このホストモードオプションは、PP サポートサービスなどからの指示があった場合のみ設定してください。

上記の設定で改善されない場合は、物理パスの構成について、回線帯域の拡張や物理パスの追加を検討してください。

4.4.4.3 ポートに関する注意事項（iSCSI を使用するとき）

- iSCSI ポートのパラメータの設定を変更するときは、一時的に iSCSI の接続が切断され、その後再接続されます。システムへ影響がないように、I/O 負荷の低い時間帯にパラメータの設定を変更してください。
- ホストと接続している iSCSI ポートの設定を変更すると、ホストでログが出力されることがありますが、問題ありません。システムログを監視しているシステムでは、アラートが出力されるおそれがあります。アラートが出力された場合は、iSCSI ポートの設定を変更したあと、ホストが再接続されているかどうかを確認してください。
- ストレージシステム間の接続に iSCSI を使用している場合、同一のポートを使用してホストと接続しているときでも、ポートの属性の遅延 ACK モードを無効（RAID Manager の `raidcom modify port -delayed_ack_mode disable`）にしてください。

ポートの属性の遅延 ACK モードが有効の場合、ホストから Asynchronous Replication ペアで使用しているボリュームの認識に時間が掛かることがあります。ボリュームが 2,048 個のときは、約 8 分掛かります。なお、ポートの属性の遅延 ACK モードのデフォルトは有効です。

- ポートの属性の選択型 ACK モードは有効（デフォルト）のままにしてください。
- 長距離での接続など、ストレージシステム間の回線で遅延が発生する環境では、正サイトと副サイトのストレージシステムの両方で、iSCSI ポートのウィンドウサイズを変更できます。iSCSI ポートのウィンドウサイズは、リモートパスに使用するポートによって異なります。

- iSCSI 25Gbps チャンネルボード：64KB～2,048KB（デフォルト 256KB）

- iSCSI 10Gbps チャンネルボード：64KB～1,024KB（デフォルト 64KB）

- iSCSI ポートはフラグメント処理（パケットの分割処理）をサポートしていません。スイッチの最大送信単位（MTU）の値が、iSCSI ポートの MTU の値より小さい場合、パケットが消失し、正常に通信できないおそれがあります。スイッチの MTU の値は iSCSI ポートの MTU 値以上の値を設定してください。MTU の設定および値に関しては、スイッチのマニュアルを参照してください。

なお、iSCSI ポートの MTU の値は 1500 以下に設定できません。MTU の値が 1500 未満の WAN 環境では、フラグメント処理によって分割されたデータを送受信できません。この場合、WAN 環境に合わせて WAN ルータの最大セグメントサイズ（MSS）を小さくしてから、iSCSI ポートに接続してください。または、MTU の値が 1500 以上の WAN 環境で使用してください。

- iSCSI Header Digest（iSCSI 通信のヘッダー情報をエラーから保護する機能）と Data Digest（iSCSI 通信のデータ情報をエラーから保護する機能）はデフォルトで有効です。なお、次に示す注意が必要です。

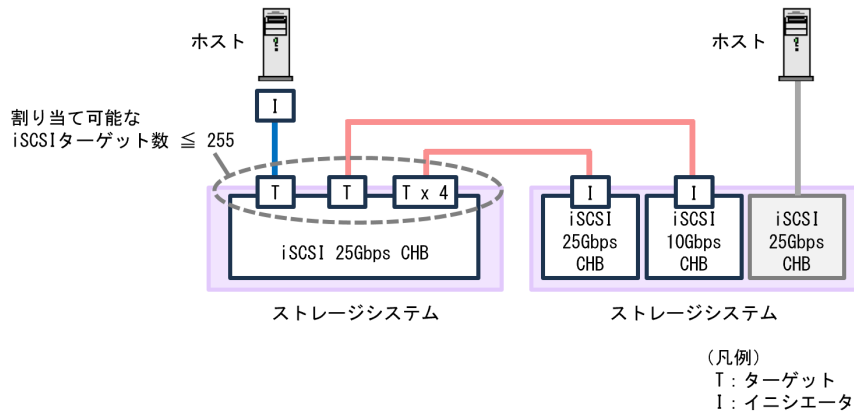
- iSCSI 25Gbps チャンネルボード：

iSCSI Header Digest と Data Digest 以外に、独自の保護機能が設定されています。性能を優先したい場合は、保護機能の重複を避けるために、iSCSI Header Digest と Data Digest を無効に設定してください。

同一パスグループ内のリモートパスは、iSCSI Header Digest と Data Digest のそれぞれで、有効／無効を統一してください。混在すると設定操作が失敗します。

- iSCSI 10Gbps チャンネルボード：
iSCSI Header Digest、および Data Digest を無効に変更できません。
- 仮想ポートモードを有効にした iSCSI ポートでリモートパスを使用する場合、iSCSI ポートの仮想ポート ID (0) のポート情報を使用してください。0 以外の仮想ポート ID を仮想ポートとして使用できません。
- 1 つのポートを、ホストと接続するポート (Target 属性) と、ストレージシステムと接続するポート (Initiator 属性) の、両方に使用できます。ただし、次に示す観点を重視する場合は、Target 属性と Initiator 属性は、別々のチャンネルボード (CHB) に接続することを推奨します。
 - ホストとストレージシステムのどちらかで障害が発生したときに、システムへの影響範囲を軽減する
 - ターゲットとイニシエータのそれぞれが、CHB の最大データ転送速度で I/O できるようにする
- iSCSI 25Gbps チャンネルボードのポートを使用するリモートパスは、冗長構成にしてください。
- リモートパスを構成する際に、MCU と RCU のどちらかに iSCSI 10Gbps チャンネルボード、他方に iSCSI 25Gbps チャンネルボードを使用する場合、RCU に iSCSI 25Gbps チャンネルボードを使用することを推奨します。iSCSI 10Gbps チャンネルボードを使用する場合に比べて、I/O 性能の向上が期待できます。
- MCU と RCU の接続に双方向のリモートパスを使用するため、MCU と RCU の両方が、ストレージ間を接続するターゲットとなります。
- iSCSI 10Gbps チャンネルボードまたは iSCSI 25Gbps チャンネルボードの 1 つのポートに対して、iSCSI ターゲットを 255 まで割り当てることができます。ホストと接続するターゲットと、ストレージシステム間を接続するターゲット (外部ストレージシステムとの接続、およびリモートコピー接続に使用するターゲット) が 1 つのポートに混在する場合も、255 までです。1 つのポートに割り当てられている iSCSI ターゲット数の算出方法を次に示します。

iSCSI ターゲット数 = ホストとの接続数 + イニシエータ側が iSCSI 10Gbps チャンネルボードのポート数 + イニシエータ側が iSCSI 25Gbps チャンネルボードのポート数 × 4



- iSCSI 25Gbps チャンネルボードに 10G BASE-T SFP を搭載したボードを使用した場合、転送速度は 10Gbps で動作し、25Gbps での動作はできません。

iSCSI 25Gbps チャンネルボードに 10G BASE-T SFP を搭載したボードを使用した場合と搭載したボードを使用しない場合では、転送速度の動作だけが異なります。その他のパラメータおよび注意事項に差異はありません。

4.4.4.4 ネットワークの設定に関する注意事項（iSCSI を使用する とき）

- iSCSI ポートに接続しているスイッチのポートでは、スパニングツリーの設定を無効にしてください。スイッチでスパニングツリー機能を有効にすると、リンクがアップまたはダウンするときに、ネットワーク上でパケットがループしなくなります。このときに、パケットが約 30 秒間遮断されるおそれがあります。スパニングツリーの設定を有効にする必要がある場合は、スイッチの Port Fast 機能を有効にしてください。
- ストレージシステム間のネットワーク経路で、iSCSI ポートの転送速度よりも転送速度が低い回線を使用した場合、パケットが消失し、回線品質が低下します。iSCSI ポートの転送速度と回線が、同一の転送速度となるシステム環境を構築してください。
- ストレージシステム間の回線の遅延はシステム環境によって異なるため、事前にシステムを検証して、最適な iSCSI ポートのウィンドウサイズの設定を確認してください。回線の遅延の影響が大きいと判断した場合は、WAN 最適化・高速化の装置の適用を検討してください。
- iSCSI を使用する場合、TCP/IP でパケットを送受信します。このため、パケットの量が通信回線の許容量を超えてしまうことや、パケットの再送が発生することがあり、性能に大きく影響を与えるおそれがあります。性能を重視する重要なシステムの場合は、ファイバチャネルを使用してください。

4.4.5 ファイバチャネルを使用するときの注意事項

ファイバチャネルを使用してシステムを構築するときには、次に示す注意が必要です。

ファイバチャネルに関する説明は、『システム構築ガイド』を参照してください。

—— 関連リンク ——

参照先トピック

[Asynchronous Replication の物理パスの計画 \(45 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication のファイバチャネル接続 \(46 ページ\)](#)

[リモートパスに関する注意事項 \(ファイバチャネルを使用するとき\) \(56 ページ\)](#)

4.4.5.1 リモートパスに関する注意事項（ファイバチャネルを使用するとき）

- ・ リモートパスにファイバチャネル 32Gbps を使用してポートスピードを **Auto** に指定する場合、パス閉塞監視を 10（秒）以上に指定してください。パス閉塞監視を 9（秒）以内に指定する場合は、ポートスピードを **Auto** 以外に指定してください。
- ・ パス閉塞監視で指定した時間が短い場合、ネットワーク上の遅延やスピードネゴシエーションの時間の超過によって、パスが閉塞するおそれがあります。
- ・ 1 つのポートを複数のリモートパスとして共有する場合、パス閉塞によって報告される SIM の監視時間は、すべてのリモートパスで同じ値にすることを推奨します。
- ・ リモートパスで使用中のポートのトポロジ (Fabric, FC-AL, Point-to-point) の設定を変更した場合、相手装置とのトポロジが不一致となり、リモートパスが閉塞するおそれがあります。

そのため、リモートパスを削除したあとにトポロジの設定を変更してください。

なお、ポートの設定（ポートスピード、トポロジ）は、RAID Manager の `raidcom modify port` コマンドで変更します。パス閉塞監視は、`raidcom modify remote_replica_opt` コマンドの `-path_blocked_watch` オプションで設定します。

- ・ リモートパスにファイバチャネル 64Gbps を使用する場合は、注意事項を次に示します。
 - リモートパスにファイバチャネル 64Gbps を使用する場合は、『システム構築ガイド』のストレージシステムのファイバチャネルポートにデータ転送速度を設定する際の注意事項を参照してください。
 - リモートパスにファイバチャネル 64Gbps を使用し、ポートスピードを以下に設定した場合、パス閉塞監視時間の関係を次に示します。

ファイバチャネル 64Gbps のポートスピード設定値	パス閉塞監視時間	一時的な全パス障害時のリモートコピー機能への影響
64G 固定、 32G 固定、 16G 固定	35 秒未満（非推奨）	リモートコピーペアが障害サスペンドする可能性あり
	35 秒以上（推奨）	パス閉塞監視時間内にパスが回復し、リモートコピーペアは PAIR 状態を維持

ファイバチャネル 64Gbps のポートス ピード設定値	パス閉塞監視時間	一時的な全パス障害時のリモート コピー機能への影響
Auto	— ※Auto の設定が非推奨	リモートコピーペアが障害サスペンドする可能性あり

パス閉塞監視時間が 35 秒未満の場合に、一時的な全パス障害で障害サスペンドする場合があります。

一時的な全パス障害で障害サスペンドさせたくない場合は、パス閉塞監視時間に 35 秒以上を設定してください。

- リモートパスにファイバチャネル 64Gbps を使用する場合、ファイバスイッチ、エクステンダ（ストレージルータ）、相手ストレージシステム側の転送速度をすべて 64Gbps 固定で設定を統一してください。転送速度 64Gbps に設定できないファイバスイッチ、エクステンダ（ストレージルータ）が相手ストレージシステム側にある場合は、本ストレージシステム側のポートスピードを"32G 固定"、または"16G 固定"に設定を統一してください。
- リモートパスにファイバチャネル 64Gbps を使用する場合、間欠障害発生からの回復時間が 32Gbps より長くなります。間欠障害時のレスポンス性能を重視する場合は、ファイバチャネル 64Gbps は推奨しません。
- iStorage V Series SDS とリモート接続する場合、ファイバチャネルによる接続はできません。iSCSI で接続してください。

4.4.5.2 リモートパスを接続するスイッチのゾーニング設定

1 つの FC-SAN（Fibre Channel Storage Area Network）に、リモートパスのファイバチャネルポートを接続する場合、スイッチのゾーニング設定を検討してください。

ゾーニング設定のメリット

- リモートパスのファイバチャネルポート（Initiator ポートおよび RCU Target ポート）のアクセス範囲と、ほかのリモートパスやほかのファイバチャネルポートとのアクセス範囲を、切り離して運用できます。
- ファイバチャネルポートや通信経路に障害が発生した場合、または保守作業を行う場合に、RSCN（Registered state change notification）の通信負荷をゾーンの内部に限定できます。

ゾーニング設定に関する注意事項

- リモートパスの運用以外の目的でゾーニングを設定している場合は、そのゾーニング設定に影響を与えないように注意してください。
- 1 つのリモートパスに対して、1 つのゾーンを設定して運用することを推奨します。

- 1つの FC-SAN に、リモートパスのファイバチャネルポートが 16 個以上接続される場合は、必ずゾーニングを設定してください。
- リモートストレージシステムの運用中に、ゾーニング設定を変更する場合は、リモート I/O への影響を考慮してください。また、ゾーニング設定を誤ると、リモートパス間の通信ができなくなるなどの不具合が発生します。

メモ

ゾーニングの設定方法および機能の詳細については、使用するスイッチのユーザマニュアルを参照してください。

第 5 章

Asynchronous Replication 構成操作

この章では、Asynchronous Replication ペアを操作する前に必要となる、正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムの環境構築について説明します。

5.1 Asynchronous Replication の構成操作の流れ

Asynchronous Replication を操作するために必要な、設定の流れを次に示します。

各操作手順の前提条件をチェックしてください。操作によって、正サイトのストレージシステムで実行する操作、副サイトのストレージシステムで実行する操作、または両方のストレージシステムで実行する操作があります。

操作手順

1. RAID Manager を起動してください。
2. 正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムの間にリモートパスを定義してください。
3. ジャーナルを作成してください。
4. マスタジャーナルとリストアジャーナルにジャーナルボリュームを登録してください。
5. ジャーナルに MP ユニットを割り当ててください。

Asynchronous Replication のコピー操作を最初に実行する前に、次の操作も実行できます。

- リモートパスの追加。
- 形成コピーするボリューム数の指定。

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication のリモート接続を追加する \(60 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication のジャーナルを作成してジャーナルボリュームを登録する \(61 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication のジャーナルに MP ユニットを割り当てる \(62 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication のリモートレプリカオプションを変更する \(62 ページ\)](#)

[リモートパスを追加する \(93 ページ\)](#)

5.2 Asynchronous Replication のリモート接続を追加する

正サイトと副サイトのストレージシステムの両方で設定が必要です。

ストレージシステムのシリアル番号、モデル、パスグループ ID、およびポート番号がこの操作で必要となります。

操作で使用するコマンド

- リモート接続の追加 (`raidcom add rcu` コマンド)
- リモート接続の設定変更 (`raidcom modify rcu` コマンド)
- リモート接続の確認 (`raidcom get rcu` コマンド)

前提条件

- 正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムが、Asynchronous Replication 操作用に構成されていること。
- リモート接続用のネットワークが構築されていること。
- ファームウェアの交換処理中でないこと。

メモ

- 仮想ストレージマシン内のボリュームを使用するときも、本ストレージシステムのシリアル番号を指定してください。仮想ストレージマシンのシリアル番号は指定できません。
- 最小パス数は 1 を指定してください。最小パス数の指定は `raidcom modify rcu` コマンドを使用してください。
- 必要に応じて RIO MIH 時間を指定してください。RIO MIH は、ストレージシステム間でデータコピーの要求があったスロットに対して、<rto>には、MCU と RCU 間の RIO (リモート I/O) 設定へのタイムアウト値 (10-100) (秒) を指定します。RIO MIH 時間は、`raidcom modify rcu` コマンドに `-rcu_option <rto>` オプションを指定してください。

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication のシステム要件 \(20 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication のデータ転送路の設計とは \(42 ページ\)](#)

[リモートパスを追加する \(93 ページ\)](#)

5.3 Asynchronous Replication のジャーナルを作成してジャーナルボリュームを登録する

Asynchronous Replication のマスタジャーナルまたはリストアジャーナルを作成して、ジャーナルボリュームを登録します。

- 形成コピー操作が実行される前に登録してください。
- クイックフォーマット中のジャーナルボリュームは登録しないでください。

クイックフォーマット中のジャーナルボリュームを登録すると、クイックフォーマットの処理が完了しないおそれがあります

操作で使用するコマンド

- ジャーナルの作成/登録 (raidcom add journal コマンド)
- ジャーナルの設定変更 (raidcom modify journal コマンド)
- ジャーナルの確認 (raidcom get journal コマンド)

前提条件

- ジャーナルボリュームは、Dynamic Provisioning 仮想ボリュームであること。

Dynamic Provisioning 仮想ボリュームの作成方法については、『システム構築ガイド』を参照してください。

- ジャーナルが未使用であること。
- ジャーナルボリュームを登録する場合、ペア操作が実行中ではなく、ジャーナルのミラー状態が Active、Stopped であること。

⚠ 注意

- ホストからジャーナルボリュームへパス (LU パス) が設定されている場合、そのジャーナルボリュームはジャーナルに登録できません。また、ジャーナルボリュームに、LU パスを設定できません。ホストは、ジャーナルボリュームからの読み込み、またはジャーナルボリュームへの書き込みができません。
- 割り当てられていたジャーナルボリュームをすべて入れ替えると、ジャーナルオプション情報が初期化されます。必要に応じてジャーナルオプションを設定してください。
- 一度でもジャーナルを使用した後に、そのジャーナルに登録したジャーナルボリュームを削除すると、そのジャーナルボリュームに割り当てられていた LDEV が閉塞します。閉塞した LDEV はフォーマットすることで、閉塞を解除できます。

メモ

- 仮想ストレージマシン内のボリュームは、ジャーナルボリュームとして使用できません。

- 必要に応じて MP ユニット ID を指定します (raidcom modify journal コマンド)。
- 必要に応じてメタデータとジャーナルデータの、満杯監視のデータあふれ監視時間を設定します (raidcom modify journal コマンド)。
- 必要に応じてリストアジャーナル内のジャーナルデータを、キャッシュモードでキャッシュに格納します (raidcom modify journal コマンド)。
- 仮想ストレージマシン内のボリュームは、ジャーナルボリュームとして使用できません。
- 異なる仮想ストレージマシンのデータボリュームは、同じジャーナルに登録できません。ジャーナルにジャーナルボリュームを追加するときは、既存のジャーナルボリュームと同じ仮想ストレージマシン内のボリュームを追加してください。

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication のジャーナルに MP ユニットの割り当て \(62 ページ\)](#)

5.4 Asynchronous Replication のジャーナルに MP ユニットの割り当て

Asynchronous Replication のジャーナルを制御する MP ユニットの割り当てます。

操作で使用するコマンド

- MP ユニット割り当て (raidcom modify journal コマンド)
ジャーナル作成時にも MP ユニットの割り当てできます (raidcom add journal コマンド)
- MP ユニット割り当ての確認 (raidcom get journal コマンド)

メモ

複数のジャーナルに対して、MP ユニット ID を連続して変更する場合は、10 分以上経過してから実施してください。また、MP ユニット ID を変更したあと、同じジャーナルに対して MP ユニット ID を再度変更する場合、30 分以上経過してから実施してください。

5.5 Asynchronous Replication のリモートレプリカオプションを変更する

次のオプション設定を変更できます。

- 1 回の形成コピー操作で、同時にコピーできるボリュームの数
- パスの閉塞を監視する時間

- パスの閉塞によって報告される SIM を監視する時間

5.5.1 同時にコピーできるボリュームの数を変更する

同時にコピーできるボリュームの数を変更できます。

操作で使用するコマンド

- リモートレプリカオプションの変更 (raidcom modify remote_replica_opt コマンド)
- リモートレプリカオプションの変更の確認 (raidcom get replica_opt コマンド)

メモ

- Asynchronous Replication の最大形成コピー数は、I/O 動作の量、および同時に登録するペア数によっては、正サイトのストレージシステムの性能に影響を及ぼすことがあります。
- 最大形成コピー数が大きすぎると、副サイトのストレージシステムに保留中の処理が増え、更新 I/O に対するリモート I/O の応答時間に影響を及ぼすことがあります。たとえば、最大形成コピー数を 64 ボリュームに設定し、同時に 65 個の Asynchronous Replication ペアを登録すると、正サイトのストレージシステムは最初 64 ペアの作成を開始し、そのうちの 1 つが同期するまで、65 番目のペアの作成を開始しません。

5.5.2 パスの閉塞を監視する時間を変更する

パスの閉塞を監視する時間、およびパスの閉塞によって報告される SIM を監視する時間を変更できます。

操作で使用するコマンド

- リモートレプリカオプションの変更 (raidcom modify remote_replica_opt コマンド)
- リモートレプリカオプションの変更の確認 (raidcom get replica_opt コマンド)

第 6 章

Asynchronous Replication ペア操作

この章では、Asynchronous Replication ペアを操作するうえでの前提と注意事項を説明します。次の項目について説明します。

6.1 ペア操作の概要

Asynchronous Replication の基本的な操作を次に示します。



- ペアの状態を確認します。

ペアを操作する前にペアの状態を確認してください。ペアの状態によって実行可能な操作が異なります。

- ペアを作成します。

ペアを作成することで、プライマリボリュームの内容がセカンダリボリュームに反映されます。

- ペアを分割します。

プライマリボリュームとセカンダリボリュームのペアを分割します。必要であれば、セカンダリボリュームの書き込みオプションも設定できます。

- ミラーを分割します。

マスタジャーナルとリストアジャーナルの関係はミラーと呼ばれます。ミラー単位でまとめてプライマリボリュームとセカンダリボリュームを分割します。RAID Manager では、構成定義ファイルに定義したグループがミラーとして扱われます。

- ペアを再同期します。

分割されたペアを再同期します。

- ミラーを再同期します。

分割されたミラーを再同期します。

- ペアを削除します。

プライマリボリュームとセカンダリボリュームのペアを解消します。

- ミラーを削除します。

マスタジャーナルとリストアジャーナルの関係を解消します。ミラー単位でまとめてプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペアを解消します。

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication のペアとは \(9 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication のミラーとは \(11 ページ\)](#)

[ペア操作時の注意事項 \(65 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication ペアの状態を確認する \(74 ページ\)](#)

6.1.1 ペア操作時の注意事項

- ホストとストレージシステムをファイバチャネルまたは iSCSI で接続する場合は、操作対象またはペア状態の確認対象のボリュームに、LU パスを設定してください。LU パスの設定が解除されたデータボリュームは、ペア操作およびペア状態の確認ができません。
- Asynchronous Replication ペアはミラー単位に操作することを基本としているため、分割や再同期はミラー単位で実施してください。ペア単位で分割や再同期を実行しようとすると、操作要求が拒否されることがあります。

- ペア作成またはペア再同期操作後の形成コピー中に、正サイトのストレージシステムでコントローラボードの保守、またはシェアドメモリの増設および減設を実施した場合は、ペアがサスペンドします。

6.2 Asynchronous Replication ペアを作成する

データボリュームのペアを作成すると、正サイトのストレージシステムのプライマリボリュームにあるすべてのデータが、副サイトのストレージシステムのセカンダリボリュームにコピーされます。ホストからの I/O は、プライマリボリュームに対して発行します。

ジャーナル内の Asynchronous Replication データボリュームペアをすべて削除して再度 Asynchronous Replication データボリュームペアを生成する場合は、ペアを削除してから 1 分以上待つて実施してください。

ペア作成操作は正サイトのストレージシステムから実行します。

操作で使用するコマンド

- Asynchronous Replication ペアの作成 (paircreate コマンド)

Asynchronous Replication ペアを作成するには正サイトおよび副サイト両方で RAID Manager を使用する必要があります。RAID Manager の使用方法およびペア操作のための構成定義ファイルの作成方法については『RAID Manager ユーザガイド』を参照してください。

前提条件

- セカンダリボリュームがすべてのホストに対してオフラインであること。
- 正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムを接続し、すべてのリモートパスを定義していること。
- ペアを作成する前に、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が、ブロック単位で同じであること。

メモ

raidcom get ldev コマンドで、ボリュームの容量をブロックサイズの単位で確認して、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が同じであることを確認してください。

- ペアが使用するジャーナルに、ジャーナルボリュームを登録していること。

メモ

- 必要に応じてパスグループ ID を指定してください。パグループ ID を指定しない場合は、デフォルトのパスグループ ID (0) が指定されます。
- パスグループ ID の選択には、次の制限事項があります。

- 同じミラー（マスタジャーナル、ミラー ID、およびリストアジャーナル）にすでにデータボリュームのペアが作成されている場合は、異なるストレージシステム（パスグループ ID を含む）を指定できません。
- 仮想ストレージマシン内のボリュームを指定するときも、本ストレージシステムの LDEV ID を指定してください。仮想 LDEV ID は指定できません。
- 異なる仮想ストレージマシンのデータボリュームは、同じジャーナルに登録できません。
- 1 つのミラーに、1 つのコンシステンシーグループ ID (CTG ID) が割り当てられます。ミラーの正サイトおよび副サイトに、同じで CTG ID が割り当てられます。
- `paircreate` コマンドで CTG ID の指定を省略すると、使用されていない CTG ID が割り当てられます。
- `paircreate` コマンドで指定した CTG ID が、別のミラーで使用されていた場合は、ペア形成が失敗します。
- `-nocopy` オプションを使用した場合、形成コピーが動作しません。このため `-nocopy` オプションは、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの内容が完全に一致している場合に使用してください。
- 形成コピーは、`paircreate` コマンドを受け付けた順に実行されます。この順序は、構成定義ファイルに記述されたボリュームの順序です。形成コピーが可能な最大数を超えた場合は、実行中の形成コピーが完了するまで次の形成コピーは開始されません。

作成した Asynchronous Replication ペアの状態は、`paircreate` コマンドのオプションによって異なります。`pairdisplay` コマンドで、ペアの状態を確認してください。

paircreate コマンドのオプション	作成したペアの状態
指定なし	COPY または PAIR
<code>-nocopy</code>	PAIR

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication のリモート接続を追加する \(60 ページ\)](#)

[同時にコピーできるボリュームの数を変更する \(63 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication ペアの状態を確認する \(74 ページ\)](#)

6.3 Asynchronous Replication ペアを分割する

ペアを分割すると、プライマリボリュームからセカンダリボリュームへのデータコピーが中断します。

通常の Asynchronous Replication 操作で、副サイトのストレージシステムはセカンダリボリュームに対し書き込み操作を拒否しますが、ペアが分割またはサスペンドしている間はセカンダリボリュームへ書き込みます。ペアを再同期する場合は、セカンダリボリュームとプ

ライマリボリュームのビットマップが使用されます。セカンダリボリュームのペアの分割後に、ホストからセカンダリボリュームへ書き込みたい場合は、`pairsplit` コマンドに `-rw` オプションを指定してください。

正サイトのストレージシステム、副サイトのストレージシステムのどちらからでもペアを分割できます。

ボリューム単位でペアを分割する場合は、I/O 負荷が低いときに行ってください。同じコンシステンシーグループ内に状態が異なる複数のペアが混在する場合、I/O 負荷が高い状態でペアを分割するとサスペンドが発生することがあります。

操作で使用するコマンド

- Asynchronous Replication ペアの分割 (`pairsplit` コマンド)

前提条件

- ペアの状態が `COPY` または `PAIR` であること。
 - 複数のペアを同時に分割したい場合は、それらのペアが同じミラーに属していること。
- これによって、ミラーのセカンダリボリュームの更新順序の整合性が保証されます。

関連リンク

参照先トピック

[Point-in-Time コピーを作成する \(69 ページ\)](#)

6.4 ミラーを分割する

正サイトのストレージシステム、副サイトのストレージシステムのどちらからでもミラーを分割できます。ミラーを分割すると、そのミラーに属するすべてのペアが分割されて、マスタージャーナルからリストアジャーナルへのデータのコピーが停止します。さらに RAID Manager の構成定義ファイルに指定したグループに属する、すべての Asynchronous Replication ペアが分割されます。

操作で使用するコマンド

- ミラーの分割 (`pairsplit` コマンド)

前提条件

- ミラーの状態が `Active` であること。

RAID Manager におけるミラーの状態は「[7.4.1 ミラー状態の定義 \(83 ページ\)](#)」を参照してください。

メモ

- ミラーの分割には、次の 2 種類のモードがあります。
 - フラッシュ (pairsplit -P オプションなし)
コマンドを実施した時点のマスタジャーナルのデータを、リストアジャーナルのセカンダリボリュームに、すべてのデータをリストアされた時点で PSUS となります。
 - パージ (pairsplit -P オプションあり)
コマンドを実施した時点で、リストアジャーナルのセカンダリボリュームへのリストアが停止して、PSUS になります。リストアされてないデータは再同期の際にリストアされます。
- マスタジャーナルやリストアジャーナルにデータがある状態で、フラッシュによりミラーまたはペアを分割すると、すべてのデータのリストアに時間がかかる場合があります。このため pairsplit コマンドの最大待ち時間を超過してしまい、EX_EWSTOT (タイムアウト) によりリストアが失敗します。コマンドがタイムアウトしても、ミラーまたはペアの状態がコマンドを実施した際の状態と変わらない場合もありますが、ストレージシステムの内部では処理が継続しています。このため pairdisplay コマンドを使用して、ジャーナルの使用率 (%) を取得することにより、ペア分割の進捗を確認してください。

ヒント

分割が完了するとミラーの状態は Stopped になります。

6.5 Point-in-Time コピーを作成する

ミラー内のプライマリボリュームに対する書き込みを止めた状態でミラーを分割します。蓄積された更新データをセカンダリボリュームに反映すると、該当するジャーナルに属するボリュームの Point-in-Time コピーを作成できます。

操作で使用するコマンド

- Point-in-Time コピーの作成 (pairsplit コマンド)

前提条件

- ミラーの状態が Active であること。

ジャーナルのミラー状態の詳細は、「[7.4.1 ミラー状態の定義 \(83 ページ\)](#)」を参照してください。

- 正サイトの業務用アプリケーションを停止して、ホストからジャーナル内のプライマリボリュームに対する書き込みを停止すること。

メモ

- ホストからプライマリボリュームへのすべての書き込みが停止したら、-P オプションを指定せずに `pairsplit` コマンドでミラーを分割してください。
- ジャーナルのすべてのペアの状態が PSUS に変わったら、ボリュームの複製は完了し、ミラーの状態は Stopped になります。正サイトで業務用アプリケーションを再起動して、ホストからジャーナル内のプライマリボリュームに対する書き込みを再開してください。この際に `pairsplit` コマンドの -P オプションを指定しないでください。

関連リンク

参照先トピック

[ミラーを分割する \(68 ページ\)](#)

6.6 Asynchronous Replication ペアを再同期する

正サイトから副サイトへのデータのコピーを停止したペアについて、差分データのコピーを行い、再度データを一致させます。

ペア再同期操作は、正サイトのストレージシステムから実行できます。

ペア再同期操作では、副サイトのストレージシステムおよびパスグループ ID を変更できません。副サイトのストレージシステムおよびパスグループ ID を変更したい場合は、ペアを削除して、再度ペアを作成する必要があります。

エラーによってサスペンドされたペアは、エラーの要因が取り除かれるまでは再同期されません。

操作で使用するコマンド

- Asynchronous Replication ペアの再同期 (`pairresync` コマンド)

前提条件

- ペアの状態が PSUS または PSUE 状態であること。

関連リンク

参照先トピック

[ミラーを再同期する \(71 ページ\)](#)

6.7 ミラーを再同期する

ミラーに属するすべてのペアについて、差分データのコピーを行い、再度データを一致させます。ミラーを再同期すると、構成定義ファイルで指定したグループに属するすべてのペアが再同期されます。

ミラー再同期操作は、正サイトのストレージシステムから実行できます。ただし、災害リカバリの際に、副サイトへ業務の切り替えを行う場合は、副サイトのストレージシステムからも実行できます。

ミラー再同期操作は、I/O 負荷が低いときに実行してください。同じコンシステンシーグループ内に状態が異なる複数のペアが混在している場合、I/O 負荷が高い状態でミラーを再同期すると、サスペンドが発生することがあります。

操作で使用するコマンド

- ミラーの再同期 (`pairresync` コマンド)

前提条件

- ミラーの状態が `Stopped` であること、または `Active` で、かつミラー内に分割したペアが存在すること。

ジャーナルのミラー状態の詳細は、「[7.4.1 ミラー状態の定義 \(83 ページ\)](#)」を参照してください。

6.8 Asynchronous Replication ペアを削除する

ペアを削除すると、プライマリボリュームとセカンダリボリューム間の `Asynchronous Replication` ペアは削除されます。データボリュームのデータは残ります。

注意

- プライマリボリュームとセカンダリボリュームが物理的に同じホストに接続されている場合、次の問題が発生することがあります。

`Asynchronous Replication` でペアを削除するとき、セカンダリボリュームは通常オフラインになっています。ホストが再起動されると、システムはプライマリボリュームとセカンダリボリュームの両者を提示して、システム管理者にどちらをオフラインにしておくかを問い合わせます。これは混乱を招き、エラーの要因となるおそれがあります。

このような問題を防ぐために、プライマリボリュームとセカンダリボリュームが同じホストに接続されている場合、セカンダリボリュームは常にオフラインになるよう定義しておくことを強くお勧めします。

- 副サイトのストレージシステムから `Asynchronous Replication` ペアを削除する操作は、災害リカバリなどで操作が必要となる場合に限定してください。 `Asynchronous Replication` ペアを削

除すると、副サイトのストレージシステムは、セカンダリボリュームを単一のボリュームへと変更します。これにより、正サイトのストレージシステムは、セカンダリボリュームのペアの状態が変化したことを検出して、プライマリボリュームのペアの状態を **Suspend** に変更します。

正サイトのストレージシステム、副サイトのストレージシステムのどちらからでもペアを削除できます。

ペア削除を開始した時点で、プライマリボリュームからセカンダリボリュームへのデータの転送は終了します。ペア削除の操作が失敗しても、プライマリボリュームはペアが組まれていない状態になり、セカンダリボリュームへはデータが転送されなくなります。

ペア削除操作は、I/O 負荷が低いときに実行してください。同じミラー内に状態が異なる複数のペアが混在している場合、I/O 負荷が高い状態でペアを削除すると、サスペンドが発生することがあります。

操作で使用するコマンド

- Asynchronous Replication ペアの削除 (**pairsplit** コマンド)

前提条件

- ペア状態が **PAIR**、**COPY**、**PSUS**、**SSUS**、または **PSUE** であること。ただし、ペア状態が **PAIR** のとき以外はデータの整合性が保証されません。

6.9 ミラーを削除する

ミラーを削除するとミラーに属するすべてのペアが削除され、マスタジャーナルからリストアジャーナルへのデータコピーが終了します。ミラーを削除すると、構成定義ファイルで指定したグループに属するすべてのペアが削除されます。

正サイトのストレージシステム、副サイトのストレージシステムのどちらからでも、ミラーを削除できます。

注意

副サイトのストレージシステムからミラーを削除する操作は、災害リカバリなどで操作が必要となる場合に限定してください。ミラーを削除すると、副サイトのストレージシステムは、リストアジャーナル内のセカンダリボリュームを単一のボリュームへと変更します。これにより、正サイトのストレージシステムは、セカンダリボリュームのペアの状態が変化したことを検出して、プライマリボリュームのペアの状態を **PSUS** に変更します。

操作で使用するコマンド

- ミラーの削除 (`pairsplit` コマンド)

メモ

- ミラーの削除には、次の 2 種類のモードがあります。
- 通常モード

`pairsplit -S` コマンドで削除します。

ペア状態が `COPY`、`PAIR`、`PSUS`、`PSUE` など、通常のペア状態から削除する場合は、通常モードで削除してください。

マスタジャーナルのすべてデータを、リストアジャーナルのセカンダリボリュームへリストアした後、`SMPL` 状態に遷移します。

- 強制モード

`pairsplit -SF` コマンドで削除します。

ペア状態が `Suspending` や `Deleting` 状態から削除する場合は、強制モードで削除してください。ただしリストアに必要なデータが多いと、時間がかかる場合があります。このため `pairedisplay` コマンドを使用してジャーナルの使用率に変化がないことを確認してから削除してください。

リモートサイトへ通信ができない状態などにより、通常のペア削除ができない場合に実施します。データがリストアされずに `SMPL` へ遷移します。

- マスタジャーナルやリストアジャーナルにデータがある状態で、ミラーまたはペアを削除すると、すべてのデータのリストアに時間がかかる場合があります。このため `pairsplit` コマンドの最大待ち時間を超過してしまい、`EX_EWSTOT` (タイムアウト) によりリストアが失敗します。コマンドがタイムアウトしても、ミラーまたはペアの状態がコマンドを実施した際の状態と変わらない場合もありますが、ストレージシステムの内部では処理が継続しています。このため `pairedisplay` コマンドを使用して、ジャーナルの使用率 (%) を取得することにより、処理の進捗を確認してください。
-

第 7 章

Asynchronous Replication の状態表示

ペア、ジャーナル、およびデータ転送路の監視は、Asynchronous Replication ペアが正しく動作しているかを保証するために頻繁に行われます。ペア状態は、Asynchronous Replication の操作を実行する前にチェックしておく必要があります。各操作には特定のペア状態が必要です。

この章では、次の項目について説明します。

7.1 Asynchronous Replication ペアの状態を確認する

ペアに対する操作が適切に処理されているかどうかを確認するため、定期的にペアの状態を監視する必要があります。

- ペアを操作する前に、ペアがその操作を行える状態かどうかを確認してください。
- ペア操作が行われると、ペアの状態は変化します。ペア操作が正しく処理されているかをペアの状態で確認できます。ペアの状態が **PAIR** の場合は、プライマリボリュームからセカンダリボリュームへのデータ更新が正しく行われています。ペアの状態が **PSUS/PSUE** の場合は、ペアが分割され、差分データの管理が行われています。

操作で使用するコマンド

- Asynchronous Replication のペア状態の確認 (**pairedisplay** コマンド)

Asynchronous Replication のペア状態を変更する要求が受け入れられても、要求された状態 (**PSUS**、**PSUE**、またはペアが組まれていない状態) への変更が完了しないと、Asynchronous Replication ペアの分割または削除の処理も完了しません。**RAID Manager** を使用すると、ストレージシステム内部での分割または削除の処理中のペア状態はなく、次の状態となります。

- ユーザから分割または削除が要求された場合：分割または削除した際の状態
- エラーによってペア状態が遷移した場合：**PSUE**

これらの状態はホストに報告されません。

ユーザからのペア分割の要求によって、ストレージシステム内部のペア状態は **Suspending** となります。この状態で **pairedisplay** コマンドを実行すると、分割要求前の状態の **COPY** または **PAIR** が示されます。

ユーザからのペア削除の要求によって、ストレージシステム内部のペア状態は **Deleting** となります。この状態で **pairedisplay** コマンドを実行すると、削除要求前の状態の **COPY**、**PAIR**、**PSUS**、**SSUS**、または **PSUE** が示されます。

前提条件

ありません。

—— 関連リンク ——

[参照先トピック](#)

[ペア操作の概要 \(64 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication ペア状態の定義 \(75 ページ\)](#)

7.1.1 Asynchronous Replication ペア状態の定義

RAID Manager でのペア状態を次の表に示します。

ペア状態	説明	プライマリ ボリューム に対するア クセス	セカンダリ ボリューム に対するア クセス
SMPL	このボリュームは Asynchronous Replication ペアに割り当てられていません。ボリュームはジャーナルに属していません。	Read/Write	Read/Write
COPY	このデータボリュームペアの Asynchronous Replication の形成コピーが進行中です。このデータボリュームペアはまだ同期されていません。	Read/Write	Read Only
PAIR	このデータボリュームペアは同期状態です。ホストからプライマリボリュームへの更新データはセカンダリボリュームに反映されます。	Read/Write	Read Only
PSUS SSUS	このペアは、ユーザによって分割されたか、または副サイトのストレージシステムから削除されたため、同期していません。 正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムは、Asynchronous Replication ペアの分割中に破棄されたジャーナルデータを記録しています。 ペアが分割されている間、正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムは更新されたプライマリボリュームとセカンダリボリュームのトラックを記録します。SSUS はセカンダリボリュームでだけ表示されます。	Read/Write	Read Only ただし pairsplit -rw オプション を指定して 正サイトか らペアを分 割した場合 は Read/ Write です。
PSUE	エラーによって正サイトのストレージシステムまたは副サイトのストレージシステムがサスペンドしたため、このデータボリュームペアは同期していません。 Asynchronous Replication ペアについては、正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムがサスペンド中に破棄されたジャーナルデータを記録しています。ペアがサスペンドされている間、正サイトのストレージシステムは更新されたプライマリボリュームのトラックを記録します。	プライマリ ボリューム にエラーが 発生してい ない場合は Read/Write	Read Only
PFUL	ジャーナルボリューム内のデータ量が、しきい値 (80%) を超えた状態を表します。 ペア状態は PAIR から PFUL になります。 Asynchronous Replication ペアはサスペンドせず、コピーを継続します。	Read/Write	Read Only

ペア状態	説明	プライマリ ボリューム に対するア クセス	セカンダリ ボリューム に対するア クセス
	raidcom modify journal コマンドの-data_overflow_watch オプションで指定したデータあふれ監視時間に、0 以外が設定されている場合は、ペア状態が PFUL になったとき、ジャーナルボリュームへの更新 I/O の流入を遅らせるためにホスト I/O への応答を遅らせます。		
PFUS	ジャーナルボリューム内のデータ量が満杯となり、サスペンドとなった状態を表します。 ペア状態は COPY、PAIR、または PFUL から PFUS になります。 Asynchronous Replication ペアはサスペンドし、コピーを停止します。この場合、リモートパスやジャーナルボリュームの構成を見直す必要があります。 - Dynamic Provisioning の仮想ボリューム (DP-VOL) を Asynchronous Replication ペアのセカンダリボリュームとして使用していて、そのセカンダリボリュームが属するプールが満杯になった場合、Asynchronous Replication ペアの状態は PFUS になり、ペアはサスペンド状態になります。 - raidcom modify journal コマンドの-data_overflow_watch オプションで設定したデータあふれ監視時間に、0 以外が指定されている場合は、ジャーナルボリューム内のデータ量が満杯になっても、raidcom modify journal コマンドの -data_overflow_watch オプションで設定した時間が経過するまで、Asynchronous Replication ペアをサスペンドしません。 この期間、ジャーナルデータ領域の空きを待つために、ホスト I/O への応答は遅れます。	Read/Write	Read Only
SSWS	SSWS は、セカンダリボリュームの状態です。RAID Manager の horctakeover コマンドや pairsplit -RS コマンドでプライマリボリュームとセカンダリボリュームの位置づけを入れ替える処理を実行し、セカンダリボリュームが書き込み可能になったことを示します。災害リカバリの期間中、中間サイトや副サイトにある SSWS 状態のセカンダリボリュームに、ホストからデータを書き込みます。	Read Only	Read/Write
Suspending	このペアは同期していません。このペアは、PAIR または COPY から PSUS/PSUE へ遷移中です。ペアの分割またはサスペンドが要求されると、影響を受けるすべてのペアの状態は Suspending に変わります。分割またはサスペンドが完了すると、状態は PSUS/PSUE に変わります。 pairedisplay コマンドの-fe オプションを実行すると、D_Status の列に SUSI と表示されます。	Read/Write	Read Only
Deleting	このペアは同期していません。このペアは、PAIR、COPY または PSUS/PSUE からペアが組まれていない状態への遷移中です。ペアの削除が要求されると、影響を受けるすべてのペアの状態は Deleting に変わります。ペアの削除が完了すると、ペアが組まれていない状態に変わります。 pairedisplay コマンドの-fe オプションを実行すると、D_Status の列に DELI と表示されます。	Read/Write	Read Only

ペア状態についての追加情報

- ペアをサスペンドまたは解除する場合、ペア状態は、遷移中を示す **Suspending** または **Deleting** を経て、最終的に **PSUS** または **SMPL** になります。ただし、RAID Manager では、遷移中のペア状態は表示されません。
- フラッシュモード（-P オプションを指定しない **pairsplit** コマンド）でペアを分割すると、ペアの状態が **PSUS** になるまで時間が掛かります。**PSUS** 状態になるまでの時間を短くするためには、パージモード（**pairsplit -P**）を指定してペアを分割してください。フラッシュモードでペアを分割する場合、マスタジャーナルにあるすべてのジャーナルがリストアジャーナルにリストアされるまで、ペアは遷移中の状態になります。**pairsplit** コマンドを用いてペアを分割する場合は **PSUS** に遷移するまで監視します。ただし遷移中の状態が長引いて最大待ち時間（-t オプションで設定した時間）を超過すると、EX_EWSTOT（タイムアウト）によりコマンドが失敗します。コマンドが失敗しても遷移中の状態でペアの分割処理を継続しているため、**PSUS** に遷移するまでは、**pairedisplay** コマンドでペアの状態を確認する、または **raidcom get journal** コマンドで表示される U%（ジャーナル使用率）を参照して、分割処理の進捗を確認してください。

ペア状態が **PSUS** になるまでの時間は、次の式で見積れます（ストレージシステムの内部処理の状況によって、算出値どおりにならないこともあります）。

サスペンドに要する時間（秒） = $C \times U \div V$

RAID Manager を用いてフラッシュモードで **PSUS** 状態に変化するまでの時間を監視する場合、**pairsplit** コマンドの -t オプションで指定する時間を上記の（秒）以上に設定してください。

凡例

C (GB) : マスタジャーナルボリュームの総容量です。**raidcom get ldev** コマンドで確認できます。

U (%) : マスタジャーナルボリュームのデータ使用率です。**raidcom get journal** コマンドで確認できます。

V (GB/秒) : ペアがある、正サイトと副サイトのストレージシステム間の回線速度です。

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication の PSUS タイプ \(78 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication の PSUE タイプと動作 \(79 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication ペアのサスペンド条件 \(80 ページ\)](#)

7.1.1.1 Asynchronous Replication の PSUS タイプ

形成コピーが完了したあとは、いつでも Asynchronous Replication ペアを分割できます。プライマリボリューム上で媒体の保守作業を実施する場合や書き込み可能なセカンダリボリュームにアクセスする場合は、Asynchronous Replication ペアを分割する必要があります。pairedisplay コマンドに-fe オプションを指定して実行すると、PSUS のタイプが ST の列に 16 進数で表示されます。

表示	PSUS のタイプ	適用するボリューム	説明
0x04	PSUS, Secondary Volume by Operator	プライマリボリューム、セカンダリボリューム	ユーザがセカンダリボリュームオプションを使って正サイトのストレージシステムまたは副サイトのストレージシステムからペアをサスペンドしました。 この Split タイプは、RAID Manager では SSWS となります。
0x05	PSUS, by MCU	セカンダリボリューム	副サイトのストレージシステムが正サイトのストレージシステムから、ボリュームペアをサスペンドする要求を受け取りました。プライマリボリュームのサスペンドタイプは、PSUS, Secondary Volume by Operator です。 この Split タイプは、RAID Manager では SSUS または SSWS となります。
0x06	PSUS, by RCU	プライマリボリューム、セカンダリボリューム	正サイトのストレージシステムが、Asynchronous Replication データボリュームペアをサスペンドさせる原因となった副サイトのストレージシステムのエラーを検出しました。該当するセカンダリボリュームのサスペンドタイプは、PSUE, Secondary Volume Failure です。 この Split タイプは、RAID Manager では PSUE となります。
0x07	PSUS, Pairsplit-S to RCU	プライマリボリューム	正サイトのストレージシステムは、ユーザが副サイトのストレージシステムからペアを削除したためにセカンダリボリュームがペアの組まれていない状態に変わったことを検出しました。セカンダリボリュームは PSUS/PSUE 状態でないため、ペアを再同期することはできません。
0x63	PSUS, JNL Cache Overflow	プライマリボリューム、セカンダリボリューム	ジャーナルデータがあふれそうになっているため、データボリュームペアがサスペンドしました。 この Split タイプは、RAID Manager では PFUS または SSWS となります。

Asynchronous Replication ペアがユーザによって分割されると、正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムは、ユーザ指定の [分割モード] オプション ([フラッシュ] または [ページ]) に従って、保留されていた更新コピーを実行してペアを同期させてから分割するか、または保留されていた更新コピーを破棄してペアを分割します。正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムは分割中に破棄されたジャーナルデータを記録しています。ペアの状態が PSUS になると、正サイトのストレージシステムはペアに対するジャーナル取得を停止し、分割された Asynchronous Replication のプライマリボリュームに対する書き込み I/O を受け付け、ペアの分割中に更新されたプライマリボリュームトラックを記録します。セカンダリボリュームの書き込みオプションを有効にし

てペアを分割すると、副サイトのストレージシステムはペアの分割中に更新されたセカンダリボリュームのトラックを記録します。ペアが再同期されると、副サイトのストレージシステムは正サイトのストレージシステムにセカンダリボリュームのトラックビットマップを転送します。正サイトのストレージシステムはプライマリボリュームとセカンダリボリュームのビットマップをマージし、同期していないトラックを特定します。

分割（またはサスペンド）された **Asynchronous Replication** のセカンダリボリュームには、コンシステンシーという状態があります。 `pairedisplay` コマンドに `-fe` オプションを指定して実行すると、PSUS のタイプが ST の列に 16 進数で表示されます。

7.1.1.2 Asynchronous Replication の PSUE タイプと動作

次のどれかの状態を検出したとき、正サイトのストレージシステムはペアをサスペンドし、ステータスを PSUE に変更します。

- ユーザが副サイトのストレージシステムのペアを削除した。
- 副サイトのストレージシステム、セカンダリボリューム、**Asynchronous Replication** の更新コピーについてエラーが発生した。
- 正サイトのストレージシステムが副サイトのストレージシステムと通信できない。
- **Asynchronous Replication** のサスペンド状態がストレージシステムによって検出された。

次の表に、PSUE のステータスを示します。

表示	PSUE のタイプ	適用するボリューム	説明
0x06 または 0x08	PSUE, Secondary Volume Failure	プライマリボリューム、セカンダリボリューム	正サイトのストレージシステムが、副サイトのストレージシステムとの通信中または更新コピー中にエラーを検出しました。この場合、該当するセカンダリボリュームのサスペンドタイプは通常 PSUE, Secondary Volume Failure です。 この Suspend タイプは、RAID Manager では SSWS となることがあります。
0x09	PSUE, MCU IMPL	プライマリボリューム、セカンダリボリューム	正サイトのストレージシステムが、IMPL 中に正サイトのストレージシステムの不揮発性メモリ内に有効な制御情報を見つけられませんでした。このような状況は、正サイトのストレージシステムに 48 時間以上電源が入らなかった場合にだけ発生します（例：電源障害やバックアップバッテリーの放電）。
0x50	PSUE, Initial Copy Failed	プライマリボリューム、セカンダリボリューム	形成コピーが完了する前に Asynchronous Replication ペアがサスペンドされました。セカンダリボリュームとプライマリボリュームのデータは一致していません。 この Suspend タイプは、RAID Manager では SSWS となることがあります。
0x62	PSUE, MCU P/S OFF	セカンダリボリューム	正サイトのストレージシステムの電源が OFF になっていました。 この Suspend タイプは、RAID Manager では SSUS となります。

ペアがサスペンドされる時、正サイトのストレージシステムはペアに対するジャーナル獲得操作の実行を中止します。ただし、正サイトのストレージシステムは次に挙げる操作は継続します。

- サスペンドされたプライマリボリュームへの書き込み I/O の受け入れを継続します。
- ペアのサスペンド中に更新されたプライマリボリュームトラックを記録します。
- 正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムはサスペンド中に破棄されたすべてのジャーナルデータを記録します。

サスペンド（または分割）された Asynchronous Replication ペアのセカンダリボリュームには、コンシステンシーという状態があります。

ペアが再同期された時、正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムは次の操作を実行します。

- 副サイトのストレージシステムがセカンダリボリュームのトラックビットマップを正サイトのストレージシステムに送信します。
- 正サイトのストレージシステムはプライマリボリュームとセカンダリボリュームのビットマップをマージし、同期していないトラックを特定します。

この方法によって、破棄されたジャーナルデータを含むすべてのトラックは確実に再同期化されます。

7.1.1.3 Asynchronous Replication ペアのサスペンド条件

次の表は、Asynchronous Replication のサスペンド条件の説明、条件を検出するストレージシステム、およびサスペンドされるボリュームペアについて示します。

サスペンド条件	検出するストレージシステム	サスペンドされるペア
副サイトのストレージシステムは、リストアするジャーナルデータを選択中に論理エラーを検出しました。	副サイトのストレージシステム	ジャーナルにある、すべてのセカンダリボリューム、または影響するセカンダリボリューム。
副サイトのストレージシステムはハードウェア障害、トラックの状況、または論理エラーのため、ジャーナルデータをリストアできませんでした。	副サイトのストレージシステム	

正サイトのストレージシステムは、プライマリボリュームごとの差分ビットマップをシェアドメモリに格納し、副サイトのストレージシステムは、セカンダリボリュームごとの差分ビットマップをシェアドメモリに格納します。ただし、ボリュームの容量が 4,194,304MB (8,589,934,592block) より大きい DP-VOL を使用した Asynchronous Replication ペアは、シェアドメモリを使用しません。

次に示すジャーナルデータを含むトラックは、差分ビットマップ内でマークされます（ペア再同期中にコピーされる必要があるため）。

- 正サイトのストレージシステムで作成されたジャーナルデータでまだ副サイトのストレージシステムに送信されていないもの

正サイトのストレージシステムはこれらのプライマリボリュームトラックを「変更された」とマークしたあと、ジャーナルデータを破棄します。

- 副サイトのストレージシステムに送信されたが、まだ認識されていないジャーナルデータ

正サイトのストレージシステムはこれらのプライマリボリュームトラックを「変更された」とマークしたあと、ジャーナルデータを破棄します。これによって、副サイトのストレージシステムに送信中に紛失したジャーナルデータを確認とマークできます。

- 副サイトのストレージシステムに届いたが、まだリストア（正式化）していないジャーナルデータ

正サイトのストレージシステムはこれらのプライマリボリュームトラックを「変更された」とマークしたあと、ジャーナルデータを破棄します。これによって、副サイトのストレージシステムでリストアされていないジャーナルデータを確認してマークできます。正サイトのストレージシステムは、副サイトのストレージシステムからのリードジャーナルコマンドに付いているリストア済みジャーナルのシーケンス番号を受信するまでは、対象のジャーナルデータをマスタジャーナルボリュームから破棄しません。

- ペアがサスペンドされた後、ホストからの書き込み I/O によって更新されたプライマリボリューム。

関連リンク

参照先トピック

[サスペンドの種類に応じた Asynchronous Replication のペアのトラブルシューティング \(133 ページ\)](#)

7.2 Asynchronous Replication ペアの一致率を確認する

プライマリボリュームとセカンダリボリュームがどの程度一致しているのか、ペアの一致率を確認します。

操作で使用するコマンド

- Asynchronous Replication ペアの一致率の確認 (`pairedisplay` コマンド)

前提条件

ありません。

7.3 コピー操作と I/O 統計データ

コピー操作や I/O 統計データをエクスポートツール 2 で取得できます。詳細は『エクスポートツール 2 ユーザガイド』を参照してください。

対象※	モニタリングデータ	説明
論理デバイス (AR)	形成コピーのキャッシュヒット (%)	正サイトのストレージシステムにあるすべてのミラーの、ヒット率の平均値
	形成コピーのデータ転送量 (MB/s)	正サイトのストレージシステムにあるすべてのミラーの、形成コピー時の転送量の積算値
ジャーナル (AR)	マスタジャーナルのスループット (IOPS)	正サイトのストレージシステムにあるすべてのミラーの、スループットの積算値
	マスタジャーナルのジャーナル (count/sec)	正サイトのストレージシステムにあるすべてのミラーの、ジャーナルの応答回数の積算値
	マスタジャーナルのデータ転送量 (MB/s)	正サイトのストレージシステムにあるすべてのミラーの、データ転送量の積算値
	マスタジャーナルの応答時間 (ms)	正サイトのストレージシステムにあるすべてのミラーの、応答時間の平均値

注※

ミラーごとのジャーナルの情報は、ジャーナル (AR) として取得できます。ただし、ミラーごとの形成コピーの情報は参照できません。

ジャーナルに属するミラーが正サイトと副サイトの両方にある場合は、副サイトの I/O 統計データが取得されます。

対象	モニタリングデータ	説明
ジャーナル (AR)	リストアジャーナルのスループット (IOPS)	リストアジャーナルの 1 秒あたりのスループット
	リストアジャーナルのジャーナル (count/sec)	リストアジャーナルの 1 秒あたりの応答回数
	リストアジャーナルのデータ転送量 (MB/s)	リストアジャーナルのデータ転送量
	リストアジャーナルの応答時間 (ms)	リストアジャーナルの応答時間
	リストアジャーナルのデータ使用率 (%)	リストアジャーナルのデータ使用率
	リストアジャーナルのメタデータ使用率 (%)	リストアジャーナルのメタデータの使用率

7.4 ジャーナル（ミラー）状態を監視する

操作で使用するコマンド

- ジャーナル（ミラー）状態の監視（`raidcom get journal` コマンド）

前提条件

ありません。

関連リンク

参照先トピック

[ミラー状態の定義（83 ページ）](#)

7.4.1 ミラー状態の定義

RAID Manager の `raidcom get journal` で出力されるミラー状態は、Initial、Active、Stopped に分類されます。それぞれの分類に対応する RAID Manager のミラーの状態を次に示します。

ミラー状態の分類	RAID Manager で出力されるミラー状態	説明
Initial	Initial	Initial は、ミラーにデータボリュームが登録されていない状態です。Initial に分類される、RAID Manager のミラー状態は以下です。
	SMPL	このミラーは使用されていません。
Active	Active	Active は、マスタジャーナルからリストアジャーナルヘデータコピーが行われている状態です。Active に分類される、RAID Manager のミラー状態は以下です。
	PJNN	正常状態のマスタジャーナルです。
	SJNN	正常状態のリストアジャーナルです。
	PJNF	マスタジャーナルが満杯状態です。
	SJNF	リストアジャーナルが満杯状態です。
Stopped	Stopped	Stopped は、ミラー分割のミラーで、マスタジャーナルからリストアジャーナルへのコピーが行われていない状態です。Stopped に分類される、RAID Manager のミラー状態は以下です。
	PJSN	マスタジャーナルが通常の分割状態です。
	SJSN	リストアジャーナルが通常の分割状態です。
	PJSF	マスタジャーナルが満杯状態で分割されています。
	SJSF	リストアジャーナルが満杯状態で分割されています。
	PJSE	マスタジャーナルが障害要因（リンク障害を含む）によって分割されています。
	SJSE	リストアジャーナルが障害要因（リンク障害を含む）によって分割されています。

7.5 リモート接続とパスの状態を確認する

リモート接続の状態をチェックして、リモートパスを維持します。

操作で使用するコマンド

- リモート接続とパス状態の確認 (raidcom get rcu コマンド)

前提条件

ありません。

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication のリモートパスのトラブルシューティング \(132 ページ\)](#)

第 8 章

Asynchronous Replication の保守

保守作業の多くはシステムを監視する中で発見した動作に対応するものですが、システムを調整するために要件に合わせた設定変更もできます。

8.1 Asynchronous Replication ペアの保守

ペアの保守は次の操作から構成されます。

- ペアオプションの変更
- ペアの強制削除

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication 障害時のペア分割の範囲を変更する \(85 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication ペアを強制的に削除する \(86 ページ\)](#)

8.1.1 Asynchronous Replication 障害時のペア分割の範囲を変更する

Asynchronous Replication ペアに障害が発生したとき、障害が発生したペアだけを分割するか、そのペアが属しているミラー単位でまとめて分割するか、変更できます。

操作で使用するコマンド

- Asynchronous Replication のペア分割範囲の変更 (`pairresync -el -d` コマンド、または `paircreate -el -d` コマンド)

メモ

- 分割の範囲にはボリューム単位とミラー単位があります。ペアに障害が発生した際に、対象のペアだけを分割する場合はボリューム単位で変更します。対象のペアが存在するミラー内の、すべてのペアを分割する場合はミラー単位で変更します。

ボリューム単位とミラー単位のどちらの場合も、`pairresync -el -d` コマンド、または `paircreate -el -d` コマンドで変更できます。

- 分割の範囲はペアごとに指定します。すでに範囲が設定されているペアに対して指定すると、分割の範囲が更新されます。

ペアを形成する時点で分割の範囲を指定しないと、分割の範囲はミラー単位となります。

- 分割の範囲をボリューム単位で指定した場合でも、障害内容がミラー全体にわたる場合は、対象のペアが存在するミラー内の、すべてのペアが分割されます。
- 分割の範囲をミラー単位で指定した場合でも、ペアの状態が COPY 中にボリュームの障害が発生した場合は、対象のペアのみが分割されます。
- ペアを分割した後に、オプションを変更して再同期します。

前提条件

- ペア状態が PSUS、PSUE であること。

8.1.2 Asynchronous Replication ペアを強制的に削除する

次の場合は、pairsplit コマンドに-SF オプションを指定して、Asynchronous Replication ペアを強制的に削除します。

- 通信エラーでリモートストレージシステムへ接続できない状態でペアを削除する。

通信エラーでリモートストレージシステムへ接続できない場合は、ローカルストレージシステムおよびリモートストレージシステムの両方でペアを強制的に削除してください。

注意

次のデータは破棄されます。

- 正サイトのストレージシステムで強制削除を実行した場合、副サイトのストレージシステムに送られていないデータ
- 副サイトのストレージシステムで強制削除を実行した場合、リストアされていないデータ

また、強制削除実行時に、ジャーナル内に PAIR/COPY 状態のペアがある場合、該当するペアへのホスト I/O がタイムアウトすることがあります。

前提条件

- ミラーの状態が Initial 状態以外であること

8.2 Asynchronous Replication のジャーナルおよびミラーの保守

ジャーナルおよびミラーの保守は次の操作から構成されます。

- ジャーナルオプションの変更
- ミラーオプションの変更

- ジャーナルからのジャーナルボリュームの削除
- ジャーナルの削除

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication のジャーナルを参照する \(87 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication で使用されるジャーナルのオプションを変更する \(87 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication で使用されるミラーのオプションを変更する \(89 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication のジャーナルからジャーナルボリュームを削除する \(90 ページ\)](#)

[ジャーナルボリュームとリザーブジャーナルボリュームを交換する手順の流れ \(90 ページ\)](#)

[ジャーナルを削除する \(92 ページ\)](#)

8.2.1 Asynchronous Replication のジャーナルを参照する

ジャーナルは RAID Manager で参照できます。

操作で使用するコマンド

- Asynchronous Replication のジャーナルの参照 (`raidcom get journal` コマンド)

前提条件

ありません。

8.2.2 Asynchronous Replication で使用されるジャーナルのオプションを変更する

次に示すジャーナルのオプションを変更できます。

- ジャーナルボリューム流入制御

ジャーナルボリュームへの更新 I/O の流入を制限してホストへの応答を遅らせるかどうかを指定します。デフォルトは「無効」です。

たとえば、2 つのジャーナルにアクセスするデータ転送パスを設定している場合、一方のジャーナルのプライマリボリュームに重要なデータベースが保存され、他方のジャーナルのプライマリボリュームにはあまり重要ではないデータベースが保存されるときは、重要なデータベースが保存されているジャーナルへの更新 I/O は制限しないで、重要ではないデータベースが保存されているジャーナルに対する更新 I/O の流入を制限すると効果的です。

ジャーナルボリューム流入制御が無効な場合、マスタジャーナルボリュームの使用率が 100% になるとサスペンドします。

ジャーナルボリューム流入制御が有効な場合、マスタジャーナルボリュームの使用率が 80%を超過すると、プライマリボリュームへの Write I/O の応答を遅らせます。

ジャーナルボリューム内のデータが満杯（マスタジャーナルボリュームの使用率が 100%）となった場合、データあふれ監視時間が経過した後に更新 I/O があると、障害サスペンドします。

- データあふれ監視時間

ジャーナルボリューム内のデータ量が満杯になっても、設定した時間が経過するまで Asynchronous Replication ペアはサスペンドしません。この期間、ジャーナルデータ領域の空きを待つために、ホストからの更新 I/O に対する応答が遅れます。

- キャッシュモード

リストアジャーナル内のジャーナルデータをキャッシュに格納するかどうかを指定します。

メモ

- 次に示すジャーナルのオプションは、正サイトでだけ変更できます。

- ジャーナルボリューム流入制御
- データあふれ監視時間

上記以外のジャーナルのオプションは、正サイトと副サイトのどちらからでも変更できます。

- ジャーナルボリューム流入制御を有効にする場合は、データあふれ監視時間に 0 以外を設定します。
- ジャーナルボリューム流入制御が有効な場合、ホストからの I/O のレスポンスが低下し、業務へ影響が出るおそれがあります。
- 1 回のコマンドで、MP ユニット ID、データあふれ監視時間、キャッシュモードを同時に指定できません。個別に設定してください。

操作で使用するコマンド

- Asynchronous Replication のオプションを変更（raidcom modify journal コマンド）

オプション	RAID Manager
ジャーナル流入制御	raidcom modify journal -data_overflow_watch
データあふれ監視時間	raidcom modify journal -cache_mode

前提条件

- ジャーナル内のミラー状態が次のどれかになっていること。

ジャーナルのミラー状態の詳細は、「[7.4.1 ミラー状態の定義 \(83 ページ\)](#)」を参照してください。

- Initial

- Stopped

メモ

- ジャーナルボリュームへの流入制御を有効にする場合は、データあふれ監視時間 (-data_overflow_watch) に、0 以外を指定してください。データあふれ監視時間に 0 を指定すると、ジャーナルボリュームへの流入制御は無効になります。

8.2.3 Asynchronous Replication で使用されるミラーのオプションを変更する

操作で使用するコマンド

- ミラーのオプションの変更 (raidcom modify journal コマンド)

次に示すミラーのオプションを変更できます。

オプション	RAID Manager	説明
パス監視時間	raidcom modify journal -path_blocked_watch	物理パス障害（パス切れなど）が発生してからミラーが分割（サスペンド）されるまでの監視時間および監視時間の単位を指定します。 パス監視時間の設定は、システム詳細設定 #16 が ON かつ、システム詳細設定 #15 が OFF のときに有効になります。
パス監視時間の転送	raidcom modify journal -path_blocked_watch_transfer	マスタジャーナルのパス監視時間をリストアジャーナルに転送するかどうかを指定します。
コピー速度	raidcom modify journal -copy_size	データがコピーされる速度を規定します。
転送速度	raidcom modify journal -transfer_speed	データ転送時の転送速度を指定します。

正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムからミラーオプションを変更できます。ただし、副サイトではコピー速度の設定ができません。

メモ

1 回のコマンドで、MP ユニット ID、データあふれ監視時間、キャッシュモードを同時に指定できません。個別に設定してください。

前提条件

- ミラーの状態が次のどれかになっている必要があります。

ジャーナルのミラー状態の詳細は、「[7.4.1 ミラー状態の定義 \(83 ページ\)](#)」を参照してください。

- Initial

- Active
- Stopped

Active 状態のミラーは、転送速度だけ変更できます。

- ミラー分割、およびミラー削除の遷移中は、ミラーのオプションを変更できません。

メモ

- 転送速度以外のミラーオプションは、ミラー状態が「Initial」または「Stopped」の場合に変更できます。
- 正サイトのジャーナルのみ、コピー速度を変更できます。

8.2.4 Asynchronous Replication のジャーナルからジャーナルボリュームを削除する

ジャーナルボリュームを削除すると、そのボリュームはジャーナルとして利用できなくなり、そのボリュームにはプライマリボリュームの更新内容が格納されなくなります。

操作で使用するコマンド

- ジャーナルからのジャーナルボリューム削除 (`raidcom delete journal` コマンド)

ジャーナルボリュームのボリューム番号は RAID Manager の `raidcom get journal` コマンドで参照できます。リザーブジャーナルボリュームのボリューム番号は `raidcom get ldev -ldev_list journal` コマンドで参照できます。

前提条件

- ジャーナルボリュームは、次のどれかの条件を満たす場合にかぎり、削除できます。

ジャーナルのミラー状態の詳細は、「[7.4.1 ミラー状態の定義 \(83 ページ\)](#)」を参照してください。

- ジャーナル内のミラーに属するペアが削除されている。
- ジャーナル内のミラーに属するペアがサスペンドされている。かつリザーブジャーナルボリュームがある。
- ジャーナル内のミラーの状態が Initial、Stopped である。かつリザーブジャーナルボリュームがある。

8.2.5 ジャーナルボリュームとリザーブジャーナルボリュームを交換する手順の流れ

ジャーナルボリュームは 1 つのジャーナルに 2 個まで登録できますが、2 個目のジャーナルボリュームはリザーブジャーナルボリュームとして登録し、通常の運用では使用しません。ジャーナルボリュームとリザーブジャーナルボリュームを交換する手順の流れを次に示します。

操作手順

1. リザーブジャーナルボリュームを追加します。
2. 使用中のジャーナルボリュームを削除します。
3. ジャーナルを再同期します。

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication のジャーナルボリュームとは \(6 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication のジャーナルからジャーナルボリュームを削除する \(90 ページ\)](#)

[リザーブジャーナルボリュームを追加する \(91 ページ\)](#)

8.2.5.1 リザーブジャーナルボリュームを追加する

- リザーブジャーナルボリュームの追加 (raidcom add journal コマンド)

前提条件

- リザーブジャーナルボリュームとなる未割り当てのジャーナルボリュームがあること。

関連リンク

参照先トピック

[リザーブジャーナルボリュームを使って Asynchronous Replication ペアを復旧する \(91 ページ\)](#)

8.2.5.2 リザーブジャーナルボリュームを使って Asynchronous Replication ペアを復旧する

ジャーナルボリュームが属するプールまたはプールボリュームのドライブ障害によって Asynchronous Replication ペアが分割されたときやジャーナルボリューム内に PIN が発生した場合は、リザーブジャーナルボリュームを使って、次の手順で復旧してください。

操作で使用するコマンド

- ジャーナルボリュームの削除 (raidcom delete journal コマンド)

- Asynchronous Replication ペアの再同期 (pairresync コマンド)
- 1. 障害が発生したジャーナルボリュームを削除する (「[8.2.4 Asynchronous Replication のジャーナルからジャーナルボリュームを削除する \(90 ページ\)](#)」を参照)。
- 2. Stopped のミラーに対して、Asynchronous Replication ペアを再同期する (「[6.6 Asynchronous Replication ペアを再同期する \(70 ページ\)](#)」を参照)。

メモ

- リザーブジャーナルボリュームを使わない場合は、分割された Asynchronous Replication ペア、およびジャーナルボリュームを削除する必要があります。

前提条件

- 対象のジャーナルにリザーブジャーナルボリュームがあること。
リザーブジャーナルボリュームの追加手順は「[8.2.5.1 リザーブジャーナルボリュームを追加する \(91 ページ\)](#)」を参照してください。
- 対象ジャーナルの全ミラーの状態が Stopped であること。

関連リンク

参照先トピック

[リザーブジャーナルボリュームを追加する \(91 ページ\)](#)

8.2.6 ジャーナルを削除する

ジャーナルは、正サイトのストレージシステムまたは副サイトのストレージシステムで削除できます。

操作で使用するコマンド

- ジャーナルの削除 (raidcom delete journal コマンド)

前提条件

- ジャーナル内のすべてのミラーが Initial 状態であること。
マスタジャーナルおよびリストアジャーナルは削除できません。

8.3 Asynchronous Replication のリモートパスの保守

ここでは次の項目について説明します。

- データ転送の待ち時間の変更

- リモートパスの追加
- リモートパスの削除
- リモート接続の削除

関連リンク

参照先トピック

[データ転送の待ち時間を変更する \(93 ページ\)](#)

[リモートパスを追加する \(93 ページ\)](#)

[リモートパスを削除する \(94 ページ\)](#)

[リモート接続を削除する \(94 ページ\)](#)

8.3.1 データ転送の待ち時間を変更する

ストレージシステム間のデータコピー完了までの待ち時間を変更できます。待ち時間が設定値になった場合、システムの障害と見なしてデータ転送が停止します。

データ転送の待ち時間は、正サイトのストレージシステムまたは副サイトのストレージシステムから変更できます。

操作で使用するコマンド

- データ転送待ち時間の変更 (`raidcom modify rcu` コマンド)

8.3.2 リモートパスを追加する

正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムを結ぶリモートパスを追加します。1 台の正サイトのストレージシステムと 1 台の副サイトのストレージシステムの間には、リモートパスを 8 個まで構築できます。

操作で使用するコマンド

- リモートパスの追加 (`raidcom add rcu_path` コマンド)
 - iSCSI ターゲットポートの追加 (`raidcom add rcu_iscsi_port` コマンド)

メモ

iSCSI ポートを用いたリモートパス追加は、初めに `raidcom add rcu_iscsi_port` を使用してローカルストレージシステムの iSCSI ポートに、リモートストレージシステムの iSCSI ターゲットポートを登録します。その後、登録したポートを指定して `raidcom add rcu rcu_path` を使用してリモートパスを追加します。

前提条件

- ・ リモート接続を追加するときの前提条件を確認すること。

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication のリモート接続を追加する \(60 ページ\)](#)

8.3.3 リモートパスを削除する

リモートパスを削除したい場合は、あらかじめ `raidcom get rcu` コマンドで、残りのリモートパス数が最小パス数より多いことを確認してください。残りのリモートパス数がこの最小パス数以下だと、リモートパスは削除できません。

正サイトのストレージシステムから副サイトのストレージシステムへ向かうリモートパスを削除するには、正サイトのストレージシステムの管理者が正サイトで操作を実行します。副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへ向かうリモートパスを削除するには、副サイトのストレージシステムの管理者が副サイトで操作を実行します。

操作で使用するコマンド

- ・ リモートパス数の確認 (`raidcom get rcu` コマンド)
- ・ リモートパスの削除 (`raidcom delete rcu_path` コマンド)
- ・ iSCSI ターゲットポートの解除 (`raidcom delete rcu_iscsi_port` コマンド)

メモ

iSCSI ポートを用いたリモートパスを削除する場合は、最初に `raidcom delete rcu_path` コマンドを使用して、リモートパスを削除します。

その後、必要に応じて `raidcom delete rcu_iscsi_port` コマンドを使用して、ローカルストレージシステムの iSCSI ポートに登録されている iSCSI ターゲットポートを解除します。

8.3.4 リモート接続を削除する

正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムの間を削除すると、ストレージシステム間のリモートパスはすべて削除されます。

この操作は、正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムの両方で実行する必要があります。

操作で使用するコマンド

- ・ リモート接続の削除 (`raidcom delete rcu` コマンド)

前提条件

- ローカルストレージシステムとリモートストレージシステムとの間のすべての Asynchronous Replication ペアが削除されていること。

8.4 ペアを維持した DP-VOL の容量拡張

ストレージシステム間またはストレージシステムに作成した Active Mirror ボリューム、Synchronous Replication ボリューム、Asynchronous Replication ボリューム、Local Replication ボリューム、または Snapshot Advanced ボリュームのペアでは、各プログラムプロダクトのペアを維持したまま、ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張できます。

メモ

iStorage V Series SDS との Asynchronous Replication ペアは、ペアを維持した状態での DP-VOL の容量拡張ができません。

8.4.1 Asynchronous Replication ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張する

Asynchronous Replication ペアのボリュームとして使用している DP-VOL の容量拡張手順を次に示します。

ここでは、Asynchronous Replication ペア単体を容量拡張する場合の手順を説明しています。他のプログラムプロダクトと連携した構成で容量拡張をする場合は、「[8.4.2 プログラムプロダクトを連携した状態での DP-VOL の容量拡張 \(99 ページ\)](#)」を参照してください。

前提条件

- 拡張する仮想ボリュームが外部ボリュームではないこと
- 拡張する仮想ボリュームが LDEV フォーマット中ではないこと
- 拡張する仮想ボリュームに関連づけているプールが、次の状態のどれかであること
 - 正常
 - プールの縮小を実行中でない
- 「[8.4 ペアを維持した DP-VOL の容量拡張 \(95 ページ\)](#)」に記載されているストレージシステム上に作成されたボリュームであること

操作手順

- Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方について、前提条件を満たしているか確認します。

メモ

Asynchronous Replication ペアの片方のボリュームだけが容量拡張に成功し、もう片方のボリュームで容量拡張に失敗した場合、容量拡張後に実施する Asynchronous Replication ペアの再同期操作が、容量不一致により失敗します。Asynchronous Replication ペアの再同期に失敗した場合、「[8.4.3.1 Asynchronous Replication ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順 \(110 ページ\)](#)」の実施が必要となります。

2. Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方について、現在の差分データの管理方式の設定を確認します。

pairdisplay コマンドを使用して、Asynchronous Replication ペアの詳細情報を表示します。

現在の差分データの管理方式がシェアドメモリ差分か、階層差分（ドライブによる差分）か確認します。

- シェアドメモリ差分の場合、一時的に階層差分にする必要があります。手順 3 に進んでください。
- 階層差分の場合、手順 4 に進んでください。

コマンド例：

pairdisplay の DM 列が差分データの管理方式を示します。

```
# pairdisplay -g oradb -fe -fcx -CLI
Group PairVol L/R Port# TID LU Seq# LDEV# P/S Status Fence % P-LD
EV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W QM DM P PR CS D_Status ST EL
V PGID CT(s) LUT
oradb dev1 L CL5-A-0 30 0 64568 301 P-VOL PAIR ASYNC 0 303 - 0 8 1 - -
- -/- - S N - 3 PAIR 02 N 0 1 2024-01-20T12:00:01
oradb dev1 R CL5-A-0 30 2 64568 303 S-VOL PAIR ASYNC 0 301 - 0 1 1 - -
- -/- - S N - 3 PAIR 02 N 0 - 2024-01-20T12:01:20
oradb dev2 L CL5-A-0 30 1 64568 302 P-VOL PAIR ASYNC 0 304 - 0 8 1 - -
- -/- - D N - 3 PAIR 02 N 0 1 2024-01-20T12:00:01
oradb dev2 R CL1-A-0 30 3 64568 304 S-VOL PAIR ASYNC 0 302 - 0 1 1 - -
- -/- - D N - 3 PAIR 02 N 0 - 2024-01-20T12:01:20
```

DM 列

S：シェアドメモリ差分

D：階層差分

3. Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方について、次の手順で、データの差分管理方式を階層差分に変更します。

- a. raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を ON、1199 を OFF に設定します。

コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 119
8 -mode enable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 119
9 -mode disable
```

- b. Asynchronous Replication ペアを中断します。
 - c. Asynchronous Replication ペアを再同期します。
 - d. ペア再同期によりペア状態が PAIR に遷移後、RAID Manager で Asynchronous Replication ペア詳細情報を表示し、現在の差分データの管理方式が、階層差分であることを確認します。
4. Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方について、階層差分に設定が完了したら Asynchronous Replication ペアを中断します。
 5. Asynchronous Replication ペアのセカンダリボリュームを容量拡張します。

raidcom extend ldev コマンドに -request_id auto オプションを付けて非同期処理を指定します。

コマンド例：

LDEV#44:44 に対し 10GB 分容量拡張します。

```
raidcom extend ldev -ldev_id 0x4444 -capacity 10G -request_id auto -IH
1
```

メモ

1 台のストレージシステムあたりに割り当てられる Request ID は、65,280 個までです。利用できる Request ID がない場合、コマンドは EX_IDEXHA で失敗します。この場合は、『RAID Manager コマンドリファレンス』に記載されている、Request ID の機能に関する説明を参照して、Request ID を解放してください。

6. Asynchronous Replication ペアのセカンダリボリュームの容量拡張が完了したことを確認します。

raidcom get command_status コマンドで、raidcom extend ldev コマンドの処理の完了を確認します。その後、raidcom get ldev コマンドで、LDEV 容量が正しい値になっているか確認します。

コマンド例：

```
raidcom get command_status -request_id <request#> -IH1
raidcom get ldev -ldev_id 0x4444 -fx -IH1
```

ヒント

<request#>には、手順 5 の実行時に表示される Request ID を指定します。

7. 非同期コマンドの完了を確認した後に、Request ID を解放します。

コマンド例：

```
raidcom reset command_status -request_id <request#> -IH1
```

8. セカンダリボリュームと同様の手順で、Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームを容量拡張します。

メモ

Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームの容量拡張に失敗した場合は、「[8.4.3.1 Asynchronous Replication ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順 \(110 ページ\)](#)」を実施してください。

9. セカンダリボリュームと同様の手順で、Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームの容量拡張が完了したことを確認します。
10. Asynchronous Replication ペアを再同期します。

メモ

Asynchronous Replication ペアの再同期に失敗した場合は、「[8.4.3.1 Asynchronous Replication ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順 \(110 ページ\)](#)」を実施してください。

11. Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR に変わったことを確認します。

また、容量拡張中状態ではないことを確認します。

pairedisplay の P 列が「N」となっていることを確認します。

コマンド例：

```
# pairedisplay -g oradb -fe -fcx -CLI
Group PairVol L/R Port# TID LU Seq# LDEV# P/S Status Fence % P-LD
EV# M CTG JID AP EM E-Seq# E-LDEV# R/W QM DM P PR CS D_Status ST EL
V PGID CT(s) LUT
oradb dev1 L CL5-A-0 30 0 64568 301 P-VOL PAIR ASYNC 0 303 - 0 8 1 - -
- -/- - S N - 3 PAIR 02 N 0 1 2024-01-20T12:00:01
oradb dev1 R CL5-A-0 30 2 64568 303 S-VOL PAIR ASYNC 0 301 - 0 1 1 - -
- -/- - S N - 3 PAIR 02 N 0 - 2024-01-20T12:01:20
oradb dev2 L CL5-A-0 30 1 64568 302 P-VOL PAIR ASYNC 0 304 - 0 8 1 - -
- -/- - D N - 3 PAIR 02 N 0 1 2024-01-20T12:00:01
oradb dev2 R CL1-A-0 30 3 64568 304 S-VOL PAIR ASYNC 0 302 - 0 1 1 - -
- -/- - D N - 3 PAIR 02 N 0 - 2024-01-20T12:01:20
```

P 列

容量拡張中の状態を表します。

N : 容量拡張状態ではありません。

E : 容量拡張中です。Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームの容量拡張操作を実施してからペアを再同期するまでの間この状態となります。再同期完了後、「N」に遷移します。

12. 手順 2 で、データの差分管理方式がシェアドメモリ差分だった場合、次の手順でシェアドメモリ差分に戻します。

- a. `raidcom modify system_opt` コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を OFF、1199 を ON に設定します。

コマンド例 :

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198 -mode disable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199 -mode enable
```

- b. Asynchronous Replication ペアを中断します。
- c. Asynchronous Replication ペアを再同期します。
- d. RAID Manager で Asynchronous Replication ペア詳細情報を表示し、現在の差分データの管理方式が、シェアドメモリ差分であることを確認します。
- e. システムオプションモード 1198 と 1199 の設定を変更している場合は、RAID Manager で、元の設定に戻します。`raidcom modify system_opt` コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を OFF、1199 を OFF に設定します。

コマンド例 :

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198 -mode disable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199 -mode disable
```

8.4.2 プログラムプロダクトを連携した状態での DP-VOL の容量拡張

ここでは、プログラムプロダクト連携時の容量拡張順序を説明します。最初に基本的な考え方を説明し、次に具体的な操作手順を説明します。

- 8.4.2.1 プログラムプロダクト連携時の容量拡張順序の考え方 (100 ページ)
- 8.4.2.2 ローカルコピーの S-VOL にリモートコピーの P-VOL を連携する構成での容量拡張順序の考え方 (101 ページ)
- 8.4.2.3 各プログラムプロダクトの容量拡張の前提条件 (102 ページ)
- 8.4.2.4 Asynchronous Replication ペアと Local Replication を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する (103 ページ)

- 8.4.2.5 Asynchronous Replication ペアと Snapshot Advanced を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する (106 ページ)

8.4.2.1 プログラムプロダクト連携時の容量拡張順序の考え方

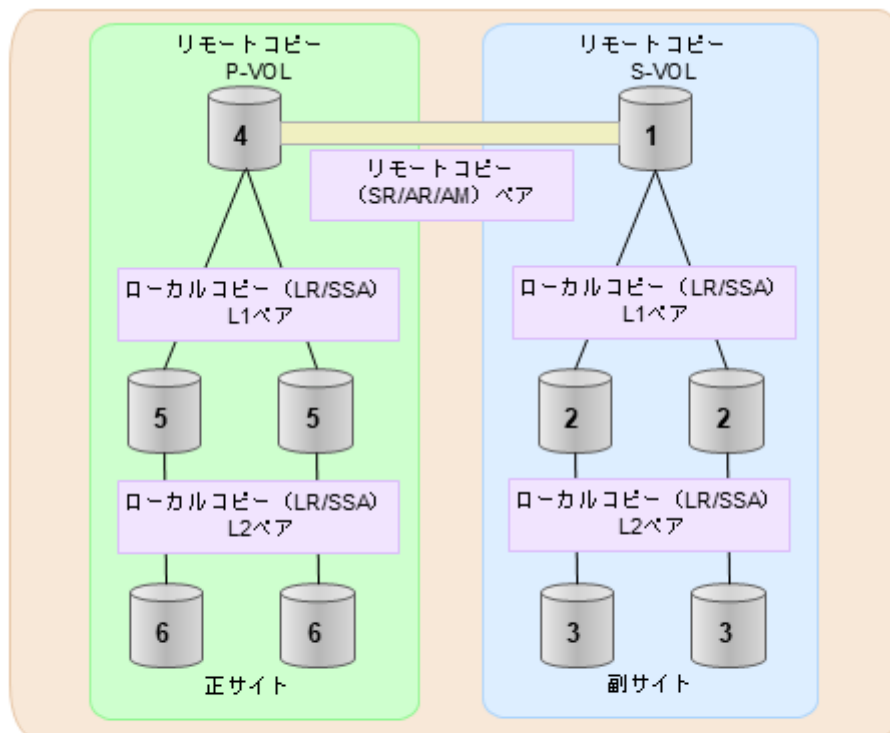
Asynchronous Replication ペアが次のプログラムプロダクトと連携している状態で、Asynchronous Replication ペアおよび各プログラムプロダクトのペアが使用している DP-VOL の容量を拡張できます。

- Local Replication
- Snapshot Advanced

Asynchronous Replication ペアが各プログラムプロダクトと連携した構成の場合、各 DP-VOL の拡張順序は、次の 2 つの拡張順序を満たすように操作する必要があります。

- Asynchronous Replication ペアの 1 対 1 構成時の拡張順序
- 各プログラムプロダクトの 1 対 1 構成時の拡張順序

次にプログラムプロダクト連携を考慮した、DP-VOL の拡張順序の考え方を示します。



(凡例)

SR: Synchronous Replication
 AR: Asynchronous Replication
 AM: Active Mirror
 LR: Local Replication
 SSA: Snapshot Advanced

1. リモートコピー (Synchronous Replication/Asynchronous Replication/Active Mirror) にローカルコピー (Local Replication/Snapshot Advanced) が連携している場合

次に示すまとまりごとに拡張します。最初に、リモートコピーの S-VOL のまとまりを拡張し、次に、リモートコピーの P-VOL のまとまりを拡張します。

- a. リモートコピーの S-VOL と、その S-VOL と連携しているローカルコピーのボリュームすべてのまとまり
- b. リモートコピーの P-VOL と、その P-VOL と連携しているローカルコピーのボリュームすべてのまとまり

まとまり内の拡張順序は、ローカルコピーの拡張順序に従います。

具体的な拡張手順については、次の手順を参照してください。

- 「8.4.2.4 Asynchronous Replication ペアと Local Replication を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する (103 ページ)」
 - 「8.4.2.5 Asynchronous Replication ペアと Snapshot Advanced を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する (106 ページ)」
2. ローカルコピー (Local Replication/Snapshot Advanced) の拡張順序は、上の階層から順に実施します。同一階層の場合は順不同です。

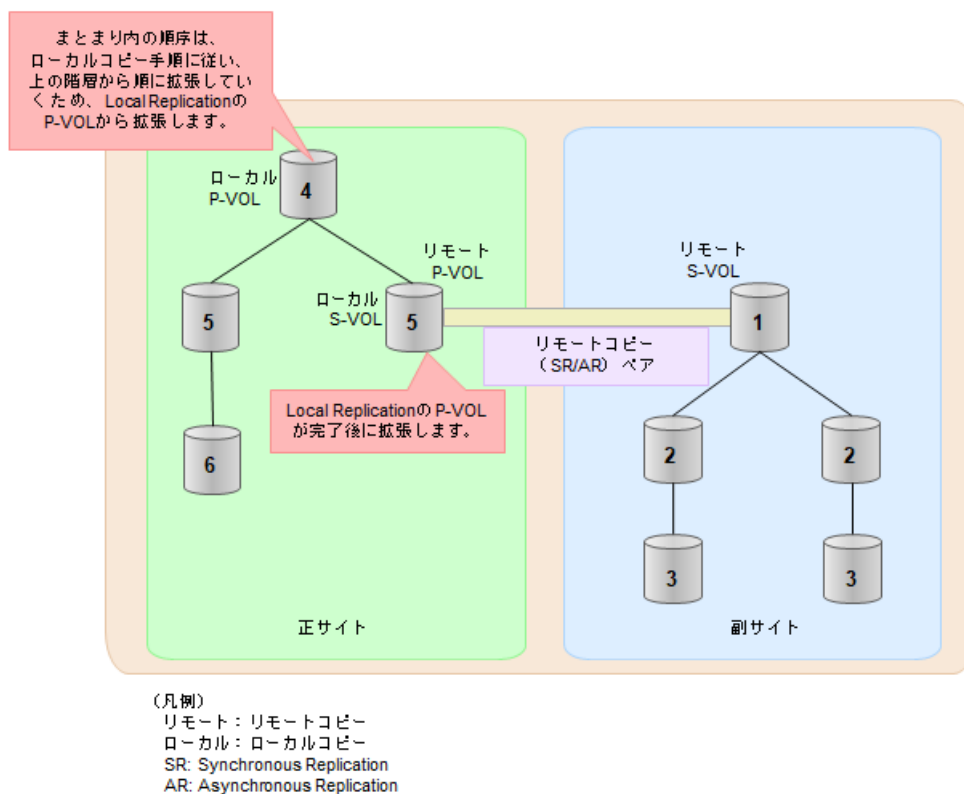
8.4.2.2 ローカルコピーの S-VOL にリモートコピーの P-VOL を連携する構成での容量拡張順序の考え方

リモートコピーの P-VOL にローカルコピーの S-VOL が連携していた場合、次の順番で容量拡張します。

1. リモートコピーの S-VOL のまとまりを容量拡張します (図の「1」、「2」、「3」)。
2. リモートコピーの P-VOL のまとまりを容量拡張します (図の「4」、「5」、「6」)。

手順 2 では、ローカルコピーの拡張順序が優先され、上の階層から順に拡張するため、ローカルコピーの P-VOL を拡張してから、次にリモートコピーの P-VOL と連携しているローカルコピーの S-VOL を拡張します。

たとえば、次の図のように Synchronous Replication または Asynchronous Replication の P-VOL に Local Replication の S-VOL が連携している場合、Local Replication の P-VOL (図中の「4」のボリューム) を先に拡張します。続いて、Local Replication の S-VOL (=Synchronous Replication または Asynchronous Replication の P-VOL (図中の右側の「5」のボリューム))、Local Replication の同じ階層のボリューム、Local Replication の次の階層のボリューム…の順で拡張します。



8.4.2.3 各プログラムプロダクトの容量拡張の前提条件

容量拡張をする際の前提条件を次に示します。

容量拡張対象のボリュームすべてに対して、各プログラムプロダクト間で共通の前提条件、および拡張対象のプログラムプロダクト固有の前提条件をすべて満たすようにしてください。

各プログラムプロダクト間で共通の前提条件

- ・ 拡張する仮想ボリュームが外部ボリュームではないこと
- ・ 拡張する仮想ボリュームが LDEV フォーマット中ではないこと
- ・ 拡張する仮想ボリュームに関連づけているプールが、次の状態のどれかであること
 - 正常
 - プールの縮小を実行中でない
- ・ 「8.4 ペアを維持した DP-VOL の容量拡張 (95 ページ)」に記載されているストレージシステム上に作成されたボリュームであること

Local Replication 固有の前提条件

- ・ 拡張後に必要な次の資源数がシステム最大を超えないこと

- 差分テーブル数
- ペアテーブル数

必要な差分テーブル数/ペアテーブル数の確認方法

メモ

DP-VOL が 4TB を超える場合、シェアドメモリではなく階層メモリという領域に差分テーブルを配置するため、シェアドメモリの差分テーブルを使用しません。このため、4TB を超える DP-VOL に拡張する場合は、差分テーブル数の計算は不要です。

1. 次の式を使用して、1 ペアあたりに必要な差分テーブル数を計算します。

容量拡張に必要な差分テーブル数 = 拡張後の容量で必要な差分テーブル数 - 拡張前の容量で必要な差分テーブル数

1 ペアあたりに必要な差分テーブル数 = $\uparrow (\text{ボリューム容量 KB} \div 256) \div 20,448 \uparrow$

$\uparrow \uparrow$ で値が囲まれている場合は、その値の小数点以下を切り上げてください。

2. 1 ペアあたりに必要なペアテーブル数を計算します。

容量拡張に必要なペアテーブル数 = 拡張後の容量で必要なペアテーブル数 - 拡張前の容量で必要なペアテーブル数

1 ペアあたりに必要なペアテーブル数 = $\uparrow 1 \text{ ペアあたりに必要な差分テーブル数} \div 36 \uparrow$

$\uparrow \uparrow$ で値が囲まれている場合は、その値の小数点以下を切り上げてください。

3. 次を示すテーブル数が、システム最大数を超えないことを確認します。

- 現在のペアテーブル数と容量拡張に必要なペアテーブル数の合計
- 現在の差分テーブル数と容量拡張に必要な差分テーブル数の合計

差分テーブル数およびペアテーブル数は、`raidcom get system -key replication` で確認できます。

Snapshot Advanced 固有の前提条件

『Snapshot Advanced ユーザガイド』の「ペアを維持したまま Snapshot Advanced ペアのボリュームの容量を拡張する」の章の手順説明を参照してください。

8.4.2.4 Asynchronous Replication ペアと Local Replication を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する

Asynchronous Replication ペアと Local Replication を併用している状態で、ペアボリュームで使用している DP-VOL の容量を拡張できます。

Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームそれぞれに、Local Replication ペアを L1 ペア、L2 ペアを作成した構成を例とした容量拡張手順を次に示します。

次の操作手順内で行う、差分データ管理方式の確認、容量拡張、および容量拡張の状態確認の詳細手順については、「[8.4.1 Asynchronous Replication ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張する \(95 ページ\)](#)」を参照してください。

操作手順

1. Asynchronous Replication ペア、および Asynchronous Replication ペアと連携している Local Replication ペアの、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの各ボリュームについて、「[8.4.2.3 各プログラムプロダクトの容量拡張の前提条件 \(102 ページ\)](#)」に記載されている前提条件を満たしているか確認します。

2. `pairedisplay` コマンドを使用して、Asynchronous Replication ペアの詳細情報を表示します。

現在の差分データの管理方式がシェアドメモリ差分か、階層差分（ドライブによる差分）か確認します。

- シェアドメモリ差分の場合、一時的に階層差分にする必要があります。手順 3 に進んでください。
- 階層差分の場合、手順 4 に進んでください。

3. 次の手順で、データの差分管理方式を階層差分に変更します。

- a. `raidcom modify system_opt` コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を ON、1199 を OFF に設定します。

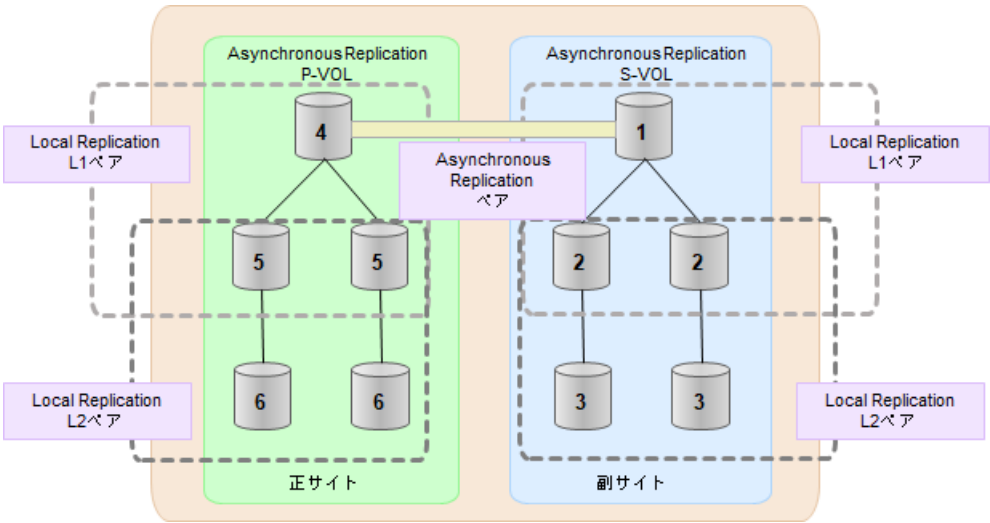
コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198 -mode enable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199 -mode disable
```

- b. Asynchronous Replication ペアを中断します。
 - c. Asynchronous Replication ペアを再同期します。
 - d. RAID Manager で Asynchronous Replication ペア詳細情報を表示し、現在の差分データの管理方式が、階層差分であることを確認します。
4. Asynchronous Replication ペアと Local Replication ペアをすべて中断します。
 5. Local Replication ペアのペア状態を確認します。

PSUS または PSUE の状態の場合に、Local Replication のペアボリュームを拡張できません。現在のペア状態を確認して、異なる状態の場合はペア操作を行い、PSUS または PSUE の状態に遷移したことを確認します。

6. 次の図で示した順序にしたがって、各ボリュームの容量拡張と容量拡張の完了確認を実施します。



メモ

1 番目のボリューム（Asynchronous Replication の S-VOL）の容量を拡張した後に、次の操作に失敗した場合、「[8.4.3.1 Asynchronous Replication ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順（110 ページ）](#)」を実施してください。

- Local Replication ペアの DP-VOL の容量拡張
- Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームの容量拡張
- Asynchronous Replication ペアの再同期

7. Asynchronous Replication ペアを再同期します。
8. Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR に変わったことを確認します。

また、Asynchronous Replication ペアと Local Replication ペアすべてについて容量拡張中状態ではないことを確認します。

容量拡張の処理状態は、次のように表示されます。

状態	pairedisplay の P 列表示
容量拡張中ではない	N
容量拡張中	E※

注※

Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームの容量を拡張してからペアを再同期するまでの間この状態表示となります。再同期が完了後、容量拡張中ではない状態に遷移します。

Local Replication ペアの場合、プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームの容量を拡張後も、しばらく（30 秒ほど）この状態となります。その後、容量拡張中ではない状態に遷移します。

9. 手順 2 で、データの差分管理方式がシェアドメモリ差分だった場合、次の手順でシェアドメモリ差分に戻します。
 - a. `raidcom modify system_opt` コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を OFF、1199 を ON に設定します。

コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198 -mode disable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199 -mode enable
```

- b. Asynchronous Replication ペアを中断します。
- c. Asynchronous Replication ペアを再同期します。
- d. RAID Manager で、Asynchronous Replication ペアの詳細情報を表示し、現在の差分データの管理方式が、シェアドメモリ差分であることを確認します。
- e. システムオプションモード 1198 と 1199 の設定を変更している場合は、RAID Manager で、元の設定に戻します。`raidcom modify system_opt` コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を OFF、1199 を OFF に設定します。

コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198 -mode disable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199 -mode disable
```

8.4.2.5 Asynchronous Replication ペアと Snapshot Advanced を併用している状態で DP-VOL の容量を拡張する

Asynchronous Replication ペアと Snapshot Advanced を併用している状態で、ペアボリュームで使用している DP-VOL の容量を拡張できます。

Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームそれぞれに、Snapshot Advanced ペアを L1 ペア、L2 ペアを作成した構成を例とした容量拡張手順を次に示します。

次の操作手順内で行う、差分データ管理方式の確認、容量拡張、および容量拡張の状態確認の詳細手順については、「[8.4.1 Asynchronous Replication ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張する \(95 ページ\)](#)」を参照してください。

操作手順

1. Asynchronous Replication ペア、および Asynchronous Replication ペアと連携している Snapshot Advanced ペアの、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの各ボリュームについて、「[8.4.2.3 各プログラムプロダクトの容量拡張の前提条件 \(102 ページ\)](#)」に記載されている前提条件を満たしているか確認します。
2. pairdisplay コマンドを使用して、Asynchronous Replication ペアの詳細情報を表示します。

現在の差分データの管理方式がシェアドメモリ差分か、階層差分（ドライブによる差分）か確認します。

- シェアドメモリ差分の場合、一時的に階層差分にする必要があります。手順 3 に進んでください。
- 階層差分の場合、手順 4 に進んでください。

3. 次の手順で、データの差分管理方式を階層差分に変更します。
 - a. raidcom modify system_opt コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を ON、1199 を OFF に設定します。

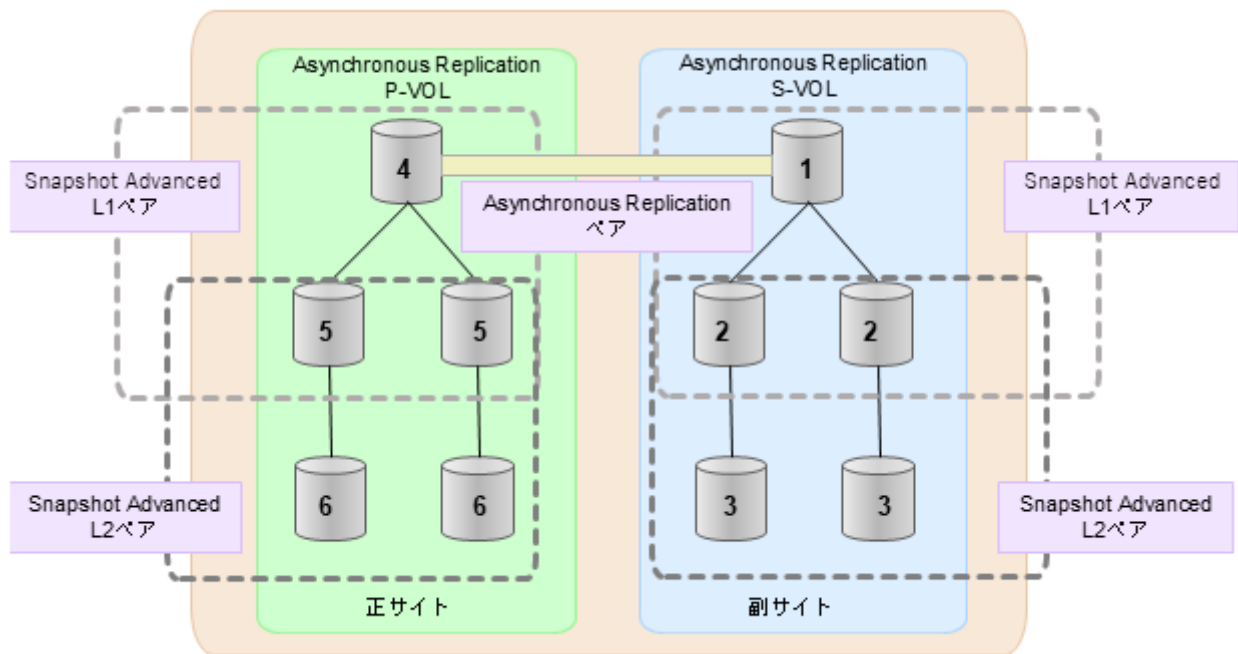
コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198 -mode enable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199 -mode disable
```

- b. Asynchronous Replication ペアを中断します。
 - c. Asynchronous Replication ペアを再同期します。
 - d. RAID Manager で Asynchronous Replication ペア詳細情報を表示し、現在の差分データの管理方式が、階層差分であることを確認します。
4. Asynchronous Replication ペアを中断します。
 5. Snapshot Advanced ペアのペア状態を確認します。

PAIR、PSUS または PSUE の状態の場合に、Snapshot Advanced のペアボリュームを拡張できます。現在のペア状態を確認して、異なる状態の場合はペア操作を行い、PAIR または PSUS の状態に遷移したことを確認します。

6. 次の図で示した順序にしたがって、各ボリュームの容量拡張と容量拡張の完了確認を実施します。



メモ

1 番目のボリューム（Asynchronous Replication の S-VOL）の容量を拡張した後に、次の操作に失敗した場合、「[8.4.3.1 Asynchronous Replication ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順（110 ページ）](#)」を実施してください。

- Snapshot Advanced ペアの DP-VOL の容量拡張
- Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームの容量拡張
- Asynchronous Replication ペアの再同期

7. Asynchronous Replication ペアを再同期します。
8. Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が、両方とも PAIR に変わったことを確認します。

また、Asynchronous Replication ペアと Snapshot Advanced ペアすべてについて容量拡張中状態ではないことを確認します。

容量拡張の処理状態は、次のように表示されます。

状態	pairedisplay または raidcom get snapshot の P 列表示
容量拡張中ではない	N
容量拡張中	E※

注※

Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームの容量を拡張してからペアを再同期するまでの間この状態表示となります。再同期が完了後、容量拡張中ではない状態に遷移します。

Snapshot Advanced ペアの場合、プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームの容量を拡張後も、しばらく（30 秒ほど）この状態となります。その後、容量拡張中ではない状態に遷移します。

9. 手順 2 で、データの差管理方式がシェアドメモリ差分だった場合、次の手順でシェアドメモリ差分に戻します。

- a. `raidcom modify system_opt` コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を OFF、1199 を ON に設定します。

コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198 -mode disable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199 -mode enable
```

- b. Asynchronous Replication ペアを中断します。
- c. Asynchronous Replication ペアを再同期します。
- d. RAID Manager で、Asynchronous Replication ペアの詳細情報を表示し、現在の差分データの管理方式が、シェアドメモリ差分であることを確認します。
- e. システムオプションモード 1198 と 1199 の設定を変更している場合は、RAID Manager で、元の設定に戻します。`raidcom modify system_opt` コマンドを使用して、システムオプションモード 1198 を OFF、1199 を OFF に設定します。

コマンド例：

```
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1198 -mode disable
raidcom modify system_opt -system_option_mode system -mode_id 1199 -mode disable
```

8.4.3 DP-VOL 容量拡張時のトラブルシューティング

DP-VOL の容量拡張中にトラブルが起きた場合の対処方法について説明します。

—— 関連リンク ——

参照先トピック

[Asynchronous Replication ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順（110 ページ）](#)

[Asynchronous Replication ペアの片方のボリュームが容量拡張済みで障害が発生した場合のリカバリ（111 ページ）](#)

8.4.3.1 Asynchronous Replication ペアの片方のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順

Asynchronous Replication ペアの片方のボリュームだけが容量拡張に成功し、もう片方のボリュームで容量拡張に失敗した場合、容量拡張後に実施する Asynchronous Replication ペアの再同期操作が、容量不一致により失敗します。

また、Asynchronous Replication ペアを Local Replication、または Snapshot Advanced と併用している場合に、どれか 1 つのプログラムプロダクトのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量拡張が失敗した場合、ボリューム全体として容量拡張が完了していない状態となっています。

これらの状態となった場合の回復手順を次に示します。

回復手順

1. Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方について、「[8.4.1 Asynchronous Replication ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張する \(95 ページ\)](#)」の前提条件を満たしているか確認します。

また、Asynchronous Replication ペアを Local Replication、または Snapshot Advanced と併用している場合、併用しているすべてのプログラムプロダクトのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量拡張操作が必要になります。

対象のボリュームすべてについて、「[8.4.2.3 各プログラムプロダクトの容量拡張の前提条件 \(102 ページ\)](#)」に記載されている、容量拡張の前提条件を満たしているか確認します。

容量拡張の条件を満たせない場合、手順 4 に進んでください。

2. 容量拡張の条件を満たした状態で、再度容量拡張操作を実施し、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量を一致させます。たとえば空き容量が不足している場合は、空き領域を確保してから、DP-VOL の容量を拡張します。

また、Asynchronous Replication ペアを Local Replication、または Snapshot Advanced と併用している場合、再度併用しているすべてのプログラムプロダクトのボリュームの容量を拡張し、各プログラムプロダクトのペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量を一致させます。

- 上記の操作で容量拡張が成功した場合、手順 3 に進んでください。
- 上記の操作で容量拡張に失敗した場合、手順 4 に進んでください。

3. Asynchronous Replication ペアを再同期します。

これで、回復が完了します。

4. Asynchronous Replication ペアを削除し、SMPL の状態で容量拡張の操作をします。その後、Asynchronous Replication ペアを再作成します。

容量の入力ミスなどで容量拡張前の状態に戻したい場合は、Asynchronous Replication ペアを削除してから、正しい容量で LDEV を再作成します。その後、Asynchronous Replication ペアを再作成します。

- Asynchronous Replication ペアと、Local Replication または Snapshot Advanced を併用していて、Local Replication ペアまたは Snapshot Advanced ペアの P-VOL と S-VOL の容量が不一致の場合：

Local Replication ペアまたは Snapshot Advanced ペアに対しては、削除操作しかできません。容量拡張前の Local Replication ペアまたは Snapshot Advanced ペアの S-VOL のデータを読み出すことは可能なため、容量拡張前のデータを使いたい場合は、データ読み出し完了後にすべてのペアを削除してください。SMPL の状態で容量拡張の操作をします。その後、構築時の手順で構成を元に戻します。

容量の入力ミスなどで容量拡張前の状態に戻したい場合は、すべてのペアを削除してから、正しい容量で LDEV を再作成します。その後、構築時の手順で構成を元に戻します。

8.4.3.2 Asynchronous Replication ペアの片方のボリュームが容量拡張済みで障害が発生した場合のリカバリ

Asynchronous Replication ペアの片方のボリュームだけが容量拡張に成功し、もう片方のボリュームの容量を拡張する前に障害が発生した場合の回復手順について説明します。

まず、「第 9 章 災害リカバリ (117 ページ)」の回復手順に従い、障害部位を回復させます。

ただし、回復手順時の操作によっては、次に示す対応をしてください。

回復手順時の操作	対応
回復手順中に次の操作がある場合 Asynchronous Replication ペアの再同期操作	Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が不一致状態になっているため再同期操作は失敗します。 そのため、Asynchronous Replication ペアの再同期操作の直前で、後述の「障害回復追加手順 (112 ページ)」を実施してください。
回復手順中に次の操作がある場合 - Asynchronous Replication ペアの削除 - ボリュームの障害回復 - Asynchronous Replication ペアの再作成	Asynchronous Replication ペア再作成時、対象のプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が不一致状態になっているためペア作成操作は失敗します。 そのため、Asynchronous Replication ペアの作成操作の直前で、後述の「障害回復追加手順 (112 ページ)」をしてください。
回復手順中に次の操作がある場合 - Asynchronous Replication ペアの削除 - ボリュームの削除 - ボリュームの作成 - Asynchronous Replication ペアの再作成	Asynchronous Replication ペア再作成時、対象のプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が不一致状態になっているとペア作成操作は失敗します。 そのため、ボリュームの作成時、プライマリボリュームとセカンダリボリュームで容量を一致させてください。

障害回復追加手順

1. 容量拡張をしていないボリュームの容量を拡張してから、Asynchronous Replication のプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量を一致させます。

また、Asynchronous Replication ペアと他のプログラムプロダクトと併用している場合、併用しているすべてのプログラムプロダクトのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量を拡張します。ボリュームの拡張順序については、「[8.4.2.1 プログラムプロダクト連携時の容量拡張順序の考え方 \(100 ページ\)](#)」を参照してください。
2. 「[第 9 章 災害リカバリ \(117 ページ\)](#)」の回復手順に戻り、Asynchronous Replication ペアの再同期操作、Asynchronous Replication ペアの作成操作から再開します。

8.5 ストレージシステムとネットワークデバイスの電源の管理

リモートコピーの実行中のストレージシステムとネットワーク中継機器の電源管理について説明します。

- 不測の事態によって、ストレージシステムまたはネットワーク中継機器への電力供給が停止してしまったときの操作方法
- ストレージシステムまたはネットワーク中継機器の電源を意図的にオフにする方法

なお、ネットワーク中継機器とは、正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムを接続するためのハードウェアを指します。たとえば、チャネルエクステンダ（ストレージルータ）やスイッチです。

関連リンク

参照先トピック

[不測の事態によって正サイトのストレージシステムまたは副サイトのストレージシステムへの電力供給が停止した場合 \(112 ページ\)](#)

[不測の事態によってネットワーク中継機器への電力供給が停止した場合 \(113 ページ\)](#)

[正サイトのストレージシステムまたは副サイトのストレージシステムの計画停止 \(113 ページ\)](#)

[正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムの同時計画停止 \(114 ページ\)](#)

[ネットワークデバイスを停止する \(115 ページ\)](#)

8.5.1 不測の事態によって正サイトのストレージシステムまたは副サイトのストレージシステムへの電力供給が停止した場合

リモートコピーの実行中に正サイトのストレージシステムへの電力供給が停止した場合、正サイトのストレージシステムは障害が発生したと見なして、データボリュームペアをすべて分割（サスペンド）します。正サイトのストレージシステムがデータボリュームペアを分割

すると、副サイトのストレージシステムも障害が発生したと見なして、データボリュームペアをすべて分割します。

リモートコピーの実行中に副サイトのストレージシステムへの電力供給が停止した場合、副サイトのストレージシステムは障害が発生したと見なして、データボリュームペアをすべて分割（サスペンド）します。副サイトのストレージシステムがデータボリュームペアを分割すると、正サイトのストレージシステムも障害が発生したと見なして、データボリュームペアをすべて分割します。

データボリュームペアが分割（サスペンド）されているときに正サイトのストレージシステムまたは副サイトのストレージシステムへの電力供給が停止し、バックアップ用のバッテリーが完全に放電してしまった場合、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの差分データ（更新データ）は保持されません。万一このような事態が起こった場合、正サイトのストレージシステムまたは副サイトのストレージシステムは分割されたデータボリュームがすべて更新されたと見なします。その後、正サイトでデータボリュームペアの再同期を実施すると、プライマリボリューム全体がセカンダリボリュームにコピーされます。

8.5.2 不測の事態によってネットワーク中継機器への電力供給が停止した場合

リモートコピーの実行中にネットワーク中継機器への電力供給が停止した場合、正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムは障害が発生したと見なして、データボリュームペアをすべて分割（サスペンド）します。

ただし、システム詳細設定が#15、またはシステム詳細設定#16 の場合は、ジャーナルの容量が満杯になるまで分割（サスペンド）されないことがあります。

—— 関連リンク ——

参照先トピック

[システム詳細設定 \(40 ページ\)](#)

8.5.3 正サイトのストレージシステムまたは副サイトのストレージシステムの計画停止

リモートコピーの実行中に正サイトのストレージシステムまたは副サイトのストレージシステムの電源をオフにする流れを次に示します。

操作手順

1. すべてのデータボリュームペアまたはミラーを分割してください。すべてのデータボリュームペアの状態を PSUS 状態に変更してください。

⚠ 注意

すべてのデータボリュームペアの状態を **PSUS** に変更しないで電源をオフにした場合、電源をオンにしたときにすべてのデータボリュームペアの状態が障害サスペンドになるおそれがあります。

⚠ 注意

正サイトのストレージシステムからペア作成またはペア再同期操作によるデータコピー中に副サイトのストレージシステムの電源をオフにした場合、電源をオンにしたときに副サイトのストレージシステムのデータボリュームのペアが **Suspending** のままとなるおそれがあります。副サイトのストレージシステムのデータボリュームのペアが **Suspending** のままとなった場合は、正サイトのストレージシステムおよび副サイトのストレージシステムの両方でペアを強制削除し、再度ペアを作成してください。

2. 電源を切ります。

ペアを分割してからストレージシステムの電源をオフにした場合は、次の手順に従って操作するとリモートコピーを再開できます。

3. 準備が整ったら、正サイトのストレージシステムまたは副サイトのストレージシステムの電源をオンにしてください。

⚠ 注意

正サイトのストレージシステムの電源をオンにして、**Ready** ランプが点灯してから 5 分以内にペア操作を実行すると、エラーが発生するおそれがあります。また、**Ready** ランプが点灯してから 5 分以内に **PAIR** 状態のプライマリボリュームに対する書き込み I/O を受け付けると、ペアの状態が障害サスペンドになるおそれがあります。

4. システムが、コピー操作を再開する準備が整ったら、分割されていたペアを再同期してください。
5. ペアの状態が **COPY** または **PAIR** であることを確認してください。

8.5.4 正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムの同時計画停止

正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムの電源を同時にオフにする場合は、前述の手順に加え、正サイトのストレージシステムの電源を副サイトのストレージシステムよりも先にオフにする必要があります。正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムの電源をオンに戻す場合は、副サイトのストレージシステムの電源を正サイトのストレージシステムよりも先にオンに戻す必要があります。

正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムの電源を同時にオフにする流れを次に示します。

操作手順

1. 正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムの停止によって影響を受けるデータボリュームペアを分割します。

たとえば、2つの正サイトのストレージシステムと1つの副サイトのストレージシステムが接続している場合に、1つの正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムの電源をオフにするときは、残りの正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムの間に定義されているデータボリュームペアは電源オフの影響を受けるため、分割する必要があります。

2. ペアの分割後に、正サイトのストレージシステムでそれらの状態が **PSUS** であることを確認してください。
3. 正サイトのストレージシステムの電源をオフにしてください。
4. 副サイトのストレージシステムの電源をオフにしてください。
5. 副サイトのストレージシステムの電源をオンにしてください。
6. 副サイトのストレージシステムがリモートコピーを再開する準備が整ったら、正サイトのストレージシステムの電源をオンにしてください。

注意

正サイトのストレージシステムの電源をオンにして、**Ready** ランプが点灯してから 5 分以内にペア操作を実行すると、エラーが発生するおそれがあります。また、**Ready** ランプが点灯してから 5 分以内に **PAIR** 状態のプライマリボリュームに対する書き込み I/O を受け付けると、ペアの状態が障害サスペンドになるおそれがあります。

7. 正サイトのストレージシステムでリモートコピーを再開する準備ができれば、分割したデータボリュームペアを正サイトのストレージシステムで再同期します。データボリュームペアの状態が **COPY** または **PAIR** になっていることを確認してください。

正サイトのストレージシステムおよび副サイトのストレージシステムの電源を同時にオフまたはオンにした後、正サイトのストレージシステムのペア状態が **PSUS** で副サイトのストレージシステムのペア状態が **PAIR** の場合、副サイトからストレージシステムのペアをサスペンドさせてください。正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムのデータボリュームペアが **PSUS** であると確認したあと、正サイトのストレージシステムでペアを再同期してください。

注意

すべてのデータボリュームペアの状態を **PSUS** に変更しないで電源をオフにした場合、電源をオンにしたときにすべてのデータボリュームペアの状態が障害サスペンドになるおそれがあります。

8.5.5 ネットワークデバイスを停止する

コピー操作中のネットワーク中継機器の電源をオフにする流れを説明します。

操作手順

1. 正サイトですべてのペアとミラーを分割し、すべてのペアの状態が **PSUS** であることを確認してください。
2. ネットワーク中継機器の電源を切ります。
3. 準備が整ったら、ネットワーク中継機器の電源をオンにします。
4. ネットワーク中継機器がコピー操作の準備を整えたら、正サイトから分割されていたペアを再同期してください。
5. ペア状態が **COPY** または **PAIR** であることを確認してください。

第9章 災害リカバリ

この章では、Asynchronous Replication を使った災害リカバリについて説明します。

9.1 災害リカバリのための準備

災害リカバリのために必要な準備作業は、次のとおりです。

1. 業務を遂行するために不可欠なファイルやデータを、ホストが正サイトのどのボリュームに格納しているのかを識別します。
2. Asynchronous Replication を使って、手順1で識別した正サイトにあるボリュームを副サイトにコピーします。
3. ファイルおよびデータベースのリカバリ手順を策定します。
ファイルおよびデータベースのリカバリ手順は、正サイトのボリュームが災害や障害でアクセスできなくなった場合に備えて、事前に定めておく必要があります。
4. 正サイトと副サイトの間で相互に業務を切り替えられるように、正サイトと副サイトの両方にホストフェールオーバーソフトウェアをインストールして設定します。

9.2 ファイルおよびデータベースのリカバリ

Asynchronous Replication は、ジャーナルボリュームを使って非同期にデータをコピーします。正サイトでの災害または障害の発生によって Asynchronous Replication ペアを分割するとき、正サイトのジャーナルボリュームにある更新データが消失している場合、Asynchronous Replication はセカンダリボリュームをプライマリボリュームに一致させることができないおそれがあります。このような場合に、ファイルおよびデータベースのリカバリを実行する必要があります。この手順は、コントロールユニットの障害によってアクセス不能となったデータボリュームを回復する手順と同じです。Asynchronous Replication は、消失した更新データを検出したり検索したりするための手段は提供しません。消失した更新データを検出して回復するには、障害が発生したときに正サイトに保存されていたほかの情報（たとえば、最新であることが確認されたデータベースログファイルなど）を使用する必要があります。

データの検出および検索には時間がかかるため、副サイトでアプリケーションが起動してから消失データの検出および検索が実行されるように、災害リカバリを計画する必要があります。

リモートコピーおよび災害リカバリ手順は複雑です。リカバリ手順については、お問い合わせ先にご相談ください。

—— 関連リンク ——

参照先トピック

[お問い合わせ先 \(150 ページ\)](#)

9.3 副サイトへの業務の切り替え

正サイトで災害または障害が発生した場合、副サイトに業務を切り替えます。Asynchronous Replication ペアに対して horctakeover コマンドを実行すると、副サイトのセカンダリボリュームを利用して業務を引き継ぎます。horctakeover コマンドはセカンダリボリュームのペア状態をチェックしたあと、Asynchronous Replication ペアが含まれるジャーナルに対してペアを分割します。これによってセカンダリボリュームが整合性を保持した状態で使用可能になります。続けて、horctakeover コマンドはプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替えることができるかどうか、ペアの再同期を試みます。

注意

Asynchronous Replication ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、Asynchronous Replication ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

horctakeover コマンドが成功すると、セカンダリボリュームを使って副サイトで業務を再開（アプリケーション開始）できます。

9.4 副サイトから正サイトへデータをコピーする流れ

災害リカバリが完了し、アプリケーションが副サイトで動作を開始したら、副サイトから正サイトへデータがコピーされ、副サイトのデータが整合性を保持して正サイトに反映されるようにする必要があります。コピー方向を反転する基本的な流れを次に示します。

操作手順

1. 正サイトのストレージシステムおよびリモートコピー接続を回復します。
2. 正サイトで、ホストを起動します。
3. すべてのコンポーネントが完全に操作できることを確認します。
4. ペア状態が COPY または PAIR である正サイトのプライマリボリュームに対して、対応するセカンダリボリュームのペア状態が SSWS であるペアがないことを確認します。セカンダリボリュームが SSWS 状態になっているペアがあれば、プライマリボリュームにペアの分割を指示します。

5. ペア状態は関係なく **Asynchronous Replication** ペアが組まれた状態である正サイトのプライマリボリュームに対して、対応するセカンダリボリュームのペア状態が **SMPL** であるペアがないことを確認します。セカンダリボリュームが **SMPL** 状態になっているペアがあれば、プライマリボリュームにペアの削除を指示します。
6. 正サイトのプライマリボリュームが **SMPL** 状態となっている **Asynchronous Replication** ペアがないことを確認します。プライマリボリュームが **SMPL** 状態になっているペアがあれば、セカンダリボリュームにペアの削除を指示します。
7. **SSWS** 状態であるセカンダリボリュームに対して **RAID Manager** のペア再同期コマンドを、スワップオプションを指定して指示します (**pairresync -swaps**)。

ストレージシステムはプライマリボリュームとセカンダリボリュームを入れ替えてペアを回復し、再同期します。

注意

Asynchronous Replication ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、**Asynchronous Replication** ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および **horctakeover** 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

メモ

スワップオプション (**-swaps**) を指定してペア再同期コマンド (**pairresync**) を実行するときには、**-d** オプションを利用してデータボリュームを指定できます。ただし、そのデータボリュームが属するリストアジャーナルが **Active** 状態、**Halting** 状態または **Stopping** 状態のときには、ペア再同期コマンド (**pairresync**) が拒否されます。

8. **SMPL** 状態であるセカンダリボリュームをプライマリボリュームに指定して、ペア生成を指示します。

ストレージシステムはプライマリボリュームとセカンダリボリュームが反転したペアを作成します。

注意

Asynchronous Replication ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、**Asynchronous Replication** ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および **horctakeover** 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

9. すべてのセカンダリボリューム（元のプライマリボリューム）のペア状態が **COPY** から **PAIR** に遷移することを確認します。

Asynchronous Replication の形成コピーが完了し、副サイトのデータが整合性を保持して正サイトに反映されます。

—— 関連リンク ——

参照先トピック

[ハードウェアおよびソフトウェアのコンポーネント \(15 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication ペア状態の定義 \(75 ページ\)](#)

9.5 正サイトで通常の操作を再開する流れ

副サイトから正サイトへの Asynchronous Replication ペアが作成され、すべてのセカンダリボリューム（元のプライマリボリューム）のペア状態が PAIR に遷移したら、正サイトでの通常操作の再開手順を実行できます。正サイトで通常操作を再開する流れを次に示します。プライマリボリュームとセカンダリボリュームの呼び方が変わることにご注意してください。

操作手順

1. 正サイトおよび副サイトで、すべてのコンポーネントが使用できる状態で、障害がないことを確認してください。
2. 対象となるすべてのペアで、プライマリボリュームおよびセカンダリボリュームのペア状態がともに PAIR であることを確認します。

これは Asynchronous Replication の形成コピーが完了して整合性が保持されていることを示します。

3. 副サイトのアプリケーションを停止します。
4. マスタジャーナル（元のリストアジャーナル）に対して、フラッシュモードのペア分割を指示します（-P オプションを指定せずに `pairsplit` コマンドを実行します）。

ペア分割の指示に対してエラーが報告された場合、副サイトで業務を再開（アプリケーション開始）したあと、障害要因を取り除いて手順 1 に戻ります。

5. エラーが発生しなかった場合は、ペア分割の完了を待ちます。ペア分割が完了したら、セカンダリボリューム（元のプライマリボリューム）のペア状態が PSUS 以外であるペアがないことを確認します。

セカンダリボリューム（元のプライマリボリューム）のペア状態が PSUS 以外のペアがある場合、副サイトで業務を再開（アプリケーション開始）したあと、障害要因を取り除いて手順 1 に戻ります。

6. セカンダリボリューム（元のプライマリボリューム）のペア状態が PSUS 以外であるペアがなかった場合は、プライマリボリュームおよびセカンダリボリュームの内容が整合性を保持して一致し、セカンダリボリューム（元のプライマリボリューム）が使用可能になります。正サイトでアプリケーションを開始します。
7. ペア再同期コマンドを、スワップオプションを指定して実行します（`pairresync -swaps`）。

⚠ 注意

Asynchronous Replication ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、Asynchronous Replication ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。

このコマンドを実行すると、ストレージシステムはプライマリボリュームとセカンダリボリュームを元に戻すペアの回復と再同期を実行し、これ以降、データは正サイトから副サイトへコピーされるようになります。

メモ

スワップオプション (-swaps) を指定してペア再同期コマンド (pairresync) を実行するときには、-d オプションを利用してデータボリュームを指定できます。ただし、そのデータボリュームの属するリストアジャーナルが Active 状態、Halting 状態、または Stopping 状態のときには、ペア再同期コマンド (pairresync) が拒否されます。

関連リンク

参照先トピック

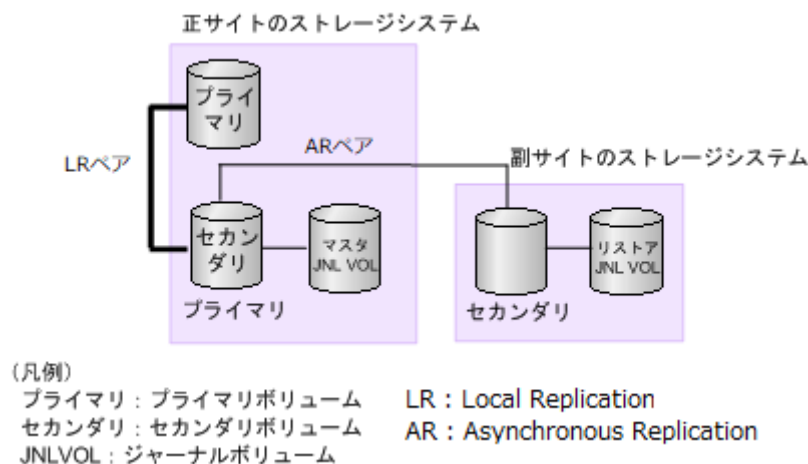
[ハードウェアおよびソフトウェアのコンポーネント \(15 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication ペア状態の定義 \(75 ページ\)](#)

9.6 Local Replication を組み合わせた構成での災害リカバリ

Asynchronous Replication と Local Replication を組み合わせた構成で災害リカバリする手順について説明します。

Asynchronous Replication を使って、Local Replication ペアのセカンダリボリュームをリモートバックアップする構成です。PSUS 状態の Local Replication ペアのセカンダリボリュームを、Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームとして利用します。

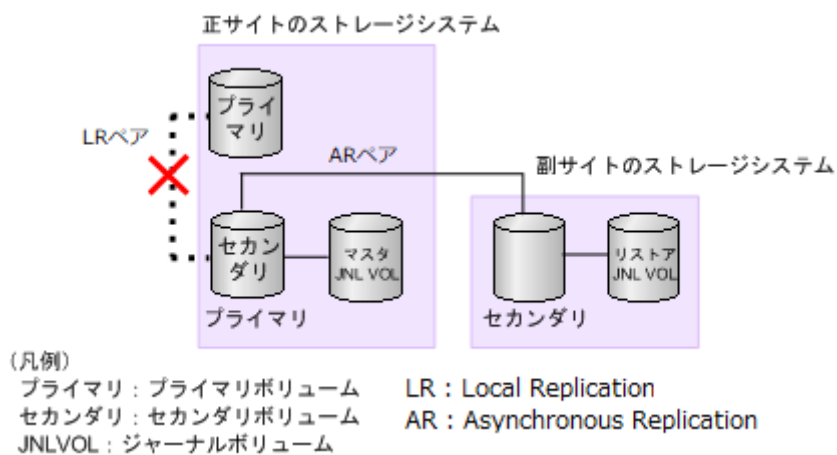


- Local Replication ペアのプライマリボリュームは PSUS 状態です。
- Local Replication ペアのセカンダリボリュームは PSUS 状態です。

災害または障害の発生によって Local Replication ペアのプライマリボリュームが破損してしまった場合、Local Replication ペアのプライマリボリュームをリカバリするため、次の流れに従って Asynchronous Replication ペアのセカンダリボリュームから Local Replication ペアのプライマリボリュームにデータをコピーできます。

操作手順

1. Local Replication ペアに対して pairsplit -S コマンドを実行し、ペアを削除します。

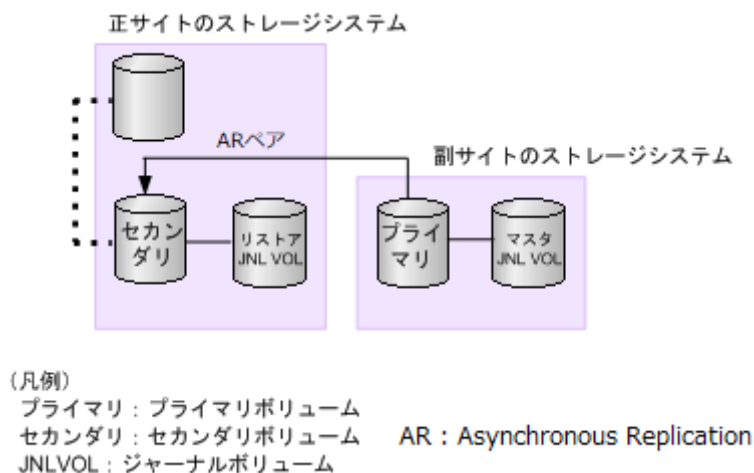


- Local Replication ペアは、プライマリボリュームとセカンダリボリュームがどちらも PSUS 状態です。
2. Asynchronous Replication ペアに対して horctakeover コマンドを実行し、コピー方向を逆転させてペアを再作成します。

⚠ 注意

Asynchronous Replication ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、Asynchronous Replication ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および horctakeover

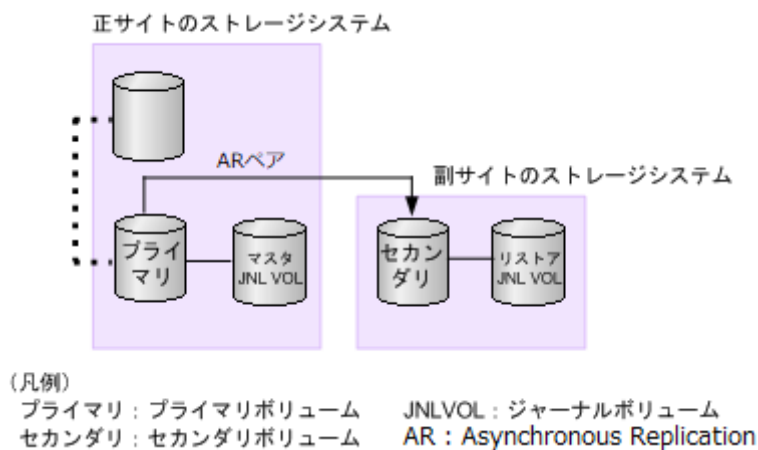
操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。



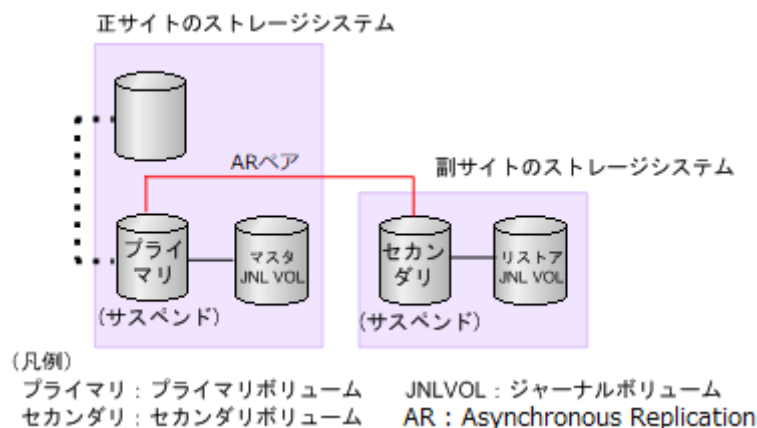
- Asynchronous Replication ペアに対して `horctakeover` コマンドを実行し、コピー方向を元に戻してペアを再作成します。

⚠ 注意

Asynchronous Replication ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、Asynchronous Replication ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および `horctakeover` 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。



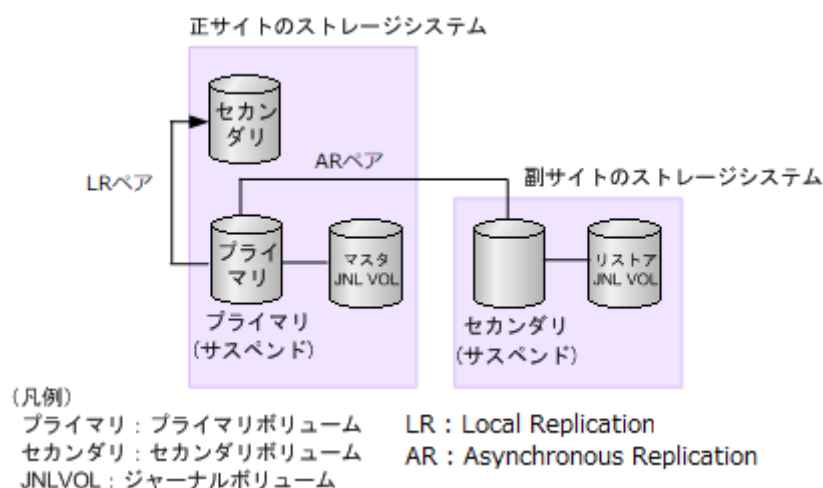
- Asynchronous Replication ペアに対して `pairsplit -S` コマンドを実行し、ペアを削除します。



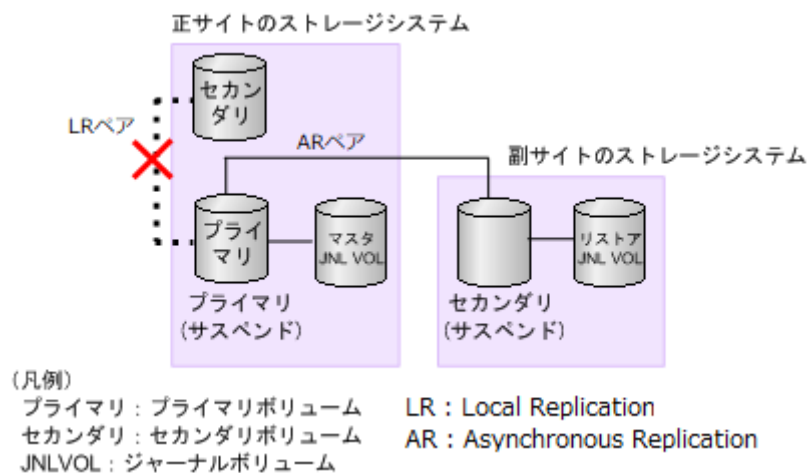
5. Local Replication ペアに対して `paircreate` コマンドを実行し、逆方向でコピーします。

⚠ 注意

Local Replication ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、Local Replication ペアの作成、再同期、およびスワップリシンク操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。



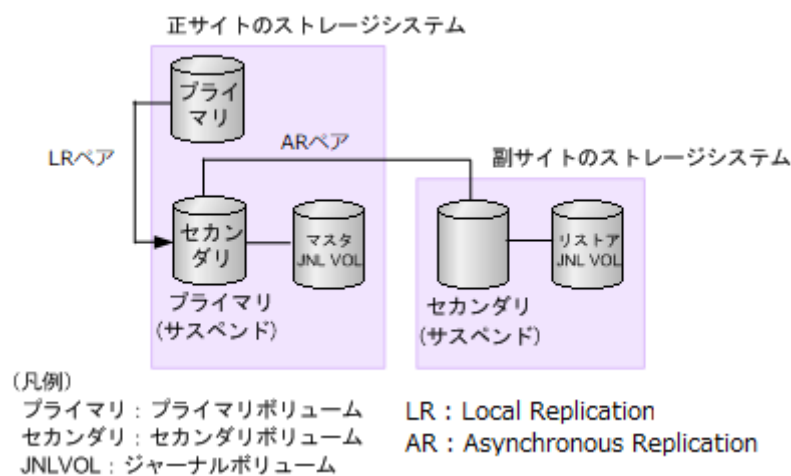
6. Local Replication ペアに対して `pairsplit -S` コマンドを実行し、ペアを削除します。



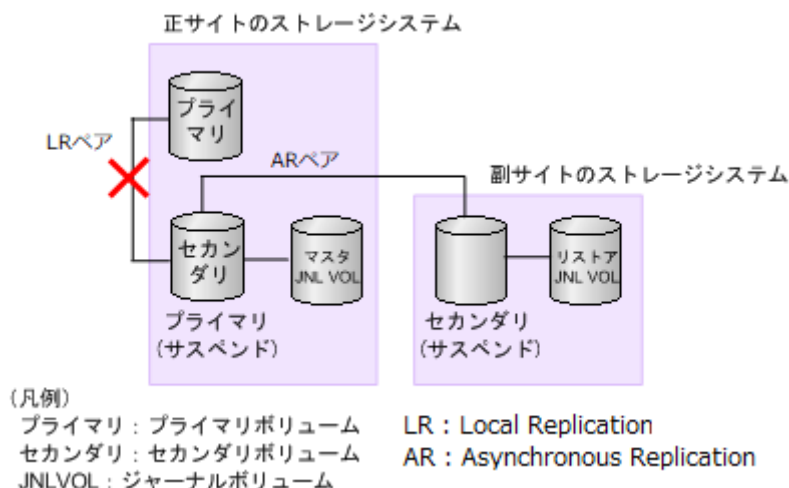
7. Local Replication ペアに対して paircreate コマンドを実行し、元の方向でコピーします。

⚠ 注意

Local Replication ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、Local Replication ペアの作成、再同期、およびスワップリシンク操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。



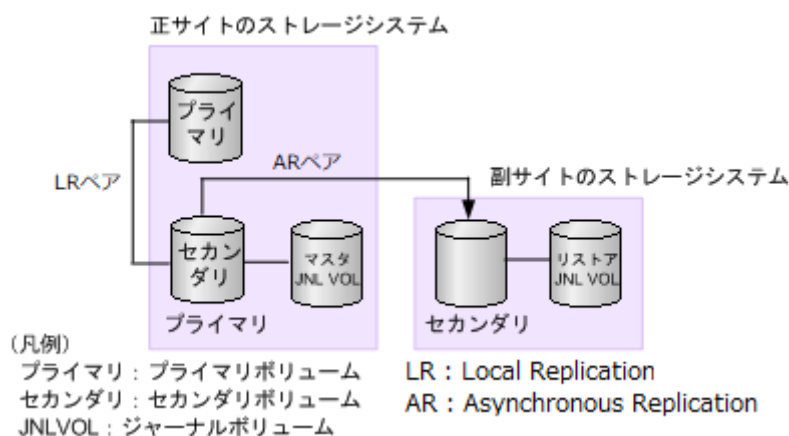
8. Local Replication ペアに対して pairsplit コマンドを実行し、ペアを PSUS 状態にします。



- Local Replication ペアは、プライマリボリュームとセカンダリボリュームがどちらも PSUS 状態です。
9. Asynchronous Replication ペアに対して `paircreate` コマンドを実行し、ペアを作成します。

⚠ 注意

Asynchronous Replication ペアの片方のボリュームの容量拡張が成功した後に障害が発生した場合、Asynchronous Replication ペアの作成、再同期、スワップリシンク、および `horctakeover` 操作は、容量不一致により失敗します。もう片方のボリュームの容量を拡張して、両方のボリュームの容量を一致させてから、この操作を実施してください。



- Local Replication ペアは、プライマリボリュームとセカンダリボリュームがどちらも PSUS 状態です。

第 10 章

Asynchronous Replication のトラブルシューティング

この章では、次の内容のトラブルシューティング情報について説明します。

10.1 Asynchronous Replication のトラブルシューティング概要

一般的なトラブルシューティングには次のものがあります。

- Asynchronous Replication のサービス情報メッセージ (SIM)
- Asynchronous Replication の一般的なトラブルシューティング
- Asynchronous Replication のリモートパスのトラブルシューティング
- サスペンドの種類に応じた Asynchronous Replication のペアのトラブルシューティング

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication のサービス情報メッセージ \(SIM\) \(127 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication の一般的なトラブルシューティング \(130 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication のリモートパスのトラブルシューティング \(132 ページ\)](#)

[サスペンドの種類に応じた Asynchronous Replication のペアのトラブルシューティング \(133 ページ\)](#)

10.1.1 Asynchronous Replication のサービス情報メッセージ (SIM)

ストレージシステムの保守が必要になると、SIM というメッセージが生成されます。SIM は、ストレージシステムのチャネル、パス、およびマイクロプロセッサなどによって生成されます。

すべての SIM は、ストレージシステムに記録されます。SIM が生成されると、そのたびにストレージシステム前面の操作パネル上にある黄色の Message LED (Ready および Alarm の LED の下にあります) が点灯して、ユーザに通知します。

SIM は、Maintenance Utility で確認できます。

- 正サイトのストレージシステムが生成する SIM にはプライマリボリュームのデバイス ID (バイト 13) が含まれます。
- 副サイトのストレージシステムが生成する SIM にはセカンダリボリュームのデバイス ID (バイト 13) が含まれます。

SIM 報告についての詳細情報は、お問い合わせください。

ストレージシステム用に SNMP がインストールされている場合、各 SIM は SNMP トラップを引き起こし、該当するホストに送信されます。SNMP 操作の詳細については、『SNMP Agent ユーザガイド』を参照するか、またはお問い合わせください。

ペアが分割またはサスペンドされたとき、正サイトのストレージシステムはホストに SIM を通知します。SNMP がインストールされていてストレージシステムで使用されている場合、SIM は SNMP トラップを引き起こして、サスペンドの理由として表示されます。

SIM のリファレンスコードについては、『SIM リファレンス』を参照してください。

—— 関連リンク ——

参照先トピック

[SIM の参照コード、種別、および説明 \(128 ページ\)](#)

10.1.1.1 SIM の参照コード、種別、および説明

参照コード			重大度レベル	説明	生成元	ログファイル
バイト 22	バイト 23	バイト 13				
21	80	xx	Moderate	障害のためリモートパスが閉塞した。	正サイトのストレージシステム/副サイトのストレージシステム	SIM Log
dc	0x	yy	Serious	プライマリボリュームが使用しているボリュームがサスペンドされた。パスを回復できない。	正サイトのストレージシステム	SIM Log
dc	1x	yy	Serious	プライマリボリュームが使用しているボリュームがサスペンドされた。正サイトのストレージシステムで障害が検出された。	正サイトのストレージシステム	SIM Log
dc	2x	yy	Serious	プライマリボリュームが使用しているボリュームがサスペンドされた。副サイトのストレージシステムで障害が検出された。	正サイトのストレージシステム	SIM Log
dc	4x	yy	Serious	プライマリボリュームが使用しているボリュームがサスペンドされた。副サイトのストレージシステムでボリュームのペアがサスペンドされた。	正サイトのストレージシステム	SIM Log
dc	5x	yy	Serious	プライマリボリュームが使用しているボリュームがサスペンドされた。副サイトのストレージシステムでボリュームのペアが削除された。	正サイトのストレージシステム	SIM Log
dc	6x	yy	Serious	セカンダリボリュームが使用しているボリュームがサスペンドされた。パスを回復できない。	正サイトのストレージシステム	SIM Log

参照コード			重大度レベル	説明	生成元	ログファイル
バイト 22	バイト 23	バイト 13				
dc	7x	yy	Serious	セカンダリボリュームが使用しているボリュームがサスペンドされた。 副サイトのストレージシステムで障害が検出された。	副サイトのストレージシステム	SIM Log
dc	ax	yy	Serious	別の正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムで障害が検出された。	正サイトのストレージシステム	SIM Log
dc	f1	xx	Serious	AR Read JNL 5 分途絶 (MCU 側障害検出)	副サイトのストレージシステム	SIM Log
dc	f3	xx	Serious	AR Read JNL 5 分途絶 (RCU 側障害検出)	副サイトのストレージシステム	SIM Log

次に示す SIM は、直ちに対処する必要はありませんが、対処を必要とするおそれがあります。

参照コード			重大度レベル	説明	生成元
バイト 22	バイト 23	バイト 13			
dc	e0	xx	Moderate	AR M-JNL Meta 満杯ワーニング※	正サイトのストレージシステム
dc	e1	xx	Moderate	AR M-JNL Data 満杯ワーニング※	正サイトのストレージシステム
dc	e2	xx	Moderate	AR R-JNL Meta 満杯ワーニング	副サイトのストレージシステム
dc	e3	xx	Moderate	AR R-JNL Data 満杯ワーニング	副サイトのストレージシステム
dc	f0	xx	Moderate	AR Read JNL 1 分途絶 (MCU 側障害検出)	副サイトのストレージシステム
dc	f2	xx	Moderate	AR Read JNL 1 分途絶 (RCU 側障害検出)	副サイトのストレージシステム

注※

ジャーナルオプションのジャーナルボリューム流入制御が有効な場合、ホストからの I/O レスポンスが低下し業務に影響が出るおそれがあるため、直ちに対応を行ってください。

次に示す SIM は、状態変更によって出力される SIM であり、エラーが発生して出力される SIM ではありません。

参照コード			重大度レベル	説明	生成元
バイト 22	バイト 23	バイト 13			
21	81	xx	Service	リモートコピー論理パス回復	正サイトのストレージシステム 副サイトのストレージシステム

参照コード			重大度レベル	説明	生成元
バイト 22	バイト 23	バイト 13			
d8	0x	yy	Service	AR にて使用するボリュームが定義された	正サイトのストレージシステム 副サイトのストレージシステム
d8	1x	yy	Service	AR にて使用中のボリュームがコピーを開始	正サイトのストレージシステム 副サイトのストレージシステム
d8	2x	yy	Service	AR にて使用中のボリュームがコピーを完了	正サイトのストレージシステム 副サイトのストレージシステム
d8	3x	yy	Service	AR にて使用中のボリュームがサスペンド要求を受領	正サイトのストレージシステム 副サイトのストレージシステム
d8	4x	yy	Service	AR にて使用中のボリュームがサスペンド処理を完了	正サイトのストレージシステム 副サイトのストレージシステム
d8	5x	yy	Service	AR にて使用中のボリュームが削除要求を受領	正サイトのストレージシステム 副サイトのストレージシステム
d8	6x	yy	Service	AR にて使用中のボリュームが削除処理を完了	正サイトのストレージシステム 副サイトのストレージシステム
d8	7x	yy	Service	AR にて使用するボリュームが定義された(即 PSUS)	正サイトのストレージシステム 副サイトのストレージシステム
d9	zx	yy	Service	MCU 側から S-VOL への状態変更を受領	副サイトのストレージシステム
da	zx	yy	Service	RCU 側から S-VOL への状態変更を受領	副サイトのストレージシステム
dc	8x	yy	Service	S-VOL にて使用中のボリュームがサスペンド(MCU 側の P/S OFF 検出)	副サイトのストレージシステム

10.1.2 Asynchronous Replication の一般的なトラブルシューティング

エラー	修正処置
Asynchronous Replication 操作が正しく機能しない。	正サイトのストレージシステム、副サイトのストレージシステム、およびネットワーク中継機器に電源がオンで、

エラー	修正処置
	NVS とキャッシュが利用可能な状態になっているかどうかを確認します。 入力したすべての値とパラメータをチェックして、正しい情報（副サイトのストレージシステムのシリアル番号、パスパラメータ、プライマリボリュームやセカンダリボリュームの ID など）を入力したか確認します。
ストレージシステムのコントロールパネル上にある、イニシエータのチャンネル使用可 LED インジケータが消灯、または点滅している。	10.3 お問い合わせ先 (150 ページ) の問い合わせ先に連絡してください。
ボリュームペアおよび（または）リモートパスの状態が正しく表示されない。	Asynchronous Replication の画面で、正しい項目が選択されているかどうか確認してください。
Asynchronous Replication エラーメッセージが管理ツールの操作端末に表示される。	エラーの原因を解決し、Asynchronous Replication 操作を再度実行してください。
リモートパスのパス状態が正常でない。	raidcom get rcu でパス状態を確認してください。 10.1.3 Asynchronous Replication のリモートパスのトラブルシューティング (132 ページ) を参照してください。
ペアがサスペンドされた。	pairedisplay コマンドでペア状態の詳細を確認してください。 10.1.4 サスペンドの種類に応じた Asynchronous Replication のペアのトラブルシューティング (133 ページ) を参照して、サスペンドされた Asynchronous Replication ペアのサスペンド種別を確認し、正しい修正措置を実施してください。
ペア作成またはペア再同期操作でタイムアウトエラーが発生した。	タイムアウトエラーは、ハードウェアの障害によって引き起こされ、SIM が生成されます。「 10.1.1.1 SIM の参照コード、種別、および説明 (128 ページ) 」を参照してください。必要に応じてお問い合わせ先にご連絡ください。問題が解決した後で、再度 Asynchronous Replication 操作を行ってください。 SIM が生成されない場合、5～6 分ほど待ってから作成または再同期したいペアの状態を確認してください。ペアの状態が正しく変わった場合は、タイムアウトエラーメッセージが表示された後に失敗した操作が完了したことを示します。ペアの状態が期待どおりに変わらなかった場合は、大きな作業負荷によって Asynchronous Replication 操作の完了が妨げられていることが考えられます。大きな作業負荷とは、具体的には次のどれかの状態を指します。 - 正サイトまたは副サイトのストレージシステムで、プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームが属する MP ユニット内のプロセッサの稼働率が 70%以上。 - 正サイトまたは副サイトのストレージシステムで、ジャーナル使用率が 100%付近。 この場合、上記の状態を解消してから、Asynchronous Replication 操作を再度実行してください。
ペア作成またはペア再同期操作が失敗した。	正サイトまたは副サイトのストレージシステムでコントローラボードが閉塞しているかを確認してください。閉塞されたコントローラボードを回復させてから、再度操作してください。
ペア作成またはペア再同期操作をしたが、次の状態から変化しない。 ペア状態が COPY のまま	ハードウェア障害が発生した場合は、SIM が生成されます。10.3 お問い合わせ先 (150 ページ) に示す問い合わせ先に連絡してください。問題解決後に以下を実施してください。

エラー	修正処置
ペアの一致率が 0%のまま	- paircreate コマンドを -nocopy オプションまたは -nocsus オプションを指定しないで実行して、DP-VOL 同士でペアを作成している際に左記のエラーが発生した場合： ペアを削除してから、ペアを作成し直してください。 - 上記以外の場合： ペアをサスペンドしてから、再同期してください。 • 大きな作業負荷：ハードウェア障害が発生していない場合は、ストレージシステムの作業負荷が比較的少ないときに、Asynchronous Replication 操作を再実行してください。 ハードウェア障害（SIM 生成）が発生しておらず、負荷も低い状態であるにも関わらず、状態の変化がない場合は、10.3 お問い合わせ先（150 ページ） に示すお問い合わせ先に連絡してください。
ジャーナルにジャーナルボリュームが登録されていない状態になる。	ジャーナル削除中に処理が中断されたおそれがあります。削除したジャーナルで使用していたジャーナルボリュームを同じジャーナルに再登録した後、ジャーナルを削除してください。
ペア操作後に Suspending、Deleting 状態のままとなり、Asynchronous Replication ペアが削除できない。	「6.9 ミラーを削除する（72 ページ）」 を参照し、「削除モード」で「強制」を選択して削除してください。
ジャーナルボリュームが属するプールまたはプールボリュームのドライブ障害が発生、またはジャーナルボリュームに PIN データが発生した。	ドライブ障害を回復させる、または 「8.2.5.2 リザーブジャーナルボリュームを使って Asynchronous Replication ペアを復旧する（91 ページ）」 を参照し、ジャーナルボリュームを交換してください。
MJNL 側で満杯ワーニングを示す SIM(dec0,dec1)が生成された。	ジャーナルオプションのジャーナルボリューム流入制御が有効な場合、ホストからの I/O のレスポンスが低下し業務への影響が出るおそれがあります。 ペアをサスペンドしてください。その後ジャーナルがたまる原因を取り除いた後、ペアを再同期してください。
副サイトでのジャーナルリストアが停止状態となり、ジャーナルデータの使用率が増加し続ける。また、ホストからの I/O 停止、またはペアのサスペンドを実行しても使用率が低下しない。	Asynchronous Replication ペアのセカンダリボリュームと Snapshot Advanced ペアのプライマリボリュームが連携している状態で、Snapshot Advanced のコンシステンシーグループ指定ペア分割機能を使用している場合、Asynchronous Replication と Snapshot Advanced の構成が影響している可能性があります。詳細は、『 Snapshot Advanced ユーザガイド 』を参照してください。

10.1.3 Asynchronous Replication のリモートパスのトラブルシューティング

リモートパスの状態が正常以外のときは、ローカルストレージシステムとリモートストレージシステムを接続するポートやネットワーク中継機器の故障など、ネットワーク上でハードウェア障害が発生している可能性があります。ハードウェア障害がある場合は、ハードウェア障害を解決したうえで、リモートパスに対して修正処置を実施してください。リモートパスの状態と状態の説明および修正処置については、『[Synchronous Replication ユーザガイド](#)』を参照してください。

10.1.4 サスペンドの種類に応じた Asynchronous Replication のペアのトラブルシューティング

pairdisplay コマンドに-fe オプションを指定して実行すると、サスペンドの種類が表示されます。

サスペンドの種類	ペア位置	説明	修正処置
PSUE, by RCU	プライマリボリューム	正サイトのストレージシステムは、副サイトのストレージシステムでのエラー状態を検出したために、ペアをサスペンドした。セカンダリボリュームの PSUE タイプは by MCU です。	副サイトのストレージシステムまたはセカンダリボリュームでエラー状態をクリアしてください。セカンダリボリュームにアクセスする必要がある場合は、副サイトのストレージシステムからそのペアを削除してください。セカンダリボリュームのデータが変更されていた場合は、そのペアを正サイトのストレージシステムから削除してから (paircreate コマンドで) 再びそのペアを作成してください。変更されていない場合は、そのペアを正サイトのストレージシステムから再同期してください。
PSUE, Secondary Volume Failure	プライマリボリューム	正サイトのストレージシステムは副サイトのストレージシステムとの通信中にエラーを、または更新コピー中に I/O エラーを検出した。この場合、セカンダリボリュームの PSUE タイプは、通常は by MCU です。	パスの状態をチェックしてください (「 10.1.3 Asynchronous Replication のリモートパスのトラブルシューティング (132 ページ) 」参照)。 副サイトのストレージシステムとセカンダリボリュームですべてのエラー状態をクリアしてください。セカンダリボリュームにアクセスする必要がある場合は、そのペアを副サイトのストレージシステムから削除してください。セカンダリボリューム上のデータが変更されていたら、そのペアを正サイトのストレージシステムから削除し、再びそのペアを (paircreate コマンドで) 作成してください。変更されていない場合は、正サイトのストレージシステムからそのペアを再同期してください。
PSUE, MCU IMPL	プライマリボリューム セカンダリボリューム	正サイトのストレージシステムは IMPL 手順中、その不揮発メモリ内に有効な制御情報を見つけることができませんでした。このエラーは、48 時間以上にわたって正サイトのストレージシステムへの電力供給が断たれた場合 (つまり電源エラーでバッテリーが完全に放電した場合) にだけ発生します。	そのペアを正サイトのストレージシステムから再同期してください。ペア再同期操作が行われると、正サイトのストレージシステムは形成コピーを実行してプライマリボリューム全体をセカンダリボリュームにコピーします。
PSUE, Initial Copy Failed	プライマリボリューム、 セカンダリボリューム	形成コピー処理中に正サイトのストレージシステムはこのペアをサスペンドしました。セカンダリボリュームのデータはプライマリボリュームのデータと同期していません。 または、形成コピー処理中に、正サイトのストレージシステムでコント	正サイトのストレージシステムからそのペアを削除してください。正サイトのストレージシステム、プライマリボリューム、副サイトのストレージシステム、およびセカンダリボリュームですべてのエラー状態をクリアしてください。

サスペンドの種類	ペア位置	説明	修正処置
		ローラボードの保守またはシェアドメモリの増設および減設を実施しました。	<code>paircreate</code> コマンドで、形成コピーの処理を再開してください。 または、コントローラボードが閉塞されているかを確認してください。閉塞されている場合は、閉塞したコントローラボードを回復させてから、再操作してください。
PSUE, MCU P/S-OFF	セカンダリボリューム	正サイトのストレージシステムの電源オフが原因で、正サイトのストレージシステムはすべての Asynchronous Replication ペアをサスペンドしました。	なし。正サイトのストレージシステムの電源がオンになると正サイトのストレージシステムは自動的に Asynchronous Replication ペアを再同期します。

関連リンク

参照先トピック

[SIM の種類に応じた Asynchronous Replication ペアがサスペンドする原因とその復旧手順 \(134 ページ\)](#)

10.1.4.1 SIM の種類に応じた Asynchronous Replication ペアがサスペンドする原因とその復旧手順

正サイトのストレージシステムまたは副サイトのストレージシステムのキャッシュメモリおよびシェアドメモリに影響を与えるハードウェア障害は、Asynchronous Replication ペアをサスペンドする原因になることがあります。

SIM	分類	サスペンドの原因	復旧手順
dc0x dc1x dc2x	正サイトのストレージシステムまたは副サイトのストレージシステムのハードウェア	何らかの閉塞が原因でハードウェアの冗長性が失われています。その結果、正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステム間の通信、ジャーナルの作成、コピー、リストア、ステージングまたはデステージングが実行できませんでした。 キャッシュメモリまたはシェアドメモリの一部がハードウェア障害によってブロックされているために、保留中のジャーナルを保持できませんでした。 復旧できないハードウェア障害のため、正サイトのストレージシステムでのジャーナルの作成と転送に失敗しました。 復旧できないハードウェア障害のため、副サイトのストレージシステムでのジャーナルの受領とリストアに失敗しました。 Asynchronous Replication ペアが COPY 状態の間、ドライブパリティ	SIM に応じて、ハードウェア閉塞または障害を取り除いてください。 失敗したペアを再同期してください (<code>pairresync</code>)。 <code>horctakeover</code> コマンドの実行中に障害が発生した場合、マスタジャーナル内にペア状態が SSWS のセカンダリボリュームが残ることがあります。これらのボリュームが残っている場合は、ペア状態が SSWS であるセカンダリボリュームに対して、RAID Manager のペア再同期コマンドにスワップオプションを指定して実行します (<code>pairresync -swaps</code>)。この操作によって、マスタジャーナル内のすべてのボリュームをプライマリボリュームにします。このあと、データボリュームペアを再同期してください (<code>pairresync</code>)。

SIM	分類	サスペンドの原因	復旧手順
		グループが correction-access 状態でした。	
dc0x dc1x	正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステム間の通信	副サイトのストレージシステムまたはネットワーク中継機器が動作していなかったために、ストレージシステム間の通信ができませんでした。 ジャーナルボリューム満杯状態がタイムアウト時間を超えて継続しました。	正サイトのストレージシステムおよび副サイトのストレージシステム、またはネットワーク中継機器の障害を取り除いてください。 必要なパフォーマンスリソースを再検討し、必要に応じてリソース（正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステム間のパスの数、ジャーナルボリューム用のパリティグループなど）を増やしてください。 失敗したペアを再同期してください。
dc2x	RIO の過負荷 または RIO 障害	ストレージシステムまたはネットワーク中継機器に過大な負荷が掛かっているため、復旧できない RIO（リモート I/O）タイムアウトが発生しました。または、ストレージシステムでの障害が原因で、RIO（リモート I/O）を完了できませんでした。	失敗したペアを削除してください（ pairsplit -S ）。 必要なパフォーマンスリソースを再検討し、必要に応じてリソース（正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステム間のパスの数、ジャーナルボリューム用のパリティグループなど）を増やしてください。 障害のあったペアを再確立してください（ paircreate ）。
dc8x	正サイトのストレージシステムへの電力供給の停止	正サイトのストレージシステムへの電力供給を停止したため、Asynchronous Replication ペアが一時的にサスペンドされました。	復旧は不要です。正サイトのストレージシステムは、電源がオンになると、サスペンドされたペアを自動的に元の状態に戻します。

10.2 RAID Manager 操作時の Asynchronous Replication のトラブルシューティング

RAID Manager を使用した Asynchronous Replication ペアの操作でエラーが発生した場合、RAID Manager の画面に出力されるログまたは RAID Manager の操作ログを参照してエラーの要因を特定できることがあります。

—— 関連リンク ——

参照先トピック

[ログファイルを利用したエラー要因の特定（135 ページ）](#)

[RAID Manager の画面に出力されるログでのエラー要因の特定（136 ページ）](#)

[RAID Manager 操作時のエラーコードと内容（137 ページ）](#)

10.2.1 ログファイルを利用したエラー要因の特定

RAID Manager の操作ログファイルは、デフォルトでは次のディレクトリに格納されます。

ログファイルの格納されているディレクトリ：/HORCM/log*/curlog/horcmlog_HOST/horcm.log

*：インスタンス番号

HOST：ホスト名

ログファイルを利用してエラーの要因を特定するには、次の手順に従います。

操作手順

1. RAID Manager のログファイルを開いて、エラーコードを探します。

例：11:06:03-37897-10413- SSB = 0xB901,4A96

右辺の等号 (=) の後ろの英数字がエラーコードを示します。コンマ (,) の左側の英数字の下 4 桁を SSB1 (例：B901)、右側の英数字を SSB2 とします (例：4A96)。

2. エラーコードの意味を確認します。

記載されていないエラーコードについては、お問い合わせください。

関連リンク

参照先トピック

[RAID Manager 操作時のエラーコードと内容 \(137 ページ\)](#)

[お問い合わせ先 \(150 ページ\)](#)

10.2.2 RAID Manager の画面に出力されるログでのエラー要因の特定

RAID Manager の画面に出力されるログでエラーの要因を特定するには、次の手順に従います。

操作手順

1. RAID Manager の画面に出力されたログを参照し、エラーコードを探します。

RAID Manager の画面に出力されたログの出力例を次に示します。

It was rejected due to SKEY=0x05, ASC=0x20, SSB=0xB9E1, 0xB901 on Serial#(64015)

SSB1 SSB2

「SSB=」の後ろの英数字がエラーコードを示します。コンマ (,) の左側の英数字の下 4 桁を SSB1 (例：B9E1)、右側の英数字の下 4 桁を SSB2 とします (例：B901)。

2. エラーコードの意味を確認します。

記載されていないエラーコードについては、お問い合わせください。

関連リンク

参照先トピック

[RAID Manager 操作時のエラーコードと内容 \(137 ページ\)](#)

[お問い合わせ先 \(150 ページ\)](#)

10.2.3 RAID Manager 操作時のエラーコードと内容

下記の表は RAID Manager 操作時のエラーコードと内容（SSB1 が 2E31/B901/B9E0/B9E1/B9E2/B9E4/D004）を表しています。

エラーコード (SSB2)	エラーの内容
3704	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したマスタジャーナルとリストアジャーナルのエミュレーションタイプが異なるため、コマンドを拒否しました。
370C	Asynchronous Replication ペアの作成要求または再同期要求を受領しましたが、指定したマスタジャーナルまたはリストアジャーナルが状態遷移できない状態であるか、または状態遷移中のためコマンドを拒否しました。
3722	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したボリュームが使用できないエミュレーションタイプのためコマンドを拒否しました。
3728	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、旧機種と接続しており、指定したボリュームがサポート範囲外のため、コマンドを拒否しました。
3729	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、正サイトのストレージシステムが未サポートの構成のため、Synchronous Replication と連携できません。
372B	副サイトのストレージシステムが複数の正サイトのストレージシステムおよび副サイトのストレージシステムの組み合わせをサポートしていないため、ペアを作成できません。
372C	プライマリボリュームは閉塞しているため、ボリュームにアクセスできません。 または、プライマリボリュームが属するプールに、正常な状態でないプールボリュームが含まれているため、ボリュームにアクセスできません。
372E	複数の正サイトのストレージシステムおよび副サイトのストレージシステムで構成されるシステム内でペアを作成または再同期する要求を受領しましたが、正サイトのストレージシステムが未サポートの構成のため、コマンドを拒否しました。
3738	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、正サイトのストレージシステムが未サポートの構成のため、コマンドを拒否しました。
373D	Asynchronous Replication ペアの作成に失敗しました。Asynchronous Replication ペアのセカンダリボリュームは次のすべての条件を満たしている必要があります。 • コンシステンシーグループが、複数のローカルストレージシステムとリモートストレージシステムに共有されていない。 • Volume Migration と連携しているボリュームではない。
373E	指定したセカンダリボリュームが属するジャーナル内の、別のミラーの状態が、「Initial」または、「Stopped」以外のため、Asynchronous Replication ペア操作が失敗しました。
3744	Asynchronous Replication ペアの作成に失敗しました。Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームは次のすべての条件を満たしている必要があります。 • コンシステンシーグループが、複数のローカルストレージシステムとリモートストレージシステムに共有されていない。 • Volume Migration と連携しているボリュームではない。

エラーコード (SSB2)	エラーの内容
3752	次の理由で、ペアが作成できません。 指定した副サイトのストレージシステムのファームウェアバージョンでは、正サイトのストレージシステムとの接続をサポートしていません。
3756	パスグループ ID に 0 以外を指定した状態で Asynchronous Replication ペアの作成要求を受領しましたが、副サイトのストレージシステムがパスグループ ID をサポートしていないため、ペアが作成できません。
375C	プライマリデータボリュームとして指定したボリュームは、仮想 LDEV ID が設定されていないため、ペアを作成できません。
375D	セカンダリデータボリュームとして指定したボリュームは、仮想 LDEV ID が設定されていないため、ペアを作成できません。
376A	指定したプライマリボリュームの内部処理に時間が掛かっています。しばらく時間をおいてから再度実行してください。
376B	次のどちらかの理由で差分ビットマップエリアを確保できないため、Asynchronous Replication ペアを作成または再同期できません。 - 正サイトのストレージシステムで、シェアドメモリの空き領域が不足している。 - プライマリボリュームとして指定したボリュームの、Dynamic Provisioning のプールの空き容量が不足している。
37AF	プライマリボリュームとして指定したボリュームがプールボリュームのため、ペアの形成に失敗しました。
37B2	プライマリボリュームとして指定したボリュームは、データダイレクトマップ属性が有効に設定された外部ボリュームであるため、ペアの形成に失敗しました。
37B3	プライマリボリュームとして指定したボリュームの属性が不当のため、ペアの形成に失敗しました。
37B6	プライマリボリュームとして指定したボリュームのデータダイレクトマップ属性が有効になっており、かつ R-DKC のファームウェアバージョンでは 4TB を超える容量の外部ボリュームをマッピングする機能がサポートされていないため、ペアの形成に失敗しました。
37B7	Asynchronous Replication ペアの操作に失敗しました。プライマリボリュームの T10 PI 属性の設定と、セカンダリボリュームの T10 PI 属性の設定が異なります。
37BE	Asynchronous Replication のプライマリボリュームとセカンダリボリュームについて、ホスト接続設定 (LUN パス) が異なっているため、ペア形成が失敗しました。
4BF0	リモート接続する際に iStorage V Series SDS を指定したが、パスグループ ID を指定しない、または 0 を指定したため、コマンドを拒否しました。
4BF1	リモート接続する際に iStorage V Series SDS を指定したが、iSCSI ポート以外のポートを指定したため、コマンドを拒否しました。
8C19	指定したコンシステンシーグループ ID がサポート範囲外のため、Asynchronous Replication ペアが作成できません。
8C1A	ジャーナル ID が正しくないため、Asynchronous Replication ペアが作成または再同期できません。
8C1B	指定したジャーナル ID がサポート範囲外のため、Asynchronous Replication ペアが作成できません。
8C1E	Asynchronous Replication ペアの作成要求を受領しましたが、次のどちらかの理由で、コマンドを拒否しました。 - 指定した正サイトのストレージシステムのファームウェアバージョンでは、指定した副サイトのストレージシステムとの接続をサポートしていません。 - 指定した正サイトのストレージシステムでは、指定した副サイトのストレージシステムとの接続をサポートしていません。

エラーコード (SSB2)	エラーの内容
8C1F	指定したセカンダリボリュームは仮想 ID が設定されていないため、Asynchronous Replication ペアが作成できません。
8C20	ジャーナル ID またはミラー ID が正しくないため、オプション更新コマンドを拒否しました。
8F00	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したボリュームは外部ボリュームのため、コマンドを拒否しました。
8F04	システム内部で論理エラーが発生し、コマンドを拒否しました。
8F10	指定されたプライマリボリュームが次のどれかに該当するため、Asynchronous Replication ペア操作は失敗しました。 - Local Replication のセカンダリボリュームで、PSUS 状態でない。 - Local Replication で使用中のボリュームで Reverse Copy 状態である。
8F11	Volume Migration によってプライマリボリュームを移動中のため、停止できません。このため、Asynchronous Replication ペアが作成できません。
8F17	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したボリュームがホストからオンラインになっているため、コマンドを拒否しました。
8F18	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したボリュームはほかのプログラムプロダクトのペアで使用されているため、コマンドを拒否しました。
8F19	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したボリュームが使用できないエミュレーションタイプのためコマンドを拒否しました。
8F1B	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したプライマリボリュームのペアが組まれている状態であるため、コマンドを拒否しました。
8F1C	Asynchronous Replication ペア再同期要求を受領しましたが、指定したプライマリボリュームが PSUS 状態でないため、コマンドを拒否しました。
8F1E	キャッシュまたはシェアドメモリの回復途中のため、Asynchronous Replication ペアが作成できません。
8F1F	キャッシュまたはシェアドメモリが閉塞中のため、Asynchronous Replication ペアが作成できません。
8F24	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、装置間のパスが形成されていないため、コマンドを拒否しました。
8F25	Asynchronous Replication ペア作成または再同期要求を受領しましたが、指定したボリュームに PIN があるため、コマンドを拒否しました。
8F28	Asynchronous Replication ペア作成または再同期要求を受領しましたが、指定したプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームにアクセスできないため、コマンドを拒否しました。
8F29	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したマスタジャーナルは使用できないため、コマンドを拒否しました。
8F2B	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したプライマリボリュームには Data Retention Utility の Protect 属性が設定されているため、コマンドを拒否しました。
8F33	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したボリュームは Local Replication のペアで使用されているため、コマンドを拒否しました。
8F35	Asynchronous Replication ペア作成または再同期要求を受領しましたが、指定したプライマリボリュームを構成する物理ボリュームが閉塞しているため、コマンドを拒否しました。

エラーコード (SSB2)	エラーの内容
8F38	次のオープンシステム用のプログラムプロダクトが設定されていないか、ライセンスの期限が切れていますので、確認してください。 • Synchronous Replication • Asynchronous Replication
8F39	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、Asynchronous Replication のプログラムプロダクトがインストールされていないため、コマンド拒否しました。
8F46	キャッシュ CL2 が異常な状態のため、Asynchronous Replication ペアが作成できません。
8F47	キャッシュ CL1 が異常な状態のため、Asynchronous Replication ペアが作成できません。
8F4D	次に示す要因のため、Asynchronous Replication ペアの作成または再同期ができません。 • 副サイトのストレージシステム側にジャーナルが登録されていない。 • 副サイトのストレージシステム側に登録されているジャーナル内のボリュームが閉塞している。
8F50	Asynchronous Replication ペア作成または再同期要求を受領しましたが、ストレージシステムの処理負荷が高いため、処理を実行できません。約 5 分後に再度要求を発行してください。
8F51	指定したセカンダリボリュームが、介入要求状態、保護状態、または使用不可状態であるため、ペア操作ができません。
8F53	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、状態遷移できない構成のため、コマンド拒否しました。
8F58	Asynchronous Replication ペア作成または再同期要求を受領しましたが、次のどちらかの理由で、コマンドを拒否しました。 • 指定したセカンダリボリュームがプライマリボリュームとペア状態が異なる。 • リストアジャーナルの状態がマスタジャーナルの状態と異なる。
8F5A	指定したセカンダリボリュームが、介入要求状態、保護状態、または使用不可状態であるため、ペア操作ができません。
8F67	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定した副サイトのストレージシステムは外部ボリュームをサポートしていないため、コマンドを拒否しました。
8F6D	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したボリュームがコマンドデバイスのため、コマンドを拒否しました。
8FEA	プライマリボリュームが Snapshot(CAW/CoW)、Snapshot Advanced で使用されていたため、Asynchronous Replication ペアの操作に失敗しました。
8FEC	プライマリボリュームが Snapshot(CAW/CoW)で使用されていたため、Asynchronous Replication ペアの操作に失敗しました。
9100	ユーザ認証が実施されていないため、コマンドを実行できません。
B91B	Asynchronous Replication を操作するためのシェアドメモリが実装されていません。
B992	Asynchronous Replication のプログラムプロダクトがインストールされていないため、コンシステンシーグループ情報が取得できません。
B9C0	コマンドデバイスの資源がなくなりました。LUN Manager からコマンドデバイスを OFF にし、そのあと ON にしてください。

下記の表は RAID Manager 操作時のエラーコードと内容を表しています。

エラーコード	エラーの内容
SSB1 が B9E1 SSB2 が B901	指定されたデバイスがコマンドデバイスのため、Asynchronous Replication ペアを作成できません。
SSB1 が B9E2 SSB2 が B901	ミラー ID が不当なため、Asynchronous Replication ペアを削除できません。

下記の表は RAID Manager 操作時のエラーコードと内容（SSB1 が B901/B9E0/B9E1/B9E2/B9E4/D004）を表しています。

エラーコード (SSB2)	エラーの内容
B902	ミラー ID が不当なため、Asynchronous Replication ペアを作成できません。
B907	ボリューム状態が SMPL 状態のためコマンドを拒否しました。
B90A	セカンダリボリュームの隠蔽モードをサポートしていません。
B90D	Asynchronous Replication プログラムプロダクトがインストールされていないため、Asynchronous Replication ペアを作成できません。
B909	ミラー ID が不当なため、Asynchronous Replication ペアをサスペンドできません。
B900	装置電源が ON で、かつ Asynchronous Replication 使用できないときに Asynchronous Replication ペアの状態が取得されました。再度操作してください。
B94B	Asynchronous Replication の構成が変更されたため、コマンドを拒否しました。Asynchronous Replication ペアの状態を確認してください。
B90E	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、装置間パスが設定されていないため、コマンドを拒否しました。
B910	ジャーナルのオプションの設定が更新できませんでした。
B913	Asynchronous Replication ペア作成・再同期要求を受領しましたが、これらの操作を実行できない構成であるため、コマンドを拒否しました。
B912/B9F8	ジャーナルが登録されていないため、コマンドを拒否しました。
B920	装置識別子が不正のため、Asynchronous Replication ペアを作成できません。
DB02	Asynchronous Replication ペア状態遷移要求を受領しましたが、その要求に対するペア状態遷移ができないため、コマンド拒否しました（たとえばペア作成要求時にペアが組まれている状態である、ペア再同期要求時に PSUS 以外の状態である、など）。
DB03	Asynchronous Replication ペア状態遷移要求を受領しましたが、ペアが Suspending または Deleting 状態のため、コマンドを拒否しました。
DB07	電源オン処理中のため、Asynchronous Replication ペアの状態遷移ができません。
DB08	電源オフ処理中のため、Asynchronous Replication ペアの状態遷移ができません。
E866	指定したコンシステンシーグループ ID は、すでに使用されています。または、iStorage V Series SDS との Asynchronous Replication ペア形成において、指定したコンシステンシーグループ ID が、iStorage V Series SDS で指定したジャーナル ID と異なっています。
E869	指定したリストアジャーナルは別のミラーで使用されており、かつ、ミラー状態が Stopping のため、操作を実行できません。 ミラー状態が Stopping から遷移したことを確認してから再度操作してください。
E86E	指定した LDEV 番号にはシェアドメモリが実装されていないため、データボリュームとして使用できません。
E871	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、双方向のストレージシステム間パスが定義されていないため、コマンドを拒否しました。双方向に正常なパスが定義されているかどうか、確認してください。

エラーコード (SSB2)	エラーの内容
E878	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したジャーナルには 3390-9A と 3390-9A 以外のデータボリュームが混在しているため、コマンドを拒否しました。
E87B	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したジャーナルが未登録のため、コマンドを拒否しました。
E87C	指定したジャーナルにジャーナルボリュームが登録されていません。
E87D	Asynchronous Replication ペア再同期要求を受領しましたが、指定したボリュームが Asynchronous Replication ペアでないため、コマンドを拒否しました。
E87E	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームがジャーナルボリュームのため、コマンドを拒否しました。
E880	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームのエミュレーションタイプとジャーナルボリュームのエミュレーションタイプが異なるため、コマンドを拒否しました。
E881	電源オン処理中のため、Asynchronous Replication ペアを作成または再同期できません。
E882	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したマスタジャーナルボリュームまたはリストアジャーナルボリュームのエミュレーションタイプが不正なため、コマンドを拒否しました。
E883	指定したミラー ID またはコンシステンシーグループ ID が、登録済みのミラー ID またはコンシステンシーグループ ID と異なります。
E888	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したマスタジャーナルはすでに別のリストアジャーナルとペアを作成しているため、コマンドを拒否しました。
E889	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したジャーナルはすでに別のミラー ID で使用しているため、コマンドを拒否しました。
E890	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、次のどれかの要因によってコマンドを拒否しました。 - 指定したボリュームはすでに別のジャーナルに登録されている - 指定したボリュームはすでに同じジャーナルの同じミラーで登録されている - セカンダリボリュームに指定したボリュームが同じジャーナルの別のミラーで登録されている
E891	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したマスタジャーナルまたはリストアジャーナルですでに登録可能な最大ペア数が作成されているため、コマンドを拒否しました。
E897	ペア作成要求を受領しましたが、次のどちらかの要因によって、コマンドを拒否しました。 - 指定したリストアジャーナルが、すでに別のミラーのリストアジャーナルとして使用されている - 指定したミラーの相手ジャーナルは、すでに別のミラーとして使用されている
E898	Asynchronous Replication ペアの再同期要求を受領しましたが、指定したリストアジャーナルがすでに別のミラーのリストアジャーナルとして使用されているため、コマンドを拒否しました。
E89A	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、双方向のストレージシステム間パスが定義されていないため、コマンドを拒否しました。双方向に正常なパスが定義されているかどうか、確認してください。

エラーコード (SSB2)	エラーの内容
E89B	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したマスタジャーナルまたはリストアジャーナルは、別のストレージシステムと接続したときの状態を記憶しているため、コマンドを拒否しました。 ほかのジャーナルを指定するか、該当するジャーナルを一度削除してから登録し直してください。
E8A2	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定した副サイトのストレージシステムのシリアル番号、モデル、またはパスグループ ID が誤っているため、ペアを作成できません。
E8A6	指定したジャーナル ID は登録されていません。
E8A7	指定したジャーナルにジャーナルボリュームが登録されていません。
E8A8	Asynchronous Replication ペアのサスペンド要求を受領しましたが、指定したボリュームが Asynchronous Replication ペアでない、または別ジャーナルのボリュームであるため、コマンドを拒否しました。
E8A9	電源オン処理中のため、Asynchronous Replication ペアをサスペンドできません。
E8B8	指定されたジャーナルにあるボリュームが、他のプログラムプロダクトまたは保守で使用中のため、操作は失敗しました。
E8F7	Asynchronous Replication ペア作成・再同期・差分リシンク要求を受領しましたが、指定したコンシステンシーグループに複数のジャーナルがあるため、コマンドを拒否しました。
E8FB	システム内部で論理エラーが発生し、コマンドを拒否しました。
EA00	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したプライマリボリュームはすでにセカンダリボリュームとして使用されているため、コマンドを拒否しました。
EA01	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したプライマリボリュームはほかの Asynchronous Replication ペアで使用されているため、コマンドを拒否しました。
EA02	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したセカンダリボリュームはすでにプライマリボリュームとして使用されているため、コマンドを拒否しました。
EA03	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したセカンダリボリュームはほかの Asynchronous Replication ペアで使用されているため、コマンドを拒否しました。
EA07	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したマスタジャーナルの Asynchronous Replication ペア登録数が上限値を超えるため、Asynchronous Replication ペアを作成できません。
EA08	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したリストアジャーナルの Asynchronous Replication ペア登録数が上限値を超えるため、Asynchronous Replication ペアを作成できません。
EA09	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、マスタジャーナルの状態が Initial、Active、Stopped 以外のため、コマンドを拒否しました。
EA0A	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、リストアジャーナルの状態が不正のため、コマンドを拒否しました。
EA12	Asynchronous Replication ペア再同期 (Reverse モード) 要求を受領しましたが、指定したセカンダリボリュームは SSWS 状態でないため、コマンドを拒否しました。
EA13	Asynchronous Replication ペア再同期要求を受領しましたが、セカンダリボリュームに対してプライマリボリュームとしての要求を受領したため、コマンドを拒否しました。

エラーコード (SSB2)	エラーの内容
EA15	Asynchronous Replication ペア再同期要求を受領しましたが、プライマリボリュームに対してセカンダリボリュームとしての要求を受領したため、コマンドを拒否しました。
EA18	Asynchronous Replication ペア再同期要求を受領しましたが、ペア状態が PSUS でないため、コマンドを拒否しました。
EA19	Asynchronous Replication ペア再同期要求を受領しましたが、ジャーナルの状態が Stopped でないため、コマンドを拒否しました。
EA1C	Asynchronous Replication ペアの再同期 (Reverse モード) 要求を受領しましたが、指定したリストアジャーナルの状態が Stopped ではないためコマンド拒否しました。
EA1E	Asynchronous Replication ペアの再同期 (Reverse モード) 要求を受領しましたが、セカンダリボリュームに対してプライマリボリュームとしての要求を受領したため、コマンドを拒否しました。
EA20	Asynchronous Replication ペア再同期 (Reverse モード) 要求を受領しましたが、プライマリボリュームに対してセカンダリボリュームとしての要求を受領したため、コマンドを拒否しました。
EA22	Asynchronous Replication ペア再同期 (Reverse モード) 要求を受領しましたが、ジャーナルの状態が Stopped でないため、コマンドを拒否しました。
EA25	Asynchronous Replication ペア再同期 (Reverse モード) 要求を受領しましたが、セカンダリボリュームが SSWS 状態でないため、コマンドを拒否しました。
EA29	Asynchronous Replication ペア削除要求を受領しましたが、マスタジャーナルの状態が Active または Stopped 以外のため、コマンドを拒否しました。
EA2C	Asynchronous Replication ペア削除要求を受領しましたが、リストアジャーナルの状態が Active または Stopped 以外のため、コマンドを拒否しました。
EA33	Asynchronous Replication ペアのサスペンド要求を受領しましたが、マスタジャーナルの状態が Active 以外のため、コマンドを拒否しました。
EA36	Asynchronous Replication ペアのサスペンド要求を受領しましたが、リストアジャーナルの状態が Active 以外のため、コマンドを拒否しました。
EA37	Asynchronous Replication ペアのサスペンド要求を受領しましたが、指定したリストアジャーナルの状態が Active 以外かつ Stopped 以外のため、コマンドを拒否しました。
EA3A	Asynchronous Replication ペア削除要求を受領しましたが、指定したセカンダリボリュームが状態遷移中のため、コマンドを拒否しました。
EA3B	Asynchronous Replication ペアのサスペンド (Reverse モード) 要求を受領しましたが、指定したセカンダリボリュームが Suspending 状態のため、コマンドを拒否しました。
EA40	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、正サイトのストレージシステムのプログラムプロダクトの課金容量を超過したため、コマンド拒否しました。
EA41	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、副サイトのストレージシステムのプログラムプロダクトの課金容量を超過したため、コマンドを拒否しました。
EA89	Asynchronous Replication ペア作成要求または再同期要求を受領しましたが、ジャーナルの属性またはジャーナル内のミラー状態が操作を実行できる状態にないため、コマンドを拒否しました。
EA8A	Asynchronous Replication ペア状態遷移要求を受領しましたが、ストレージシステムが電源オン処理中または電源オフ処理中であるため、コマンドを拒否しました。

エラーコード (SSB2)	エラーの内容
EA8B	Asynchronous Replication ペア削除・サスペンド要求を受領しましたが、指定したボリュームは複数の正サイトのストレージシステムおよび副サイトのストレージシステムで構成されるシステムで使用中のため、コマンドを拒否しました。
EA95	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、プライマリボリュームに指定したボリュームが Dynamic Provisioning のプール初期化中のため、コマンドを拒否しました。
EAA2	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、正サイトのストレージシステムの Asynchronous Replication の課金容量を超過したため、コマンドを拒否しました。
EAA3	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、副サイトのストレージシステムの Synchronous Replication の課金容量を超過したため、コマンドを拒否しました。
EAA5	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、副サイトのストレージシステムの Asynchronous Replication の課金容量を超過したため、コマンドを拒否しました。
EAA6	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、正サイトのストレージシステムの Synchronous Replication の課金容量を超過したため、コマンドを拒否しました。
EAB6	次のどちらかの理由で差分ビットマップエリアを確保できないため、Asynchronous Replication ペアを作成または再同期できません。 - 正サイトのストレージシステムで、シェアメモリの空き領域が不足している。 - プライマリボリュームとして指定したボリュームの、Dynamic Provisioning のプールの空き容量が不足している。
EAB7	正サイトのストレージシステムに拡張シェアメモリが実装されていないため、ペア作成操作は失敗しました。 正サイトのストレージシステムに拡張シェアメモリを実装してから再操作してください。
EAB8	次のどちらかの理由で差分ビットマップエリアを確保できないため、Asynchronous Replication ペアを作成または再同期できません。 - 副サイトのストレージシステムで、シェアメモリの空き領域が不足している。 - セカンダリボリュームとして指定したボリュームの、Dynamic Provisioning のプールの空き容量が不足している。
EAB9	副サイトのストレージシステムに拡張シェアメモリが実装されていないため、ペア作成操作は失敗しました。 副サイトのストレージシステムに拡張シェアメモリを実装してから再操作してください。
EABC	指定した LDEV 番号にはシェアメモリが実装されていないため、データボリュームとして使用できません。
EAD7	Asynchronous Replication ペアの再同期要求を受領しましたが、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が一致しないため、コマンドを拒否しました。
EAE5	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームは Dynamic Provisioning によって容量の変更処理中のため、コマンドを拒否しました。
EAF6	Asynchronous Replication ペアの作成要求または再同期要求を受領しましたが、ペアが遷移できない状態のため、コマンドを拒否しました。
EB28	副サイトのストレージシステムが未サポートの構成のため、コマンドを拒否しました。

エラーコード (SSB2)	エラーの内容
EB2D	Asynchronous Replication ペア操作を受領しましたが、Asynchronous Replication ペアを操作するのに必要なシェアドメモリが実装されていないため、コマンドを拒否しました。
EB30	Asynchronous Replication ペア状態遷移要求を受領しましたが、指定したミラー ID が不正なため、コマンドを拒否しました。
EB37	Asynchronous Replication ペア操作を受領しましたが、ファームウェア交換中またはファームウェア交換中断中のため、コマンドを拒否しました。
EB4C	リストアジャーナルが登録されていないため、ペアを作成できません。
EB4D	マスタジャーナルが登録されていないため、ペアを作成できません。
EB4F	マスタジャーナルとリストアジャーナルのタイマータイプが異なるため、Asynchronous Replication ペアが作成できません。
EB50	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したセカンダリボリュームは次に示すどれかの状態のため、コマンドを拒否しました。 - 保護状態である。 - 使用できない状態である。 - Local Replication のセカンダリボリュームである。 - Local Replication のリザーブボリュームである。 - Volume Migration のリザーブボリュームである。 - Asynchronous Replication で使用中である。
EB51	指定したセカンダリボリュームに PIN データがあったため、Asynchronous Replication ペアが作成できません。
EB52	指定したセカンダリボリュームはアクセスできない状態のため、Asynchronous Replication ペアが作成できません。 または、指定したセカンダリボリュームが属するプールに、正常な状態でないプールボリュームが含まれているため、Asynchronous Replication ペアが作成できません。
EB53	Asynchronous Replication ペア作成または再同期要求を受領しましたが、指定したセカンダリボリュームを構成する物理ボリュームが閉塞しているため、コマンドを拒否しました。
EB54	指定したセカンダリボリュームは、オンラインでのデータ移行用にマッピングされた外部ボリュームとして使用されているため、Asynchronous Replication ペアが作成できません。
EB57	指定したセカンダリボリュームがホストからオンラインになっていたため、コマンドを拒否しました。
EB58	指定したジャーナルボリュームおよびセカンダリボリュームがリザーブ状態またはストレージシステムで使用中のため、コマンドを拒否しました。ボリュームの状態を確認してください。
EB59	指定したセカンダリボリュームは Volume Migration によるボリューム移動中であったため、コマンドを拒否しました。ボリュームの状態を確認してください。
EB5B	指定したプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームには Data Retention Utility によってアクセス属性が設定されていたため、Asynchronous Replication ペアが作成できません。
EB5C	内部で論理矛盾が発生したため、Asynchronous Replication ペアが再同期できません。
EB5E	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、セカンダリボリュームのペアが組まれている状態であるため、コマンドを拒否しました。

エラーコード (SSB2)	エラーの内容
EB5F	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、副サイトのストレージシステムに Asynchronous Replication のプログラムプロダクトがインストールされていないため、コマンドを拒否しました。
EB60	セカンダリボリュームとプライマリボリュームの容量が一致していないため、コマンドを拒否しました。
EB61	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステム間のパスが有効でないため、コマンドを拒否しました。
EB62	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したプライマリボリュームがコマンドデバイスのため、コマンドを拒否しました。
EB63	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、リストアジャーナルがすでにほかのジャーナルとペアになっているため、コマンドを拒否しました。
EB64	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、プログラムプロダクトの課金容量を超過したため、コマンドを拒否しました。
EB65	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、プログラムプロダクトの課金容量が原因で異常終了したため、コマンドを拒否しました。
EB66	horctakeover (resync) コマンドを実行してプライマリボリュームのサスペンドを検出したため、コマンドを拒否してリトライ処理が指示されました。
EB6C	Asynchronous Replication ペアの形成コピーが 2 重に実行されました。 - 正サイトのストレージシステムの電源を OFF にしたときに、形成コピーが再開していれば問題ありません。 - 正サイトのストレージシステムがリセットされたときに、Asynchronous Replication ペアが作成されていれば問題ありません。
EB6E	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、正サイトのストレージシステムに Asynchronous Replication プログラムプロダクトがインストールされていないため、コマンドを拒否しました。
EB70	指定したセカンダリボリュームが他のプログラムプロダクトによってコピーペアを作成していたため、Asynchronous Replication ペアの操作に失敗しました。
EB73	指定したセカンダリボリュームはシステムディスクのため、Asynchronous Replication ペアが作成できません。
EB78	指定したデータボリュームがコマンドデバイスのため、Asynchronous Replication ペアが作成できません。
EB79	指定したデータボリュームがオンラインになっているため、Asynchronous Replication ペアが作成または再同期できません。
EB7A	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、リストアジャーナルのジャーナルキャッシュが残っているため、コマンドを拒否しました。
EB7D	指定したセカンダリボリュームは外部ボリュームのため、Asynchronous Replication ペアが作成できません。
EB7E	指定したセカンダリボリュームが、次に示すどれかの状態のため、Asynchronous Replication ペア操作が失敗しました。 - 指定したセカンダリボリュームは、Local Replication ペアで使用中です。 - 指定したセカンダリボリュームは、リザーブボリュームです。 - Asynchronous Replication のプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームが DP-VOL で、かつ、指定したセカンダリボリュームは Local Replication ペアのプライマリボリュームとして使用中です。

エラーコード (SSB2)	エラーの内容
	- Asynchronous Replication のプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームが DP-VOL で、かつ、指定したセカンダリボリュームは Volume Migration の移動元のボリュームです。 - Asynchronous Replication のプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームが DP-VOL で、かつ、指定したセカンダリボリュームは Snapshot(CAW/CoW)、Snapshot Advanced ペアのプライマリボリュームとして使用中です。
EB7F	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したセカンダリボリュームのエミュレーションタイプはサポートされていないため、コマンドを拒否しました。
EB80	指定したボリュームは仮想ボリュームまたはプールボリュームのため、コマンドを拒否しました。ボリュームの状態を確認してください。
EB87	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、副サイトのストレージシステムから正サイトのストレージシステムへのパスが設定されていない、またはセカンダリボリュームが SMPL 状態であるため、コマンドを拒否しました。
EB88	指定したセカンダリボリュームが、次に示すどれかの状態のため、Asynchronous Replication ペアが作成できません。 - セカンダリボリュームは Local Replication ペアのセカンダリボリュームとして使用中です。 - セカンダリボリュームが Not Ready 状態（ドライブが使用できない状態）です。
EB89	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したプライマリボリュームとセカンダリボリュームのエミュレーションタイプが異なるため、コマンドを拒否しました。
EB8A	次に示す状態のため、Asynchronous Replication ペア作成が拒否されました。 指定したマスタジャーナルとリストアジャーナルのエミュレーションタイプが異なる。
EB94	Asynchronous Replication ペア状態遷移要求を受領しましたが、指定したペアの状態は遷移できないため、コマンドを拒否しました。
EB9F	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したセカンダリボリュームが副サイトのストレージシステムに未実装のため、コマンドを拒否しました。
EBA0	Asynchronous Replication ペア状態遷移要求を受領しましたが、指定したセカンダリボリュームが副サイトのストレージシステムに未実装のため、コマンドを拒否しました。
EBA7	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、セカンダリボリュームに指定したボリュームが次のどれかの状態のため、コマンドを拒否しました。 - Dynamic Provisioning によって容量を拡張中である。 - Dynamic Provisioning のページの解放中である。 - Dynamic Provisioning のプール初期化中である。 - 正サイトのストレージシステムでサポートされていない Dynamic Provisioning のデータダイレクトマップ属性が有効である。
EBD9	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、副サイトのストレージシステムの Synchronous Replication の課金容量を超過したため、コマンドを拒否しました。
EBDB	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、副サイトのストレージシステムの Asynchronous Replication の課金容量を超過したため、コマンドを拒否しました。

エラーコード (SSB2)	エラーの内容
EBDC	Asynchronous Replication ペア状態遷移要求を受領しましたが、ストレージシステムの処理負荷が高いため、処理を実行できません。しばらくしてから再度実施してください。
EBE0	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したセカンダリボリュームはデルタリシンク用 Asynchronous Replication ペアで使用されているため、コマンドを拒否しました。
EBE5	Asynchronous Replication ペア作成または再同期要求を受領しましたが、指定したリストアジャーナルのジャーナルボリュームが閉塞しているため、コマンドを拒否しました。
EBFD	Asynchronous Replication ペア作成要求を受領しましたが、指定したリストアジャーナルが登録されていないため、コマンドを拒否しました。
F908	プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームとして指定されたボリュームの状態が、次のどれかに該当するため、ペア作成操作は失敗しました。 - ミラー内の登録済みボリュームは仮想アクセスモードが無効だが、指定されたボリュームは仮想アクセスモードが有効である。 - ミラー内の登録済みボリュームは仮想アクセスモードが有効だが、指定されたボリュームは仮想アクセスモードが無効である。 - 指定された、仮想アクセスモードが有効なボリュームの仮想ストレージマシンのシリアル番号またはモデルが正しくない。
F909	プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームとして指定されたボリュームの状態が、次のどれかに該当するため、ペア作成操作は失敗しました。 - ジャーナル内の登録済みボリュームは仮想アクセスモードが無効だが、指定されたボリュームは仮想アクセスモードが有効である。 - ジャーナル内の登録済みボリュームは仮想アクセスモードが有効だが、指定されたボリュームは仮想アクセスモードが無効である。 - 指定された、仮想アクセスモードが有効なボリュームの仮想ストレージマシンのシリアル番号またはモデルが正しくない。
F90A	プライマリデータボリュームとして指定したボリュームは、仮想 LDEV ID が設定されていないため、ペアを作成できません。

下記の表は RAID Manager 操作時のエラーコードと内容（SSB1 が B912）を表しています。

エラーコード (SSB2)	エラーの内容
B96D	ボリュームの状態が SMPL であるためコマンドを拒否しました。

下記の表は RAID Manager 操作時のエラーコードと内容（SSB1 が B9E2）を表しています。

エラーコード (SSB2)	エラーの内容
B9E0	ペアの強制削除はサポートしていないため、コマンドを拒否しました。

下記の表は RAID Manager 操作時のエラーコードと内容（SSB1 が B9FE）を表しています。

エラーコード (SSB2)	エラーの内容
B902	指定のジャーナルにはジャーナルボリュームが登録されていません。

10.3 お問い合わせ先

- PP サポートサービスにお問い合わせください。

付録 A. RAID Manager コマンドリファレンス

RAID Manager を使用するにあたっての参考情報を示します。

A.1 Asynchronous Replication のアクション名と RAID Manager コマンドの対応表

Asynchronous Replication のアクション名に対応する RAID Manager コマンドを次の表に示します。RAID Manager コマンドの詳細については、『RAID Manager コマンドリファレンス』を参照してください。

表 A-1 Asynchronous Replication のアクション名に対応する RAID Manager コマンド（構成操作）

アクション名	オプション	RAID Manager	
		コマンド名	対応するオプションなど
リモート接続追加	リモートストレージシステム	raidcom add rcu	-rcu <serial#> <mcu#> <rcu#> <id>
	リモートパス	raidcom add rcu	-cu_free <serial#> <id> <pid>
	RIO MIH 時間	raidcom modify rcu	-rcu_option <mpth> <rto> <rtt> [fzd fze]
ジャーナル作成	ジャーナル ID	raidcom add journal	-journal_id <journal ID#>
	MP ユニット ID※ ¹	raidcom modify journal	-mp_blade_id <mp#>
	データあふれ監視時間※ ¹	raidcom modify journal	-data_overflow_watch <time>
	キャッシュモード※ ¹	raidcom modify journal	-cache_mode {y n}
ジャーナルオプション編集	データあふれ監視時間※ ¹	raidcom modify journal	-data_overflow_watch <time>
	キャッシュモード※ ¹	raidcom modify journal	-cache_mode {y n}
ジャーナルボリューム割り当て	なし	raidcom add journal	-journal_id <journal ID#>
MP ユニット割り当て	MP ユニット ID	raidcom add journal	-mp_blade_id <mp#>
リモートレプリカオプション編集	コピータイプ	raidcom modify	-opt_type

アクション名	オプション	RAID Manager	
		コマンド名	対応するオプションなど
		remote_repli ca_opt	
	最大形成コピー数	raidcom modify remote_repli ca_opt	-copy_activity

注※1

MP ユニット ID、データあふれ監視時間、キャッシュモードを同時に指定できません。
個別に設定してください。

表 A-2 Asynchronous Replication のアクション名に対応する RAID Manager コマンド（コンシステンシーグループ操作）

アクション名	RAID Manager	
	コマンド名	対応するオプションなど
コンシステンシーグループにペアを作成／追加	paircreate	-f[g] <fence> [CTG ID]
コンシステンシーグループ指定ペア分割 (時刻指定なし)	pairsplit	-S
コンシステンシーグループ単位でペア再同期	pairresync	-f[g] <fence> [CTG ID]
コンシステンシーグループ単位でペア削除	pairsplit	-r ※1
正サイトのホストから副サイトのホストに制御を移す	pairsplit	-R[S B]

注※1

同時にペア解除したいボリュームは、あらかじめ同じコンシステンシーグループにして
おく必要があります。

表 A-3 Asynchronous Replication のアクション名に対応する RAID Manager コマンド（ペア操作）

アクション名	オプション	RAID Manager	
		コマンド名	対応するオプションなど
AR ペア作成	LU 選択	paircreate ※1	なし
	ベースセカンダリボリューム	paircreate ※2	なし
	ミラー選択	paircreate ※1	なし
	CTG ID	paircreate	-f[g] <fence> [CTG ID]
	形成コピータイプ	paircreate	[-nocopy -nocsus]
	形成コピー優先度	paircreate	なし
	エラーレベル	paircreate	なし
ペア分割	セカンダリボリューム書き込み	pairsplit	-rw
ミラー分割	セカンダリボリューム書き込み	pairsplit	-rw
	分割モード	pairsplit	-P
ペア再同期	コピー優先度	pairresync	なし

アクション名	オプション	RAID Manager	
		コマンド名	対応するオプションなど
	エラーレベル	pairresync	-nomsg
ミラー再同期	なし	なし	
ペア削除	なし	pairsplit	-S
ミラー削除	削除モード（強制）	pairsplit	-SF
正サイトのホストから副サイトのホストに制御を移す	なし	pairsplit	-R[S B]

注※1

`paircreate` コマンドのオプションで LU およびミラーを指定することはできません。あらかじめ構成定義ファイルに LU およびミラーを指定したうえで、`paircreate` コマンドを入力してください。

注※2

`paircreate` コマンドのオプションでベースセカンダリボリュームおよびセカンダリボリュームを指定することはできません。あらかじめ構成定義ファイルに指定したいセカンダリボリュームをすべて列挙したうえで、`paircreate` コマンドを入力してください。

表 A-4 Asynchronous Replication のアクション名に対応する RAID Manager コマンド（状態表示操作）

アクション名	オプション	RAID Manager	
		コマンド名	対応するオプションなど
ペアプロパティ参照	なし	pairdisplay	-m <mode>
ペア一致率参照	なし	pairdisplay	-fc
リモート接続プロパティ参照	なし	pairdisplay	-m <mode>

表 A-5 Asynchronous Replication のアクション名に対応する RAID Manager コマンド（ペアの保守操作）

アクション名	オプション	RAID Manager	
		コマンド名	対応するオプションなど
ペアオプション編集	エラーレベル	pairresync	なし
ジャーナルオプション編集	なし	raidcom modify journal	なし
ミラーオプション編集	なし	modify journal	なし
ジャーナルボリューム割り当て	なし	raidcom add journal	-journal_id<journal ID#>
ジャーナル削除	なし	raidcom delete journal	-journal_id<journal ID#>
リモート接続オプション編集	RIO MIH 時間	raidcom modify rcu	-rcu_option
	パス閉塞 SIM 監視時間	raidcom modify rcu	-path_blocked_watch_sim
リモートパス追加	なし	raidcom add rcu_path	なし
リモートパス削除	なし	raidcom delete rcu_path	なし
リモート接続削除	なし	raidcom delete rcu	なし

アクション名	オプション	RAID Manager	
		コマンド名	対応するオプションなど
リモートコマンドデバイス割り当て	なし	なし	
リモートコマンドデバイス解除	なし	なし	

A.2 RAID Manager のオプションのパラメータの設定範囲

RAID Manager のオプションのパラメータで設定できる範囲を次の表に示します。コマンドの詳細については『RAID Manager コマンドリファレンス』を参照してください。

パラメータの内容	設定範囲
ミラー ID (MU#)	0～3
CTG ID	0～127
ジャーナル ID	0～255
パスグループ ID	0～255
最大形成コピー数	1～128
パス閉塞監視	2～200 秒※1、※3
パス閉塞 SIM 監視	2～200 秒※2、※3

注※1

DKCMAIN ファームウェアバージョンが A3-04-21-XX 未満の場合は、2～45 秒です。

注※2

DKCMAIN ファームウェアバージョンが A3-04-21-XX 未満の場合は、2～100 秒です。

注※3

Synchronous Replication／Asynchronous Replication／Active Mirror で共通の値が使用されます。

A.3 RAID Manager を使用したジャーナルボリュームとリザーブジャーナルボリュームの交換手順

RAID Manager を使って、ジャーナルボリュームとリザーブジャーナルボリュームを交換する手順について説明します。

前提条件

- リザーブジャーナルボリュームとなる未割り当てのジャーナルボリュームがあること。

操作手順

ジャーナルボリュームとリザーブジャーナルボリュームを交換する手順を次の表に示します。

表 A-6 ジャーナルボリュームとリザーブジャーナルボリュームの交換手順

手順	操作	実行するコマンド	説明※
1	リザーブジャーナルボリュームをジャーナルに追加します。	<code>raidcom add journal -journal_id <journal ID#> -ldev_id <ldev#></code>	<journal ID#> : 交換対象のジャーナルボリュームが登録されているジャーナルの ID を指定します。 <ldev#> : リザーブジャーナルボリュームとなる未割り当てのジャーナルボリュームの LDEV 番号を指定します。
2	現在使用しているジャーナルボリュームの LDEV 番号を確認します。	<code>raidcom get journal</code>	コマンド出力の「LDEV#」列に表示される LDEV 番号が、現在使用しているジャーナルボリュームの LDEV 番号です。
3	交換対象のジャーナルボリュームを削除します。	<code>raidcom delete journal -journal_id <journal ID#> -ldev_id <ldev#></code>	<journal ID#> : 交換対象のジャーナルボリュームが登録されているジャーナルの ID を指定します。 <ldev#> : 手順 2 で確認した現在使用しているジャーナルボリュームの LDEV 番号を指定します。

注※

必要に応じて -I パラメータに、使用している RAID Manager インスタンスのインスタンス番号を指定してください。

付録 B. Asynchronous Replication と他の機能の併用

Asynchronous Replication 以外の機能で使われているボリュームの中には、Asynchronous Replication のデータボリュームやジャーナルボリュームとして利用できるものと、そうでないものがあります。Asynchronous Replication 以外のボリュームを Asynchronous Replication のボリュームとして利用できるかどうかを説明します。

B.1 Asynchronous Replication と併用できるボリューム種別

下記の表に Asynchronous Replication 以外のボリュームを Asynchronous Replication のプライマリボリューム、セカンダリボリューム、およびジャーナルボリュームとして利用できるかどうかを示します。

ボリューム種別	プライマリボリュームとして利用できるか	セカンダリボリュームとして利用できるか	ジャーナルボリュームとして利用できるか
Local Replication			
プライマリボリューム (PSUS 状態)	○	○※1	×
プライマリボリューム (PSUE 状態)	○	○※1	×
プライマリボリューム (COPY(RS-R)/RCPY 状態)	×	×	×
プライマリボリューム (Synchronous Replication のプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームとして兼用されている状態)	×	×	×
プライマリボリューム (上記以外の状態)	○	○※1	×
セカンダリボリューム (PSUS 状態)	○	×	×
セカンダリボリューム (PSUE 状態)	○	×	×
セカンダリボリューム (上記以外の状態)	×	×	×
Snapshot Advanced※2			
プライマリボリューム (RCPY 状態)	×	×	×
プライマリボリューム (上記以外の状態)	○	○※3	×
セカンダリボリューム	×	×	×
vClone Parent 属性のボリューム	○	○	×
vClone 属性のボリューム	○	○	×
Volume Migration※4			

ボリューム種別	プライマリボリュームとして利用できるか	セカンダリボリュームとして利用できるか	ジャーナルボリュームとして利用できるか
移動元のボリューム（ボリューム移動中のとき）	○（ただし、プライマリボリュームとして利用すると、ボリューム移動が中断します）	○（ただし、セカンダリボリュームとして利用すると、ボリューム移動が中断します）	×
移動元のボリューム（ボリューム移動の終了後）	○	○	×
Universal Volume Manager			
Universal Volume Manager のボリューム	○	○	×
Resource Partition Manager			
Resource Partition Manager を設定したボリューム	○（ただし、ユーザが所属するユーザグループに割り当てられているボリュームにかぎります）	○（ただし、ユーザが所属するユーザグループに割り当てられているボリュームにかぎります）	○（ただし、ユーザが所属するユーザグループに割り当てられている OPEN-V の仮想ボリュームにかぎります）
Data Retention Utility			
Read/Write 属性のボリューム	○	○	○
Protect 属性のボリューム	○	○	×
Read Only 属性のボリューム	○	○	×
副 VOL 拒否（S-VOL Disable）が設定されているボリューム	○	×	×
Virtual LUN			
Virtual LUN ボリューム	○	○	×
LUN Manager			
LU パスが定義されているボリューム	○	○	×
LU パスが定義されていないボリューム	×	×	○
LUN セキュリティが適用されているボリューム	○	○	×
Dynamic Provisioning			
仮想ボリューム	○	○	○
データダイレクトマップ属性の仮想ボリューム	○	○	×
プールボリューム	×	×	×
容量削減機能が有効な仮想ボリューム	○	○	×
重複排除用システムデータボリューム	×	×	×
global storage virtualization			

ボリューム種別	プライマリボリュームとして利用できるか	セカンダリボリュームとして利用できるか	ジャーナルボリュームとして利用できるか
仮想ストレージマシン内のボリューム	○※5	○※5	×

(凡例)

○ : 利用できる

× : 利用できない

注※1

Asynchronous Replication ペア作成に使用する DP-VOL が Local Replication ペアまたは Volume Migration 移動プランでも使用されている場合は、Local Replication ペアと Volume Migration の設定を解除した後、Asynchronous Replication ペアを作成し、Local Replication ペア・Volume Migration 移動プランを再作成してください。

注※2

Snapshot Advanced の、ノードボリュームおよびリーフボリュームについては、「プライマリボリューム」ではなく「セカンダリボリューム」の内容を参照してください。

注※3

すでに Snapshot Advanced のプライマリボリュームとして使用しているボリュームを、Asynchronous Replication ペア作成時にセカンダリボリュームとして指定することはできません。

注※4

Asynchronous Replication ペアを再同期または RAID Manager の horctakeover コマンドを実行する場合にかぎり、セカンダリボリュームとして利用できます。

注※5

仮想 LDEV ID を削除しているボリュームは、Asynchronous Replication のペアボリュームとして使用できません。

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication と Snapshot Advanced の併用 \(159 ページ\)](#)

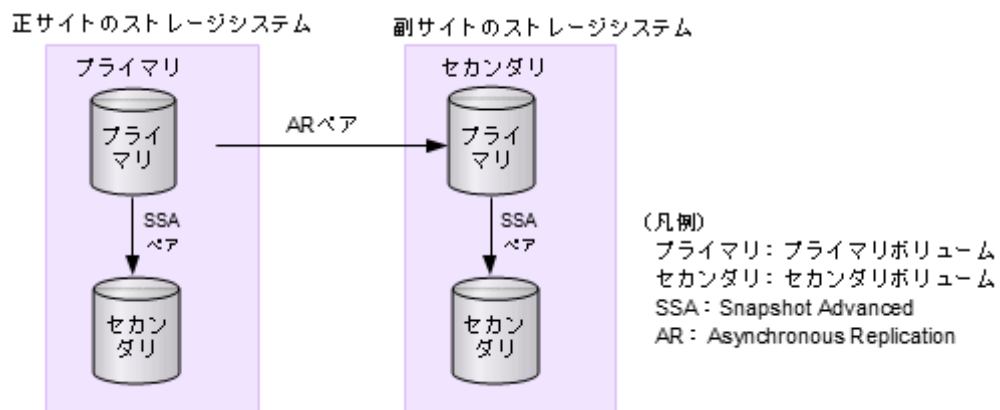
[Asynchronous Replication と Dynamic Provisioning の併用 \(160 ページ\)](#)

[Asynchronous Replication と Local Replication の併用についての概要 \(166 ページ\)](#)

B.2 Asynchronous Replication と Snapshot Advanced の併用

- Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームを、Snapshot Advanced のプライマリボリュームとして、Snapshot Advanced のペアを作成できます。
- vClone Parent 属性のボリュームおよび vClone 属性のボリュームを、Asynchronous Replication ペア作成時にプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームとして指定できます。
- Snapshot Advanced のプライマリボリュームとして使用しているボリュームを、Asynchronous Replication ペア作成時にセカンダリボリュームとして指定することはできません。
- Asynchronous Replication ペアのセカンダリボリュームと Snapshot Advanced ペアのプライマリボリュームが連携している状態で、Snapshot Advanced のコンシステンシーグループ指定ペア分割機能を使用している場合、Asynchronous Replication と Snapshot Advanced の構成によっては、Snapshot Advanced ペアの複数のセカンダリボリュームが一貫性を維持できない、またはペア分割がされず、副サイトでのジャーナルリストアが停止状態となり、ジャーナルデータの利用率が増加し続ける恐れがあります。詳細は、『Snapshot Advanced ユーザガイド』を参照してください。
- Asynchronous Replication と Snapshot Advanced の併用でサポートする構成を次に示します。

- 基本構成



副サイトの Snapshot Advanced ペアを作成するためには、Asynchronous Replication ペアを先に作成する必要があります。

B.3 Asynchronous Replication と Virtual LUN の併用

- Asynchronous Replication は、標準サイズの LU より小さい、カスタムサイズの LU を設定できる Virtual LUN 機能をサポートしています。カスタムサイズの LU が

Asynchronous Replication のペアに割り当てられたとき、セカンダリボリュームはプライマリボリュームと同じ容量にする必要があります。

- Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームは、Virtual LUN 操作の対象にできます。これらのボリュームに Virtual LUN 操作を実行する場合は、事前に Asynchronous Replication ペアを削除して、それぞれのボリュームを SMPL 状態にしてください。

B.4 Asynchronous Replication と Volume Migration の併用

ペア状態が COPY または PAIR 以外の場合は、Asynchronous Replication のプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームを Volume Migration の移動元ボリュームに指定できません。

Asynchronous Replication のデータボリュームおよびジャーナルボリュームを移動先ボリュームに指定することはできません。Volume Migration の詳細は、『Volume Migration ユーザガイド』を参照してください。

B.5 Asynchronous Replication と LUN Manager の併用

- LUN Manager 操作は、Asynchronous Replication 操作に影響を与えません。ホストグループまたは iSCSI ターゲットに割り当てられて保護されているポートのボリュームも Asynchronous Replication ペアとして割り当てることができます。また、Asynchronous Replication ペアのボリュームを LUN Manager によって保護することもできます。
- Asynchronous Replication のセカンダリボリュームは、ペアが分割されないかぎり PC サーバホストからアクセスできません。

B.6 Asynchronous Replication と Dynamic Provisioning の併用

- DP-VOL（Dynamic Provisioning の仮想ボリューム）を指定して Asynchronous Replication ペアを作成できます。

DP-VOL を指定するのは、プライマリボリュームとセカンダリボリュームのどちらか一方でも、両方でもかまいません。容量削減機能が有効な DP-VOL は、Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームとして使用できます。ただし、ジャーナルボリュームとして使用できません。また、重複排除用システムデータボリュームは、Asynchronous Replication ペアのプライマリボリューム、セカンダリボリューム、およびジャーナルボリュームとして使用できません。

容量削減機能が無効な DP-VOL を使った Asynchronous Replication ペアが COPY 状態の場合、プライマリボリュームの容量削減機能を有効に設定できます。ただし、ペア状態が COPY 以外に遷移するまで、Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームの容量削減機能は動作しません。

- 容量削減機能によって圧縮または重複排除されたコピー元のボリュームのデータは、圧縮または重複排除を解消してから、コピー先のボリュームへコピーされます。また、容量削減機能は、コピーしたデータに対してすぐには実行されません。Asynchronous Replication ペアを作成したり再同期したりする前に、コピー先のボリュームの空き容量が、コピー元のボリュームに格納されている容量削減前の使用容量よりも多いことを確認してください。詳細は、『システム構築ガイド』を参照してください。
- 容量削減機能を使用したボリュームを使用して Asynchronous Replication ペアを作成すると、圧縮または重複排除されたデータをコピーするため、コピーの性能やホストの I/O 性能が低下する場合があります。
- Asynchronous Replication 導入時に、セカンダリボリュームに容量削減機能が有効なボリュームを使用して Asynchronous Replication ペアを作成する場合、コピー速度は `raidc om modify journal` コマンドの `-copy_size` オプションで 1~3 を指定してください。

Asynchronous Replication の副サイトのセカンダリボリュームで、容量削減機能が有効な場合に、コピー速度を 4 以上に指定して形成コピーを実施すると、リストアする処理と容量削減機能の処理が競合するため、高速としての効果が見込めません。

データ削減共有ボリュームを使用している場合は、コピー速度を 4 以上は、指定しないでください。dedupe and compression による容量削減ボリュームを使用している場合に、コピー速度を 4 以上に指定するときは、先に容量削減機能を無効にして、コピーが完了したあとに、容量削減機能を有効に戻してください。

- Asynchronous Replication ペア作成に使用する DP-VOL が Local Replication ペアまたは Volume Migration 移動プランでも使用されている場合は、Local Replication ペアと Volume Migration の設定を解除した後、Asynchronous Replication ペアを作成し、Local Replication ペア・Volume Migration 移動プランを再作成してください。
- また、割り当て済みのページがある DP-VOL を Asynchronous Replication ペアのセカンダリボリュームに指定すると、ページの再割り当てが発生するため、一時的に DP-VOL のプール使用量が実際の使用量よりも増加します。したがって、ペアを作成する前に、次のことを行ってください。
 - DP-VOL のプール残容量が十分にあることを確認してください。
 - プールに登録したプールボリュームが閉塞していないことを確認してください。プールボリュームが閉塞している場合は、プールボリュームの状態を回復させてからペアを作成してください。
- セカンダリボリュームとして DP-VOL を使用した場合、プールボリュームが満杯になったためデータを更新できないことがあります。この場合、Asynchronous Replication ペアの状態は PFUS になります。PFUS は、RAID Manager で表示されるペア状態です。

- 次の両方の条件を満たす場合に、ペアを分割し、再同期したときは、プライマリボリュームに存在しないページがセカンダリボリュームへ割り当たることがあります。
 - コピー速度が高速である
 - 新規にペアを作成し、ペア状態が **COPY** である

プライマリボリュームに存在しないセカンダリボリュームのページを削除する場合は、DP-VOL のゼロデータページ破棄機能を使用してください。

- ペア状態を維持したまま **Asynchronous Replication** ペアのボリュームとして使用している DP-VOL の容量を拡張できます。

DP-VOL の容量拡張の詳細については、「[8.4 ペアを維持した DP-VOL の容量拡張 \(95 ページ\)](#)」を参照してください。

- セカンダリボリュームに容量削減機能が無効な仮想ボリュームを使用している場合、形成コピー中に **WriteSame/Unmap** コマンドを受領してもセカンダリボリュームのページは破棄されない場合があります。

B.6.1 割り当て済みのページがある、容量削減機能が有効なボリュームをセカンダリボリュームとして、Asynchronous Replication ペアを作成する際の推奨手順

Asynchronous Replication ペアを作成する際に、割り当て済みのページがある、容量削減機能が有効なボリュームをセカンダリボリュームとして使用する場合は、ペアを作成する前に、次に示す操作をしてください。

操作手順

1. セカンダリボリュームにするボリュームを **LDEV** フォーマットします。

ただし、セカンダリボリュームにするボリュームが **vClone Parent** 属性または **vClone** 属性のボリュームの場合は、**LDEV** フォーマットを実施しないでください。

LDEV フォーマットを実施すると **Snapshot Advanced** の管理情報が初期化され、仮想クローン機能を使用できなくなります。

注意

セカンダリボリュームに割り当て済みのページがある状態でペア作成すると、初期化しながらコピーされるため、コピー時間が長くなったり、プロセッサの稼働率が上昇したりする可能性があります。

そのため、**Snapshot Advanced** の仮想クローン機能を用いた運用をする場合以外は、**LDEV** フォーマット後にペア作成を実施ください。**Snapshot Advanced** の仮想クローン機能を用いた運用をする場合は、割り当て済みのページがある状態でのペア作成となるため、コピー時間およびプロセッサの稼働率への影響を考慮した運用をしてください。

2. 次に示すユーザ要件に応じて、インラインモード/ポストプロセスモードを、セカンダリボリュームにするボリュームに対して設定します。なお、セカンダリボリュームにするボリュームが vClone 属性のボリュームの場合、Snapshot Advanced ペアの Parent のボリュームの設定に従うため、設定不要です。

- ユーザ要件: I/O 性能への影響を抑えたい

設定内容	注意事項
ポストプロセスモード	ペアが作成されてから容量削減されるため、セカンダリボリューム用に、プライマリボリュームと同じ容量のプール有効容量の確保が必要です。

- ユーザ要件: 必要なプール容量を抑えたい

設定内容	注意事項
インラインモード	ポストプロセスモードと比較して、コピー時間が長くなったり、プロセッサの稼働率が上昇したりする可能性があります。これらを抑えたい場合は、ポストプロセスモードの適用を検討してください。

B.7 Asynchronous Replication とエクスポートツール 2 の併用

エクスポートツール 2 は、ストレージシステムの I/O 動作とハードウェアパフォーマンスの詳細情報や統計情報を収集します。エクスポートツール 2 によって収集されるストレージシステムの使用状況と性能データによって、次のことができるようになります。

- Asynchronous Replication データを二重化する最適なタイミングを判断する。
- Asynchronous Replication セカンダリボリュームの最適なロケーションを決定する（例：バックエンド動作のボトルネックを避けるためにアクセス頻度の低いボリュームを持つアレイグループ内）。
- Asynchronous Replication 操作中、またはテスト動作中のストレージシステムのパフォーマンスを監視する。

エクスポートツール 2 についての詳細は『エクスポートツール 2 ユーザガイド』を参照してください。

B.8 Asynchronous Replication と Data Retention Utility の併用

Asynchronous Replication は、Data Retention Utility でアクセス属性を設定したボリュームを使用してペアを作成できます。ただし、Data Retention Utility で副 VOL 拒否が設定されているボリュームをセカンダリボリュームとする Asynchronous Replication ペアは作成できません。

次の表に Asynchronous Replication ペア状態と Data Retention Utility 操作の関係を示します。

ボリューム	ペア状態	Data Retention Utility 操作	
		アクセス属性変更	アクセス属性参照
プライマリボリューム	SMPL	可能	可能
	COPY	可能	可能
	PAIR	可能	可能
	PSUS	可能	可能
	PSUE	可能	可能
セカンダリボリューム	SMPL	可能	可能
	COPY	次の表を参照してください。	可能
	PAIR	次の表を参照してください。	可能
	PSUS	可能	可能
	PSUE	可能	可能

次の表に Asynchronous Replication のセカンダリボリュームのペア状態が PAIR または COPY のとき変更操作が可能なアクセス属性を示します。

変更操作前のアクセス属性	変更操作が可能なアクセス属性			
	Read/Write	Read Only	Protect	S-VOL Disable
COPY	可能	可能	可能	不可
PAIR	可能	可能	可能	不可

B.9 Asynchronous Replication と Universal Volume Manager の併用

Asynchronous Replication は、Universal Volume Manager と連携して使用することで、外部ボリュームを使用してペアを作成できます。

外部ボリュームの詳細については、『Universal Volume Manager ユーザガイド』を参照してください。

B.10 Asynchronous Replication と Resource Partition Manager の併用

Resource Partition Manager 使用時に、リソースグループに所属しているボリュームをプライマリボリュームまたはセカンダリボリューム、仮想ボリュームをジャーナルボリュームとして、Asynchronous Replication ペアを作成できます。

Resource Partition Manager の詳細については、『システム構築ガイド』を参照してください。

B.11 Asynchronous Replication と global storage virtualization の併用

仮想ストレージマシン内のボリュームを使用して、Asynchronous Replication ペアを作成できます。Asynchronous Replication ペアを操作するときには、本ストレージシステムの LDEV ID を指定してください。また、Asynchronous Replication ペアで使用しているボリュームの仮想 LDEV ID は削除できません。

付録 C. Asynchronous Replication と Local Replication の併用

Asynchronous Replication と Local Replication は、同じデータボリュームを共有でき、正サイトと副サイトの両方で、複数のコピーデータを提供できます。

C.1 Asynchronous Replication と Local Replication の併用についての概要

Asynchronous Replication の主要な機能は、遠隔地で業務ボリュームのコピーが保持されることです。Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームを Local Replication を伴ってバックアップする、あるいは Local Replication ボリュームを Asynchronous Replication を伴ってバックアップすることで、次の利点があります。

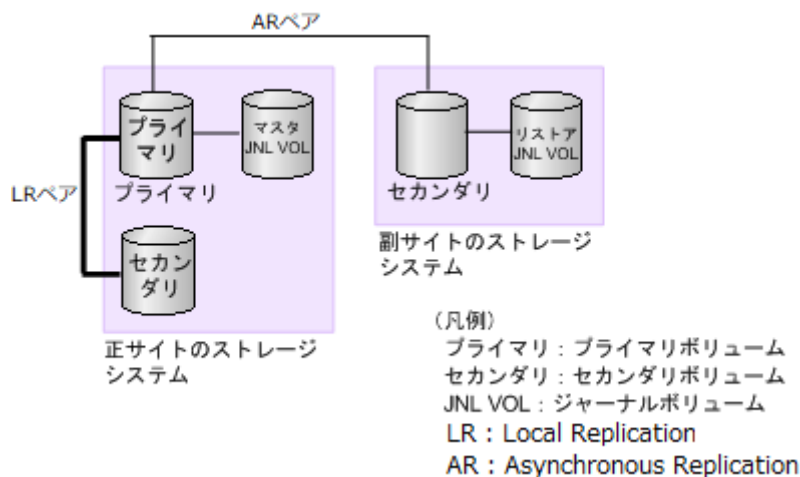
- Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームを Local Replication ペアと共有できます。
 - Asynchronous Replication に障害が発生した場合、サイト上でデータをバックアップできます。
 - 業務データの複数のコピーが、データの調査やテストなどの目的で正サイトに提供されます。
- Local Replication ペアのセカンダリボリュームを Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームを伴って正サイトで共有すると、リモートコピーができます。
- 副サイトで Asynchronous Replication ペアのセカンダリボリュームと Local Replication ペアのプライマリボリュームを共有する場合、Local Replication ペアのセカンダリボリュームのデータは、Asynchronous Replication システムのテスト用と災害リカバリ用に使用できます。
 - Local Replication ペアのセカンダリボリュームは、テスト中でも継続的に複製が可能です。
 - 実際の回復作業中に Asynchronous Replication に問題が発生した場合、Local Replication ペアのセカンダリボリュームを、Asynchronous Replication ペアのセカンダリボリュームの回復に使用できます。

同じコンシステンシーグループ内にあるすべての Local Replication ペアの分割を要求した場合、その要求が受け付けられるのは、対応するすべての Asynchronous Replication ペアが PAIR 状態、PSUS 状態、または PSUE 状態のときだけです。もし、Asynchronous Replication ペアがこれらの状態に該当しなければ、コンシステンシーグループ内の Local Replication ペアの状態は変更されません。

C.2 Local Replication ペアのプライマリボリュームと Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームを共有する構成

Local Replication ペアのプライマリボリュームは Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームと共有できます。

- 次の図は、Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームと共有された Local Replication ペアのプライマリボリュームを示しています。この構成は、Asynchronous Replication に障害が発生した場合に、オンサイトデータのバックアップ用に Local Replication を使用できるようになり、また、Local Replication に障害が発生した場合は、Asynchronous Replication を使用して Local Replication ペアのプライマリボリュームのリモートバックアップを提供できます。

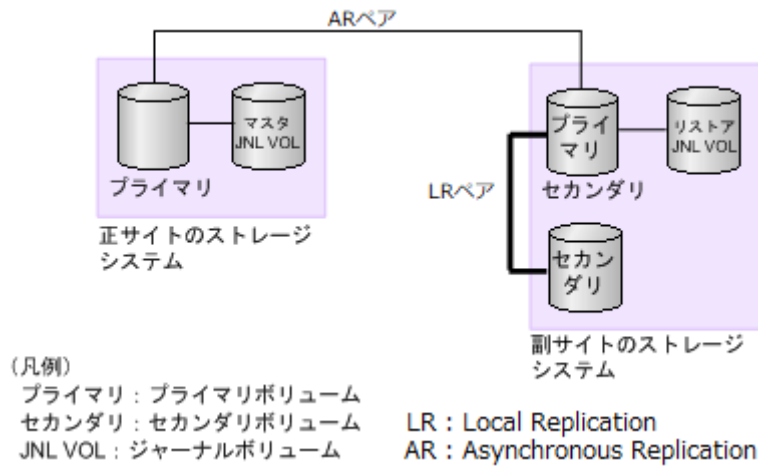


- 次の図は、Local Replication ペアのプライマリボリュームと Asynchronous Replication ペアのセカンダリボリュームを共有する例を示しています。この構成によって、Local Replication を使用して 1 つの Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームの複数のバックアップコピーを副サイトのストレージシステムに作成できます。

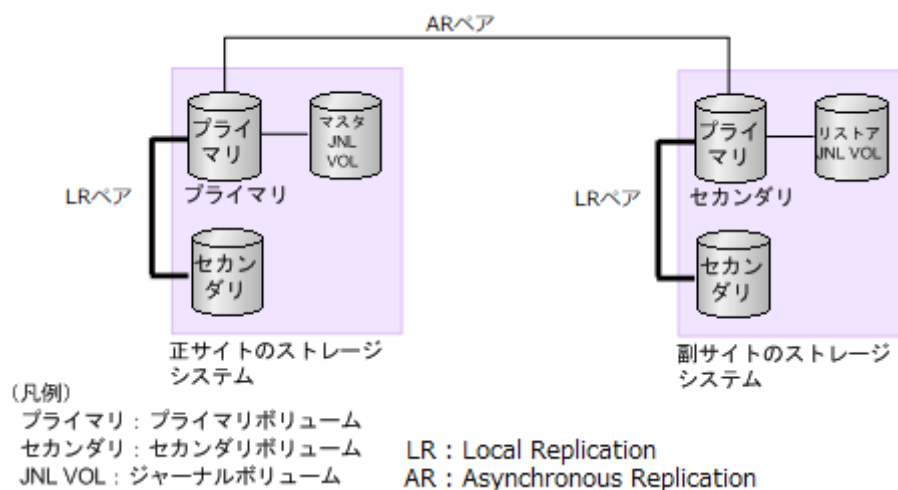
⚠ 注意

次の図のように Asynchronous Replication のセカンダリボリュームと Local Replication のプライマリボリュームを共有する場合、Asynchronous Replication のセカンダリボリュームにリストアする処理に時間が掛かります。特に Local Replication ペアが PSUS(SP)/PSUS 状態のときは、Local Replication ペアのコピー処理の分だけ余計に時間が掛かることがあります。

なお、ジャーナルボリュームのサイズが小さいと、ジャーナルボリュームの容量が足りなくなり、Asynchronous Replication ペアが障害サスペンドになるおそれがあります。



- 次の図は、Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームと Local Replication ペアのプライマリボリュームを共有し Asynchronous Replication ペアのセカンダリボリュームと Local Replication ペアのプライマリボリュームを共有する例を示しています。この構成で、正サイトのストレージシステムと副サイトのストレージシステムで Local Replication ペアのプライマリボリュームの複数のコピーを作成できるようになります。



Local Replication ペアのプライマリボリュームを共有するこれらの構成では、Local Replication ペアのプライマリボリュームの状態が RCPY のときは、Asynchronous Replication ペアを削除する操作しかできません。Local Replication ペアのプライマリボリュームの状態に応じた Asynchronous Replication ペアの操作可否を次の表に示します。

Local Replication ペアのプライマリボリュームの状態	Asynchronous Replication ペアの操作						
	作成	分割		再同期		削除	正サイトと副サイト間での業務ボリュームの切り替え (horctakeover)
		P-VOL 指定	S-VOL 指定	P-VOL 指定	S-VOL 指定		
COPY	○※	○	○	○	○	○	

Local Replication ペアのプライマリボリュームの状態	Asynchronous Replication ペアの操作						
	作成	分割		再同期		削除	正サイトと副サイト間での業務ボリュームの切り替え (horctakeover)
		P-VOL 指定	S-VOL 指定	P-VOL 指定	S-VOL 指定		
PAIR	○※	○	○	○	○	○	○
PSUS(SP)	○※	○	○	○	○	○	○
PSUS PSUE	○※	○	○	○	○	○	○
RCPY	×	×	×	×	×	○	×

注※

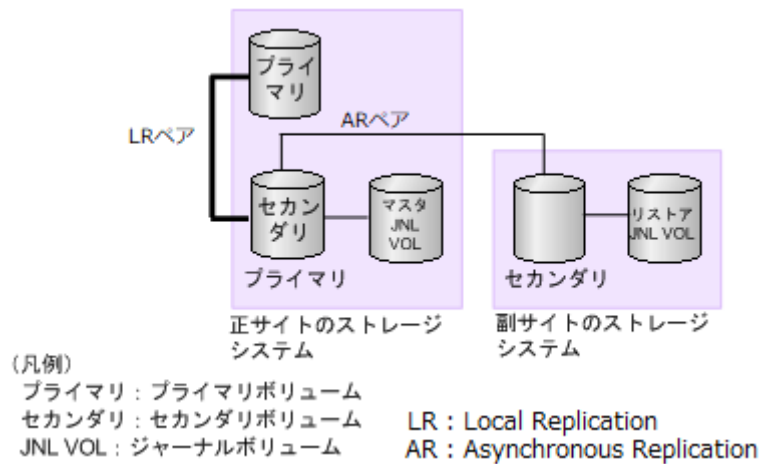
Asynchronous Replication ペアを作成する対象のボリュームの、コピー元/コピー先のどちらも DP-VOL 属性で、かつコピー先のボリュームが Local Replication/Volume Migration のプライマリボリュームに設定されている場合、Asynchronous Replication ペアを作成できません。いったん Local Replication/Volume Migration のペアを解除して、Asynchronous Replication ペアを作成してください。その後、Local Replication/Volume Migration のペアを再作成してください。

(凡例)

- : Asynchronous Replication ペアを操作できる。
- × : Asynchronous Replication ペアを操作できない。

C.3 Local Replication ペアのセカンダリボリュームと Asynchronous Replication ペアのプライマリボリュームを共有する構成

下記の図は、業務ボリュームとして使用する Local Replication ペアのプライマリボリュームの例を示しています。Asynchronous Replication によって Local Replication ペアのセカンダリボリュームのリモートバックアップコピーが作成されます。



この構成では、Asynchronous Replication ペアを作成する前に、Local Replication ペアを PAIR 状態にしたあと分割して、PSUS 状態にする必要があります。Local Replication ペアのセカンダリボリュームの状態に応じた Asynchronous Replication ペアの操作可否を次の表に示します。

Local Replication ペアのセカンダリボリュームの状態	Asynchronous Replication ペアの操作						
	作成	分割		再同期		削除	正サイトと副サイト間での業務ボリュームの切り替え (horctakeover)
		P-VOL 指定	S-VOL 指定	P-VOL 指定	S-VOL 指定		
COPY	×	×	×	×	×	○	×
PAIR	×	×	×	×	×	○	×
PSUS(SP)	×	×	×	×	×	○	×
PSUS	○	○	○	○	×	○	×
PSUE	○	○	○	×	×	○	×
RCPY	×	×	×	×	×	○	×

(凡例)

- ：Asynchronous Replication ペアを操作できる。
- ×

注※

Local Replication のセカンダリボリュームの内容が保証されていない状態のため、Asynchronous Replication の再同期はできません。

C.4 Asynchronous Replication ペアと Local Replication のペアの状態について

関連リンク

参照先トピック

[Asynchronous Replication と Local Replication の共有ボリュームのペアの状態の確認方法](#) (171 ページ)

[Asynchronous Replication ペアと Local Replication のペアの状態と共有ボリュームのデータの状態の関係](#) (171 ページ)

C.4.1 Asynchronous Replication と Local Replication の共有ボリュームのペアの状態の確認方法

Asynchronous Replication と Local Replication の共有ボリュームのペアの状態を次のように確認してください。

- Asynchronous Replication のプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームについて照会すると、Asynchronous Replication ペアの状態がホストに報告されます。
- Local Replication ペアのプライマリボリュームについて照会すると、Local Replication ペアの状態がホストに報告されます。

C.4.2 Asynchronous Replication ペアと Local Replication のペアの状態と共有ボリュームのデータの状態の関係

次の表は、共有ボリュームにあるデータが最新のものかどうかを、組み合わせの状態で表しています。

Asynchronous Replication ペアの状態	Local Replication のペアの状態					
	COPY(PD)/COPY	PAIR	COPY(SP)/COPY	PSUS	COPY(RS)/COPY、COPY(RS-R)/RCPY	PSUE
COPY	×	×	×	○	×	×
PAIR	×	×	×	○	×	×
PSUS/PSUE	×	○	○	○	○	×

(凡例)

○：データが最新である。

×

付録 D. このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

D.1 操作対象リソースについて

このマニュアルで説明している機能を使用するときには、各操作対象のリソースが特定の条件を満たしている必要があります。

各操作対象のリソースの条件については『システム構築ガイド』を参照してください。

D.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルで使用している表記を次の表に示します。

表記	製品名
DP	Dynamic Provisioning
AM	Active Mirror
SR	Synchronous Replication
AR	Asynchronous Replication

D.3 このマニュアルで使用している略語

このマニュアルで使用している略語を次の表に示します。

略語	フルスペル
bps	Bit Per Second
CTG	Consistency Group
CU	Control Unit
FC	Fibre Channel
I/O	Input/Output
ID	Identifier
IMPL	Initial MicroProgram Load
IOPS	Input Output Per Second
iSCSI	Internet Small Computer System Interface
LDEV	Logical DEvice
LDKC	Logical DKC
LU	Logical Unit
LUN	Logical Unit Number
MB/s	MegaByte per second

略語	フルスペル
MCU	Main Control Unit
NVS	Non-Volatile Storage
OS	Operating System
RCU	Remote Control Unit
RIO MIH	Remote I/O Missing Interrupt Handler
RPO	Recovery Point Objective
SIM	Service Information Message
SNMP	Simple Network Management Protocol
SSD	Solid-State Drive
TSV	Tab Separated Values

D.4 KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）、1MB（メガバイト）、1GB（ギガバイト）、1TB（テラバイト）、1PB（ペタバイト）は、それぞれ 1KiB（キビバイト）、1MiB（メビバイト）、1GiB（ギビバイト）、1TiB（テビバイト）、1PiB（ペビバイト）と読み替えてください。

1KiB、1MiB、1GiB、1TiB、1PiB は、それぞれ 1,024 バイト、1,024KiB、1,024MiB、1,024GiB、1,024TiB です。

1block（ブロック）は 512 バイトです。

用語集

ADP

(Advanced Dynamic Provisioning)

パリティグループを構成する各ドライブの領域を複数の領域に分割して、各ドライブ内の分割された領域の 1 つを、スペア用の領域として使用します。これにより、リビルド I/O、または Correction I/O を分散できるため、リビルド時間が短縮できます。

ADP 用のパリティグループ

ADP 機能が有効なパリティグループのことです。

ALUA

(Asymmetric Logical Unit Access)

SCSI の非対称論理ユニットアクセス機能です。

ストレージ同士、またはサーバとストレージシステムを複数の冗長パスで接続している構成の場合に、どのパスを優先して使用するかをストレージシステムに定義して、I/O を発行できます。優先して使用するパスに障害が発生した場合は、他のパスに切り替わります。

bps

(bits per second)

データ転送速度の標準規格です。

CHAP

(Challenge Handshake Authentication Protocol)

認証方式のひとつ。ネットワーク上でやり取りされる認証情報はハッシュ関数により暗号化されるため、安全性が高いです。

CHB

(Channel Board)

詳しくは「チャネルボード」を参照してください。

Child

Snapshot Advanced の用語で、Parent のメタデータを共有する先のペアまたはボリュームを指します。

Family 内に vClone 属性のボリュームが存在しない場合、ルートボリュームと同じスナップショットツリーに属するペアまたはボリュームが該当します。

Family 内に vClone 属性のボリュームが存在する場合、vClone Parent 属性のボリュームと同じスナップショットツリーに属するペアまたはボリューム、同一 Family 内の vClone 属性のボリューム、同一 Family 内の vClone 属性のボリュームと同じスナップショットツリーに属するペアまたはボリュームが該当します。

CM

(Cache Memory (キャッシュメモリ))

詳しくは「キャッシュ」を参照してください。

CNA

(Converged Network Adapter)

HBA と NIC を統合したネットワークアダプタ。

CRC

(Cyclic Redundancy Check)

巡回冗長検査。コンピュータデータに対し、偶発的変化を検出するために設計された誤り訂正符号。

CSV

(Comma Separate Values)

データベースソフトや表計算ソフトのデータをファイルとして保存するフォーマットの 1 つで、主にアプリケーション間のファイルのやり取りに使われます。それぞれの値はコンマで区切られています。

CTG

(Consistency Group)

詳しくは「コンシステンシーグループ」を参照してください。

CU

(Control Unit (コントロールユニット))

主に磁気ディスク制御装置を指します。

CV

(Customized Volume)

任意のサイズが設定された可変ボリュームです。

DKB

(Disk Board SAS)

SAS ドライブとキャッシュメモリ間のデータ転送を制御するモジュールです。

DKBN

(Disk Board NVMe)

NVMe ドライブとキャッシュメモリ間のデータ転送を制御するモジュールです。

DKC

(Disk Controller)

ストレージシステムを制御するコントローラが備わっているシャーシ（筐体）です。

DKU

各種ドライブを搭載するためのシャーシ（筐体）です。

DB(Drive Box)と同義語となります。

DP-VOL

詳しくは「仮想ボリューム」を参照してください。

ECC

(Error Check and Correct)

ハードウェアで発生したデータの誤りを検出し、訂正することです。

ENC

ドライブボックスに搭載され、コントローラシャーシまたは他のドライブボックスとのインタフェース機能を有します。

ESM

(Embedded Storage Manager)

iStorage V110,V310,V310F における管理系ソフトウェアです。

ESMOS

(Embedded Storage Manager Operating System)

ESM を動作させるための OS や OSS を含んだファームウェアです。

ExG

(External Group)

外部ボリュームを任意にグループ分けしたものです。詳しくは「外部ボリュームグループ」を参照してください。

Failover

故障しているものと機能的に同等のシステムコンポーネントへの自動的置換。

この Failover という用語は、ほとんどの場合、同じストレージデバイスおよびホストコンピュータに接続されているインテリジェントコントローラに適用されます。

コントローラのうちの 1 つが故障している場合、Failover が発生し、残っているコントローラがその I/O 負荷を引き継ぎます。

Family

Snapshot Advanced の用語で、メタデータを共有する Parent（メタデータ共有元となるボリューム）と Child（Parent のメタデータ共有するペアまたはボリューム）の群れを指します。

FC

(Fibre Channel)

ストレージシステム間のデータ転送速度を高速にするため、光ケーブルなどで接続できるようにするインタフェースの規格のことです。

FM

(Flash Memory（フラッシュメモリ）)

詳しくは「フラッシュメモリ」を参照してください。

GID

(Group ID)

ホストグループを作成するときに付けられる 2 桁の 16 進数の識別番号です。

GUI

(Graphical User Interface)

コンピュータやソフトウェアの表示画面をウィンドウや枠で分け、情報や操作の対象をグラフィック要素を利用して構成するユーザインタフェース。マウスなどのポインティングデバイスで操作することを前提に設計されます。

HA Storage Manager Embedded

ストレージシステムの構成やリソースを操作するシンプルな GUI の管理ツールです。

HA Storage Manager Embedded の API

リクエストラインに `simple` を含む REST API です。

ストレージシステムの情報取得や構成変更することができます。

HBA

(Host Bus Adapter)

詳しくは「ホストバスアダプタ」を参照してください。

I/O モード

Active Mirror ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームが、それぞれに持つ I/O の動作です。

I/O レート

ドライブへの入出力アクセスが 1 秒間に何回行われたかを示す数値です。単位は IOPS (I/Os per second) です。

In-Band 方式

RAID Manager のコマンド実行方式の 1 つです。コマンドを実行すると、管理ツールの操作端末またはサーバから、ストレージシステムのコマンドデバイスにコマンドが転送されます。

Initiator

属性が RCU Target のポートと接続するポートが持つ属性です。

iSNS

(Internet Storage Naming Service)

iSCSI デバイスで使われる、自動検出、管理および構成ツールです。

iSNS によって、イニシエータおよびターゲット IP アドレスの特定リストで個々のストレージシステムを手動で構成する必要がなくなります。代わりに、iSNS は、環境内のすべての iSCSI デバイスを自動的に検出、管理および構成します。

LACP

(Link Aggregation Control Protocol)

複数回線を 1 つの論理的な回線として扱うための制御プロトコル。

LAN ボード

コントローラシャーシに搭載され、ストレージシステムの管理とのインタフェース機能を有するモジュールです。

LDEV

(Logical Device (論理デバイス))

RAID 技術では冗長性を高めるため、複数のドライブに分散してデータを保存します。この複数のドライブにまたがったデータ保存領域を論理デバイスまたは LDEV と呼びます。ストレージ内の LDEV は、LDKC 番号、CU 番号、LDEV 番号の組み合わせで区別します。LDEV に任意の名前を付けることもできます。

このマニュアルでは、LDEV (論理デバイス) を論理ボリュームまたはボリュームと呼ぶことがあります。

LDEV 名

LDEV 作成時に、LDEV に付けるニックネームです。あとから LDEV 名の変更もできます。

LDKC

(Logical Disk Controller)

複数の CU を管理するグループです。各 CU は 256 個の LDEV を管理しています。

LUN

(Logical Unit Number)

論理ユニット番号です。オープンシステム用のボリュームに割り当てられたアドレスです。オープンシステム用のボリューム自体を指すこともあります。

LUN セキュリティ

LUN に設定するセキュリティです。LUN セキュリティを有効にすると、あらかじめ決めておいたホストだけがボリュームにアクセスできるようになります。

LUN パス、LU パス

オープンシステム用ホストとオープンシステム用ボリュームの間を結ぶデータ入出力経路です。

MP ユニット

データ入出力を処理するプロセッサを含んだユニットです。データ入出力に関連するリソース（LDEV、外部ボリューム、ジャーナル）ごとに特定の MP ユニットの割り当てると、性能をチューニングできます。特定の MP ユニットの割り当ての方法と、ストレージシステムが自動的に選択した MP ユニットの割り当ての方法があります。MP ユニットに対して自動割り当ての設定を無効にすると、その MP ユニットがストレージシステムによって自動的にリソースに割り当てられることはないため、特定のリソース専用の MP ユニットとして使用できます。

MU

(Mirror Unit)

1 つのプライマリボリュームと 1 つのセカンダリボリュームを関連づける情報です。

NVM

(Non-Volatile Memory)

不揮発性メモリです。

NVMe

(Non-Volatile Memory Express)

PCI Express を利用した SSD の接続インタフェース、通信プロトコルです。

Out-of-Band 方式

RAID Manager のコマンド実行方式の 1 つです。コマンドを実行すると、クライアントまたはサーバから LAN 経由で ESM/RAID Manager サーバの中にある仮想コマンドデバイスにコマンドが転送されます。仮想コマンドデバイスからストレージシステムに指示を出し、ストレージシステムで処理が実行されます。

Parent

Snapshot Advanced の用語で、メタデータの共有元となるボリュームを指します。

Family 内に vClone 属性のボリュームが存在しない場合、ルートボリュームが該当します。Family 内に vClone 属性のボリュームが存在する場合、vClone Parent 属性のボリュームが該当します。

PCB

(Printed Circuit Board)

プリント基盤です。このマニュアルでは、コントローラボードやチャネルボード、ディスクボードなどのボードを指しています。

Point to Point

2 点を接続して通信するトポロジです。

Quorum ディスク

パスやストレージシステムに障害が発生したときに、Active Mirror ペアのどちらのボリュームでサーバからの I/O を継続するのかを決めるために使われます。外部ストレージシステムに設置します。

RAID

(Redundant Array of Independent Disks)

独立したディスクを冗長的に配列して管理する技術です。

RAID Manager

コマンドインタフェースでストレージシステムを操作するためのプログラムです。

RCU Target

属性が Initiator のポートと接続するポートが持つ属性です。

Read Hit 率

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。ホストがディスクから読み出そうとしていたデータが、どのくらいの頻度でキャッシュメモリに存在していたかを示します。単位はパーセントです。Read Hit 率が高くなるほど、ディスクとキャッシュメモリ間のデータ転送の回数が少なくなるため、処理速度は高くなります。

SAN

(Storage-Area Network)

ストレージシステムとサーバ間を直接接続する専用の高速ネットワークです。

SAS ケーブル

コントローラシャーシとドライブボックス間、ドライブボックスとドライブボックス間を接続するためのケーブルです。

SIM

(Service Information Message)

ストレージシステムのコントローラがエラーやサービス要求を検出したときに生成されるメッセージです。

SM

(Shared Memory)

詳しくは「シェアドメモリ」を参照してください。

SNMP

(Simple Network Management Protocol)

ネットワーク管理するために開発されたプロトコルの 1 つです。

SSL

(Secure Sockets Layer)

インターネット上でデータを安全に転送するためのプロトコルであり、Netscape Communications 社によって最初に開発されました。SSL が有効になっている 2 つのピア (装置) は、秘密鍵と公開鍵を利用して安全な通信セッションを確立します。どちらのピア (装置) も、ランダムに生成された対称キーを利用して、転送されたデータを暗号化します。

T10 PI

(T10 Protection Information)

SCSI で定義された保証コード基準の一つです。T10 PI では、512 バイトごとに 8 バイトの保護情報 (PI) を追加して、データの検証に使用します。T10 PI にアプリケーションおよび OS を含めたデータ保護を実現する DIX (Data Integrity Extension) を組み合わせることで、アプリケーションからディスクドライブまでのデータ保護を実現します。

Target

ホストと接続するポートが持つ属性です。

UPS

(Uninterruptible Power System)

ストレージシステムが停電や、瞬停のときでも停止しないようにするために搭載してある予備の電源のことです。

URL

(Uniform Resource Locator)

リソースの場所や種類の両方を記載しているインターネット上の住所を記述する標準方式です。

UUID

(User Definable LUN ID)

ホストから論理ボリュームを識別するために、ストレージシステム側で設定する任意の ID です。

vClone Parent 属性のボリューム

Snapshot Advanced の用語で、Family 内に vClone 属性のボリュームが存在する場合、そのメタデータの共有元になるボリュームを指します。

vClone 属性のボリューム

Snapshot Advanced の用語で、仮想クローン作成によって取得したスナップショットデータを格納するボリュームを指します。

VDEV

(Virtual Device)

パリティグループ内にある論理ボリュームのグループです。VDEV 内に任意のサイズのボリューム (CV) を作成することができます。

VLAN

(Virtual LAN)

スイッチの内部で複数のネットワークに分割する機能です (IEEE802.1Q 規定)。

VOLSER

(Volume Serial Number)

個々のボリュームを識別するために割り当てられる番号です。VSN とも呼びます。LDEV 番号や LUN とは無関係です。

Windows

Microsoft Windows Operating System

Write Hit 率

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。ホストがディスクへ書き込もうとしていたデータが、どのくらいの頻度でキャッシュメモリに存在していたかを示します。単位はパーセントです。Write Hit 率が高くなるほど、ディスクとキャッシュメモリ間のデータ転送の回数が少なくなるため、処理速度は高くなります。

WWN

(World Wide Name)

ホストバスアダプタの ID です。ストレージ装置を識別するためのもので、実体は 16 桁の 16 進数です。

アクセス属性

ボリュームが読み書き可能になっているか (Read/Write)、読み取り専用になっているか (Read Only)、それとも読み書き禁止になっているか (Protect) どうかを示す属性です。

アクセスパス

ストレージシステム内の、データとコマンドの転送経路です。

エミュレーション

あるハードウェアまたはソフトウェアのシステムが、ほかのハードウェアまたはソフトウェアのシステムと同じ動作をすること（または同等に見えるようにすること）です。一般的には、過去に蓄積されたソフトウェアの資産を役立てるためにエミュレーションの技術が使われます。

外部ストレージシステム

本ストレージシステムに接続されているストレージシステムです。

外部パス

本ストレージシステムと外部ストレージシステムを接続するパスです。外部パスは、外部ボリュームを内部ボリュームとしてマッピングしたときに設定します。複数の外部パスを設定することで、障害やオンラインの保守作業にも対応できます。

外部ボリューム

外部ボリュームグループに作成した LDEV のことです。マッピングした外部ストレージシステムのボリュームを実際にホストや他プログラムプロダクトから使用するためには、外部ボリュームグループに LDEV を作成する必要があります。

外部ボリュームグループ

外部ストレージシステムのボリュームをマッピングしている、本ストレージシステム内の仮想的なボリュームです。

外部ボリュームグループはパリティ情報を含みませんが、管理上はパリティグループと同じように扱います。

書き込み待ち率

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。キャッシュメモリに占める書き込み待ちデータの割合を示します。

仮想ボリューム

実体を持たない、仮想的なボリュームです。Dynamic Provisioning で使用する仮想ボリュームを DP-VOL と呼びます。

監査ログ

ストレージシステムに対して行われた操作や、受け取ったコマンドの記録です。Syslog サーバへの転送設定をすると、監査ログは常時 Syslog サーバへ転送され、Syslog サーバから監査ログを取得・参照できます。

管理ツールの操作端末

ストレージシステムを操作するためのコンピュータです。

キャッシュ

チャネルとドライブの間にあるメモリです。中間バッファとしての役割があります。キャッシュメモリとも呼ばれます。

共用メモリ

詳しくは「シェアドメモリ」を参照してください。

クラスタ

ディスクセクターの集合体です。OS は各クラスタに対しユニークナンバーを割り当てし、それらがどのクラスタを使うかに応じて、ファイルの経過記録をとります。

形成コピー

ホスト I/O プロセスとは別に、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを同期させるプロセスです。

更新コピー

形成コピー（または初期コピー）が完了したあとで、プライマリボリュームの更新内容をセカンダリボリュームにコピーして、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの同期を保持するコピー処理です。

コピー系プログラムプロダクト

このストレージシステムに備わっているプログラムのうち、データをコピーするものを指します。ストレージシステム内のボリューム間でコピーするローカルコピーと、異なるストレージシステム間でコピーするリモートコピーがあります。

コマンドデバイス

ホストから RAID Manager コマンドを実行するために、ストレージシステムに設定する論理デバイスです。コマンドデバイスは、ホストから RAID Manager コマンドを受け取り、実行対象の論理デバイスに転送します。

Out-of-band 方式で接続された RAID Manager、もしくは内蔵 CLI を用いて設定してください。

コマンドデバイスセキュリティ

コマンドデバイスに適用されるセキュリティです。

コンシステンシーグループ

コピー系プログラムプロダクトで作成したペアの集まりです。コンシステンシーグループ ID を指定すれば、コンシステンシーグループに属するすべてのペアに対して、データの整合性を保ちながら、特定の操作を同時に実行できます。

サーバ証明書

サーバと鍵ペアを結び付けるものです。サーバ証明書によって、サーバは自分がサーバであることをクライアントに証明します。これによってサーバとクライアントは SSL を利用して通信できるようになります。サーバ証明書には、自己署名付きの証明書と署名付きの信頼できる証明書の 2 つの種類があります。

差分テーブル

コピー系プログラムプロダクトおよび Volume Migration で共有するリソースです。Volume Migration 以外のプログラムプロダクトでは、ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのデータに差分があるかどうかを管理するために使用します。Volume Migration では、ボリュームの移動中に、ソースボリュームとターゲットボリュームの差分を管理するために使用します。

シェアドメモリ

キャッシュ上に論理的に存在するメモリです。共用メモリとも呼びます。ストレージシステムの共通情報や、キャッシュの管理情報（ディレクトリ）などを記憶します。これらの情報を基に、ストレージシステムは排他制御を行います。また、差分テーブルの情報もシェアドメモリで管理されており、コピーペアを作成する場合にシェアドメモリを利用します。

自己署名付きの証明書

自分自身で自分用の証明書を生成します。この場合、証明の対象は証明書の発行者と同じになります。ファイアウォールに守られた内部 LAN 上でクライアントとサーバ間の通信が行われている場合は、この証明書でも十分なセキュリティを確保できるかもしれません。

システムプールボリューム、システムプール VOL

プールを構成するプールボリュームのうち、1つのプールボリュームがシステムプールボリュームとして定義されます。システムプールボリュームは、プールを作成したとき、またはシステムプールボリュームを削除したときに、優先順位に従って自動的に設定されます。なお、システムプールボリュームで使用可能な容量は、管理領域の容量を差し引いた容量になります。管理領域とは、プールを使用するプログラムプロダクトの制御情報を格納する領域です。

ジャーナルボリューム

Asynchronous Replication の用語で、プライマリボリュームからセカンダリボリュームにコピーするデータを一時的に格納しておくためのボリュームのことです。ジャーナルボリュームには、プライマリボリュームと関連づけられているマスタジャーナルボリューム、およびセカンダリボリュームと関連づけられているリストアジャーナルボリュームとがあります。

シュレディング

ダミーデータを繰り返し上書きすることで、ボリューム内のデータを消去する処理です。

詳細 API

リクエストラインに **simple** を含まない REST API です。ストレージシステムの情報取得や構成変更することができます。

本マニュアルの 05 版以前では、「REST API」と表記しています。

冗長パス

チャネルプロセッサの故障などによって LUN パスが利用できなくなったときに、その LUN パスに代わってホスト I/O を引き継ぐ LUN パスです。交替パスとも言います。

初期コピー

新規にコピーペアを作成すると、初期コピーが開始されます。初期コピーでは、プライマリボリュームのデータがすべて相手のセカンダリボリュームにコピーされます。初期コピー中も、ホストサーバからプライマリボリュームに対する Read/Write などの I/O 操作は続行できます。

署名付きの信頼できる証明書

証明書発行要求を生成したあとで、信頼できる CA 局に送付して署名してもらいます。CA 局の例としては VeriSign 社があります。

シリアル番号

ストレージシステムに一意に付けられたシリアル番号（装置製番）です。

スナップショットグループ

Snapshot Advanced で作成した複数のペアの集まりです。複数のペアに対して同じ操作を実行できます。

スナップショットデータ

Snapshot Advanced では、特定時点のデータの複製のことを指します。

スペアドライブ

通常リード、ライトが行われるドライブとは別に搭載されているドライブを指し、1 台のドライブに故障が発生したとき、そのドライブに記憶されていたデータがスペアドライブにコピーされることで、システムとしては元と同様に使用できます。

正 VOL、正ボリューム

詳しくは「プライマリボリューム」を参照してください。

正サイト

通常時に、業務（アプリケーション）を実行するサイトを指します。

セカンダリボリューム

ペアとして設定された 2 つのボリュームのうち、コピー先のボリュームを指します。なお、プライマリボリュームとペアを組んでいるボリュームをセカンダリボリュームと呼びますが、Snapshot Advanced では、セカンダリボリューム（仮想ボリューム）ではなく、プールにデータが格納されます。

センス情報

エラーの検出によってペアがサスペンドされた場合に、正サイトまたは副サイトのストレージシステムが、適切なホストに送信する情報です。ユニットチェックの状況が含まれ、災害復旧に使用されます。

ソースボリューム

Volume Migration の用語で、別のパリティグループへと移動するボリュームを指します。

ゾーニング

ホストとリソース間トラフィックを論理的に分離します。ゾーンに分けることにより、処理は均等に分散されます。

ターゲットボリューム

Volume Migration の用語で、ボリュームの移動先となる領域を指します。

チャネルボード

ストレージシステムに内蔵されているアダプタの一種で、ホストコマンドを処理してデータ転送を制御します。

重複排除用システムデータボリューム（データストア）

容量削減の設定が重複排除および圧縮の仮想ボリュームが関連づけられているプール内で、重複データを格納するためのボリュームです。

重複排除用システムデータボリューム（フィンガープリント）

容量削減の設定が重複排除および圧縮の仮想ボリュームが関連づけられているプール内で、重複排除データの制御情報を格納するためのボリュームです。

通常ボリューム

仮想ボリュームを除く内部ボリュームまたは外部ボリューム（Universal Volume Manager を使用して外部ストレージシステムのボリュームをマッピングしたボリューム）です。

ディスクボード

ストレージシステムに内蔵されているアダプタの一種で、キャッシュとドライブの間のデータ転送を制御します。

データ削減共有ボリューム

データ削減共有ボリュームは、Adaptive Data Reduction の容量削減機能を使用して作成する仮想ボリュームです。Snapshot Advanced ペアのボリュームとして使用できます。データ削減共有ボリュームは、Redirect-on-Write のスナップショット機能を管理するための制御データ（メタデータ）を持つボリュームです。

転送レート

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。1 秒間にディスクへ転送されたデータの大きさを示します。

同期コピー

ホストからプライマリボリュームに書き込みがあった場合に、リアルタイムにセカンダリボリュームにデータを反映する方式のコピーです。ボリューム単位の実タイムデータバックアップができます。優先度の高いデータのバックアップ、複写、および移動業務に適しています。

トポロジ

デバイスの接続形態です。Fabric、FC-AL、および Point-to-point の 3 種類があります。

ドライブボックス

各種ドライブを搭載するためのシャーシ（筐体）です。

内部ボリューム

本ストレージシステムが管理するボリュームを指します。

パリティグループ

同じ容量を持ち、1 つのデータグループとして扱われる一連のドライブを指します。パリティグループには、ユーザデータとパリティ情報の両方が格納されているため、そのグループ内の 1 つまたは複数のドライブが利用できない場合にも、ユーザデータにはアクセスできます。

場合によっては、パリティグループを RAID グループ、ECC グループ、またはディスクアレイグループと呼ぶことがあります。

パリティドライブ

RAID5 を構成するときに、1 つの RAID グループの中で 1 台のドライブがパリティドライブとなり、残りのドライブがデータドライブとなります。パリティドライブには複数台のデータドライブのデータから計算されたデータが記憶されます。これにより 1 つの RAID グ

ループ内で 1 台のドライブが故障した場合でも、パリティドライブから再計算することでデータを損なわずにストレージシステムを使用できます。

RAID6 を構成するときに、1 つの RAID グループの中で 2 台のドライブがパリティドライブとなり、残りのドライブがデータドライブとなります。パリティドライブには複数台のデータドライブのデータから計算されたデータが記憶されます。これにより 1 つの RAID グループ内で 2 台のドライブが故障した場合でも、パリティドライブから再計算することでデータを損なわずにストレージシステムを使用できます。

非 ADP 用のパリティグループ

ADP 機能が無効なパリティグループのことです。

非対称アクセス

Active Mirror でのクロスパス構成など、サーバとストレージシステムを複数の冗長パスで接続している場合で、ALUA が有効のときに、優先して I/O を受け付けるパスを定義する方法です。

非同期コピー

ホストから書き込み要求があった場合に、プライマリボリュームへの書き込み処理とは非同期に、セカンダリボリュームにデータを反映する方式のコピーです。複数のボリュームや複数のストレージシステムにわたる大量のデータに対して、災害リカバリを可能にします。

ピントラック

(pinned track)

物理ドライブ障害などによって読み込みや書き込みができないトラックです。固定トラックとも呼びます。

ファームウェア

ストレージシステムで、ハードウェアの基本的な動作を制御しているプログラムです。

ファイバチャネル

光ケーブルまたは銅線ケーブルによるシリアル伝送です。ファイバチャネルで接続された RAID のディスクは、ホストからは SCSI のディスクとして認識されます。

プール

プールボリューム（プール VOL）を登録する領域です。Dynamic Provisioning、および Snapshot Advanced がプールを使用します。

プールボリューム、プールVOL

プールに登録されているボリュームです。Dynamic Provisioning ではプールボリュームに通常のデータを格納します。

副VOL、副ボリューム

詳しくは「セカンダリボリューム」を参照してください。

副サイト

主に障害時に、業務（アプリケーション）を正サイトから切り替えて実行するサイトを指します。

プライマリボリューム

ペアとして設定された2つのボリュームのうち、コピー元のボリュームを指します。

フラッシュメモリ

各プロセッサに搭載され、ソフトウェアを格納している不揮発性のメモリです。

分散パリティグループ

複数のパリティグループを連結させた集合体です。分散パリティグループを利用すると、ボリュームが複数のドライブにわたるようになるので、データのアクセス（特にシーケンシャルアクセス）にかかる時間が短縮されます。

ペア

データ管理目的として互いに関連している2つのボリュームを指します（例、レプリケーション、マイグレーション）。ペアは通常、お客様の定義によりプライマリもしくはソースボリューム、およびセカンダリもしくはターゲットボリュームで構成されます。

ペア状態

ペアオペレーション前後にボリュームペアに割り当てられた内部状態。ペアオペレーションが実行されている、もしくは結果として障害となっているときにペア状態は変化します。ペア状態はコピーオペレーションを監視し、およびシステム障害を検出するために使われます。

ペアテーブル

ペアを管理するための制御情報を格納するテーブルです。

ページ

DP の領域を管理する単位です。1 ページは 42MB です。

ポートモード

ストレージシステムのチャネルボードのポート上で動作する、通信プロトコルを選択するモードです。ポートの動作モードとも言います。

ホストグループ

ストレージシステムの同じポートに接続し、同じプラットフォーム上で稼働しているホストの集まりのことです。あるホストからストレージシステムに接続するには、ホストをホストグループに登録し、ホストグループを LDEV に結び付けます。この結び付ける操作のことを、LUN パスを追加するとも呼びます。

ホストグループ 0（ゼロ）

「00」という番号が付いているホストグループを指します。

ホストデバイス

ホストに提供されるボリュームです。HDEV（Host Device）とも呼びます。

ホストバスアダプタ

オープンシステム用ホストに内蔵されているアダプタで、ホストとストレージシステムを接続するポートの役割を果たします。それぞれのホストバスアダプタには、16 桁の 16 進数による ID が付いています。ホストバスアダプタに付いている ID を WWN（Worldwide Name）と呼びます。

ホストモード

オープンシステム用ホストのプラットフォーム（通常は OS）を示すモードです。

マッピング

本ストレージシステムから外部ボリュームを操作するために必要な管理番号を、外部ボリュームに割り当てることです。

ラック

電子機器をレールなどで棚状に搭載するフレームのことです。通常幅 19 インチで規定されるものが多く、それらを 19 型ラックと呼んでいます。搭載される機器の高さは EIA 規格で規定され、ボルトなどで機器を固定するためのネジ穴が設けられています。

リザーブボリューム

Local Replication のセカンダリボリュームに使用するために確保されているボリューム、または Volume Migration の移動先として確保されているボリュームを指します。

リソースグループ

ストレージシステムのリソースを割り当てたグループを指します。リソースグループに割り当てられるリソースは、LDEV 番号、パリティグループ、外部ボリューム、ポートおよびホストグループ番号です。

リモートコマンドデバイス

外部ストレージシステムのコマンドデバイスを、本ストレージシステムの内部ボリュームとしてマッピングしたものです。リモートコマンドデバイスに対して RAID Manager コマンドを発行すると、外部ストレージシステムのコマンドデバイスに RAID Manager コマンドを発行でき、外部ストレージシステムのペアなどを操作できます。

リモートストレージシステム

ローカルストレージシステムと接続しているストレージシステムを指します。

リモートパス

リモートコピー実行時に、遠隔地にあるストレージシステム同士を接続するパスです。

リンクアグリゲーション

複数のポートを集約して、仮想的にひとつのポートとして使う技術です。

これによりデータリンクの帯域幅を広げるとともに、ポートの耐障害性を確保します。

レスポンスタイム

モニタリング期間内での平均の応答時間。あるいは、エクスポートツール 2 で指定した期間内でのサンプリング期間ごとの平均の応答時間。単位は、各モニタリング項目によって異なります。

ローカルストレージシステム

管理ツールの操作端末を接続しているストレージシステムを指します。

索引

C

COPY.....75

M

MCU..... 16

P

PAIR.....75

PFUL.....75

PFUS.....76

PSUE.....75

PSUS.....75

R

RCU..... 16

S

SMPL.....75

SSUS.....75

SSWS.....76

か

シェアドメモリ36

さ

システム詳細設定.....40

スイッチ.....48

接続形態.....47

操作ログ.....135

た

チャンネルエクステンダ（ストレージルータ） 49

トラブルシューティング.....127

は

ファイバチャンネル.....46

iStorage V110/V310/V310F
Asynchronous Replication
ユーザガイド

IV-UG-020-004-06

2026 年 7 月 第 6 版 発行

日本電気株式会社

© NEC Corporation 2024-2026